国立大学法人

高知大学国際・地域連携センター

年 報

CRIC

Center For Regional & International Collaboration

Kochi University
October 2011

ごあいさつ

「敬地愛人－地域発展のために」

高知大学副学長　国際・地域連携センター長
受田　浩之

平成17年７月１日に発足した高知大学国際・地域連携センターは、この７月で７年目に入りました。国立大学法人の中期目標・中期計画の１タームに相当する期間を、センタースタッフを始め皆様のお陰で、無事に乗り越えることができました。

この６年間、私たちは「地域の大学」を標榜する高知大学の営業窓口として、大学の敷居を下げ、できる限り地域の皆様に身近な存在になるよう努力をしてきたところです。その成果は、10自治体との連携協定の締結とその後の活発な連携事業の実施、「土佐フードビジネスクリエーター（ＦＢC）」人材創出事業に代表される、地域産業の中核人材育成プラットフォームの構築、さらにはセンターメンバーと自治体や金融機関、産学連携機関などの県内外部機関メンバーが一堂に会した定例（月一回）のセンター連絡会の開催を通じて、地域との「信頼と絆」を強めているところです。さらにこのうねりを加速するために、ちょうど７年目に入る７月１日付けで、旧の「生涯学習部門」を「地域連携・再生部門」に（併せて「産学官民連携部門」を「産学官連携部門」に）改組し、地域、特に自治体との連携強化を図ると共に、地域中核人材創出事業の新規企画と運営（「土佐ＦＢＣ」の実施を先行事例として）を担っていくことに致しました。

それぞれの自治体との連携事業は、地域的特性や自治体の思いの強さによって、その展開やアウトカムが劇的に異なってまいります。これまでの経験から、自治体が具体的な目標を掲げている場合や、特定の課題の克服を明確に重点化している場合に、大学との連携が有効に機能するように感じています。一例として、大豊町の特産物である「碁石茶」の付加価値創出と産業振興への活用に関する連携事業や、黒潮町との「日本カツオ学会」の立ち上げなどが挙げられます。碁石茶は一時、生産者が途絶える危機的な状況にありましたが、その後、町の重点施策により、大学との連携を通じて、付加価値を解明し、併せて生産方法の高位平準化、並びに生産拠点の整備を進めた結果、地域の産業振興の中核へと育ちつつある状況です。また黒潮町では、カツオ資源の枯渇を懸念して、漁師の方々の現場の声を国内及び国際的にも発信していく必要に迫られていたことを受けて、その情報発信の拠点として本学会を協働して立ち上げたものです。まさに「啐啄同時」のタイミングと相互の意識が、連携のカギであると考えられます。今後も、限られた大学の経営資源をできる限り有効に活用できるよう、連携のノウハウを積み上げ、組織的な経験知として蓄積していきたいと存じます。

私たちは、これからも「敬地愛人－地域を敬い、人を愛する」精神を持ち続け、地域発展のために邁進してまいります。様々な課題に対して、高知大学を積極的にご活用頂きますよう、併せてその窓口として、国際・地域連携センターをお気軽にご利用下さいますようお願い申し上げて、ご挨拶とさせて頂きます。

目　次

1．ごあいさつ　副学長・センター長　受田　浩之・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

2．高知大学国際・地域連携センター Infomation（リーフレットより）・・・・・・・・・・ 7

3．‖特集‖
カツオを基幹産業とする黒潮町の地域振興と
地域・大学の相互の発展をはかる連携を創造する・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

4．事業報告・・15

＜生涯学習部門＞

平成 22 年度活動報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

TOPICS ・・・18

① 生涯学習部門の推進体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

② 全国生涯学習フォーラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

③ ４大学県民講座 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

④ ジョイフルコンサートコーチ 2011・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

（1）公開講座 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23

① 秋の公開講座 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23

② 出前公開講座「自然と文化」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26

（２）オープン・クラス（授業を一般市民に公開）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29

（３）高大連携事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

＜産学官民連携部門＞

平成 22 年度活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33

TOPICS ・・・34

① 高知大学と自治体・企業等との連携事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34

② イノベーションジャパン、アグリビジネス創出フェア等の展示会への出展 ・・39

③ シンポジウム、フォーラム等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40

（１）研究成果

多角的活用高品質小麦（夏播き小麦）の安定生産の技術実証とその普及 ・・・・・43

（２）産学官民連携件数等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47

（３）平成 22 年度民間企業等との共同研究一覧・受託研究一覧 ・・・・・・・・・・・48

＜知的財産部門＞

平成 22 年度活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55

TOPICS ・・・56

① 国際・地域連携センター　知的財産部門の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56

② 各種セミナー等取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・58

（１）平成 22 年度発明届の処理状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60

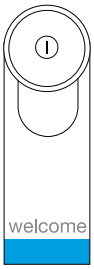
＜国際交流部門＞

平成 22 年度活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61
TOPICS ・・・62
① 中国安徽高等職業教育交流団が訪問 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
② 東南アジア若手研究者による国際ワークショップを開催・・・・・・・・・・・・・・63
③ 東国大学校文科大学（韓国）との学生交流に関する覚書を締結・・・・・・・・・64
④ 高知大学帰国留学生ネットワーク（中国上海　地域）
ホームカミングデー関連事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・65
⑤ 帰国外国人留学生による特別講演会を開催 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68
⑥ 上海海洋大学（中国）との学術交流協定・学生交流に関する覚書を締結・・・・69
⑦ 安徽大学（中国）表敬訪問及び進学説明会を実施・・・・・・・・・・・・・・・・・70
⑧ 日本留学フェア（上海）に参加 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・71
⑨ 第 4 回黒潮圏科学国際シンポジウムを開催 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・72
（1）国際交流のスキーム及びポリシー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73
① 高知大学における国際交流活動のスキーム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73
② 高知大学における国際交流ポリシー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・74
（2）高知大学国際交流基金 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・75
① 高知大学国際交流基金とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・75
② 平成 22 年度　高知大学国際交流基金助成事業の実施状況・・・・・・・・・・・・・75
③ 平成 22 年度　国際交流基金助成事業採択一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・76
④ 平成 22 年度　国際交流基金助成事業採択一覧（奨学事業）・・・・・・・・・・・78
（3）国際交流協定締結校・国際交流活動と評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・80
① 大学間協定一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・80
② 部局間協定一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・81

5．資　料・・83
（1）高知大学国際・地域連携センター規則・同センター職員名簿・・・・・・・・・・85
（2）高知大学国際・地域連携センター運営戦略室規則・同室名簿・・・・・・・・・・90
（3）高知大学国際連携推進委員会規則 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・92
（4）高知大学国際・地域連携センター自治体連携室利用内規 ・・・・・・・・・・・・94
（5）高知大学教育組織図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・95
（6）科学・技術相談申込書(講師紹介・委員会や研修会等、各種相談にも対応)・・・96
（7）高知大学国際・地域連携センターアクセス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 97

敬地愛人「地域発展のために」

Information
高知大学国際・地域連携センター



例えば、こんな相談を……

企業、法人からは

- 技術的な面での専門家のアドバイスがほしい
- 大学と共同研究をしたい
- 知的財産の相談がしたい

地方自治体からは

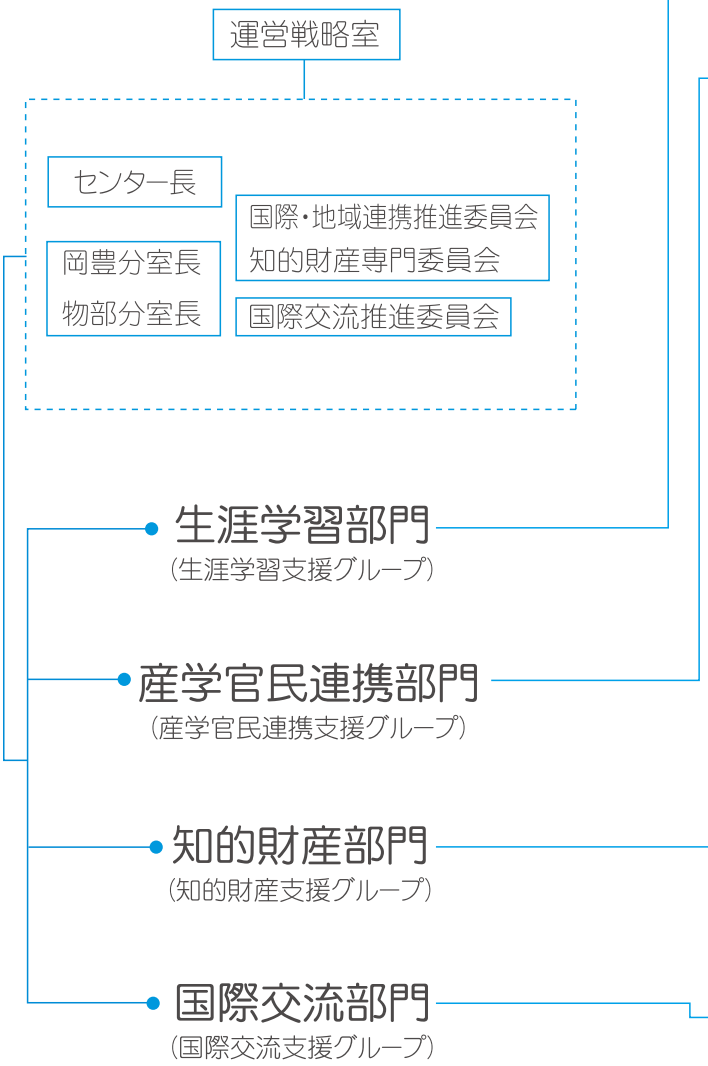
- 市町村のまちづくり計画に有識者として参加願いたい
- 付加価値を高めた第 1.5 次産業の確立に支援願いたい
- 大学生と一緒にプロジェクトをしたい

教育機関からは

- 大学と共同で教育プログラムを開発したい
- 教員の研修や教育上の諸課題の相談をしたい
- 高校で大学の授業（出前授業）を行いたい

どんなご相談でもお気軽にどうぞ

国際・地域連携センター組織図



生涯学習部門

高知大学で行っている教育や研究等を社会に提供しています。生涯学習は「生きがいづくり」、地域社会との連携は「まちづくり」、経済社会との連携は「産業人づくり」です。地域の課題や知的要求に応えるために大学開放を推進しています。

① 学術、文化、芸術及びスポーツ等の生涯学習を推進
② 大学教育開放・高大連携支援事業を推進
③ 生涯学習講座の開設及び大学授業の公開
④ まちづくり、ひとづくり

産学官民連携部門

高知大学の有する人的・知的資源と共に、教育研究成果を地域社会に還元し、地域社会の活性化を支援しています。高知大学が拠点となり、地域の特性・資源に基づいた地域再生事業や科学技術振興等の産学官民連携事業が動き出しています。

① 産学官民連携事業の推進
② 教育研究成果の活用
③ 科学・技術相談及び学術情報の提供
④ 地域の発展及び振興に貢献

知的財産部門

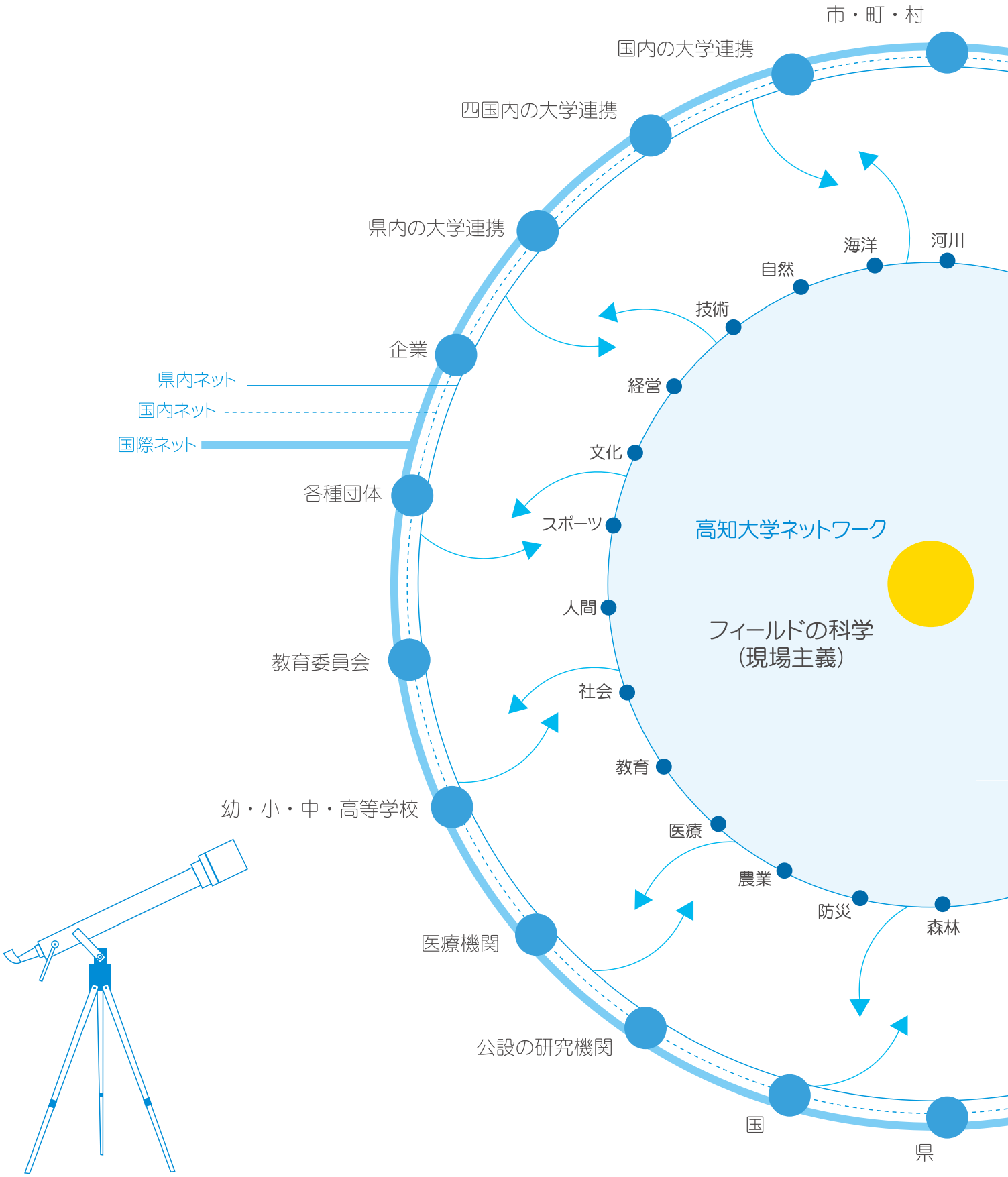
高知大学では、新技術・新産業の創出を推進し、産学官民連携による効果的な知的財産の創出、保護、管理、活用を行い、地域の発展に努めています。また、知的財産セミナー及び発明相談会の開催、共同研究等の支援を行っています。

① 研究成果の知的財産権化
② 知的財産に関する調査及び活用
③ 知的財産に関する相談及び情報の提供
④ 研究成果の技術移転

国際交流部門

高知大学では、国際交流を通じ教育研究活動を活性化すると共に、アジア、太平洋地域を始め、世界の国々との各種事業を推進しています。また、自治体・企業等と連携し、国際交流の機会を拡充し、地域の国際化にも寄与しています。

① 教育研究等の国際的な連携を推進
② 国際的な大学間交流を推進
③ 自治体、企業等と連携し、国際交流の機会を拡充
④ 地域の国際化に対する寄与


市・町・村
国内の大学連携
四国内の大学連携
県内の大学連携
企業
県内ネット
国内ネット
国際ネット
各種団体
教育委員会
幼・小・中・高等学校
医療機関
公設の研究機関
国
県
海洋
河川
自然
技術
経営
文化
スポーツ
人間
社会
教育
医療
農業
防災
森林
高知大学ネットワーク
フィールドの科学
（現場主義）

特集対談

カツオを基幹産業とする黒潮町の地域振興と地域・大学の相互の発展をはかる連携を創造する

絆と交流の大切さを学んだ カツオ学会と東日本大震災

受田■黒潮町さんと高知大学が連携協定を結んだのは２年前の10月で、大西さんが町長に就任されたのが昨年の４月、ちょうど１年半くらいになるんですが、町としては大学との連携事業をどういうふうに受け止めておられますか。

大西■まずは一番大きなイベント、カツオ学会がありました。「漁獲が少ないけど、カツオが減ってるんじゃないか」といった声は、漁師さんの直感として数年前から行政の方へ上がっていたんです。私ども行政としてはその枠の中で動いてはいたんですが、結局何も変えられなかった。そういう中で「高知大学」という単語が漁師さんの口から出てきたんです。それが衝撃的というか、びっくりしました。町が学会に入ったことは、官よりももしかしたら産のほうが期待が高いのかもしれない。もし学がからんでなければ、危機に直面しても町はこれまでの延長線上の取り組みしかできてなかったと思います。

受田■それはすごく印象深いですね。私は黒潮町さんの「さしすせそ計画」という新パッケージ事業でカツオに関してアドバイザーを依頼されたんです。地域のかけがえのない資源であり基幹産業でもあるカツオ、その漁獲量が減ってくる中で、持続可能なカツオ漁という新たな価値を訴求していこうとしている状況だと思いますが、資源論だけでなく、歴史や漁法をはじめ食を含めて文化などもしっかりと発信していく必要があるというのが、カツオ学会の大きな目的でした。

それが１月でしたが、３月に東日本大震災があって、カツオを取り巻く環境がかなり変化し、一本釣りという立場でみた時にはさらに苦境に立たされていると思います。

大西■三陸沖はエサ不足で漁ができないんです。カ

タクチイワシの割り当てが少なく、カツオはいるのにエサがないので出漁を見合わせるんです。出漁しても５分の１くらいの漁で帰ってきて、気仙沼に入港すると３日間停泊するといった状況です。そして、出漁すれば油がいる。加えて、イワシ漁の船がない、網がない。一本釣り漁船は出漁さえできていません。

受田■東日本大震災では仲間の自治体が壊滅的な打撃を受けました。大西町長は、たぶん自治体の首長さんとして真っ先に被災地に行かれましたね。

大西■一つは津波対策をどうするのか、被災直後に何をしなければいけないのかということがありましたが、今年うちのカツオ船団は漁ができるのかということもありました。一番先に港を見て、気仙沼港はもともと低い所にあるのに地盤沈下してしまったので本当に復旧できるのかと、思いました。ハード面でも製氷機や冷凍庫などが壊滅的打撃を受けているし、漁師さんと船がやられてるので、漁業の復興には時間がかかると思います。うれしいニュースもあって、第１回水産復興会議が開催され、生き残った200くらいの漁業組合のみなさんは「今からやるぞ」と大変元気で、人間の強さ、タフさを感じました。市長さんも「８月中に日量300トンを目標にする、ふだんの半分くらい処理できるレベルに復旧する」と力強く言っていて安心もしました。今回の地震の特徴はほとんど水害で、倒壊家屋は少ないし、道路が生きている。生鮮食品の搬送路が確保されていることで、市場機能は思ったより復興が早いのかなという印象でした。

受田■他にお感じになられたことはありますか？

大西■考えさせられたのは、気仙沼は被災地の中ではメジャーなほうで、１週間も経つとお断りするくらいの物資が集まってくるんです。でもその陰で、全然聞いたことのないような町や村には一切支援物資が届かない。道路が生きてるにもかかわらず、４日間食料が届かなかったという集落がいくつもあります。

気仙沼の大島からずっと内湾になっていて、相当な物が海底にあるわけです。で、入港規制があったと思うんですが、そんなの関係なしで漁師さんが支援物資を積み込んで勝手に入ってくるので止めようがなく開放したというんです。そうした支援は漁師さんの絆でできたことなのかなと思うんです。縁がないところには強制的な絆を作る仕組みを作るなどを考えないと、もう１回起きても同じことになってしまうと思います。

受田■普段、絆をどれくらい作っていけるか、いざっていうときの備えが大事ですね。一方で、カツオ学会は何をすべきか、何ができるか、という点についてはどうでしょう？

大西■消費者がカツオに抱く不安を取り除くという作業は、産業団体や行政がやると、消費者のみなさんはきっと、エゴで言うんだろう、カツオを売りたいんだろうと思ってしまうでしょうが、学会がやれば話は別で、信頼度がはるかに高いと思います。

黒潮町のグランドデザインを描く

受田■町としては地域の大きなビジョンがあって、４年の間にどういう施策を具体化し、実現していくかという工程表、ロードマップがあるという形が理想だと思うんですが、どんなグランドデザインを描き、どのくらいの時間で考えておられますか？

大西■詳細設計はできてなく、基本構想レベルです。経験値も知識もないので、自分の中では、せいぜい10年が精一杯かなと思います。グランドデザインを描くという作業をしながら、この１期にやらなければならないこと、10年かけてやらなければならないこと、両方があると思うんです。直近10年くらいの予想はぼんやりしたイメージとして持つことができるんですが、30年も経つと、もっと根本的で構造的な問題で、ものすごいパラダイムシフトが起こっていると思います。

受田■町長が描こうとするグランドデザイン、シナリオづくりに大学を活用できるかもしれないと思います。中央集権から地方分権へと言った時に、地方は「何をしてくれるんですか、中央は」という言い方ではなくて、われわれはこうやって自らを治めていくし、自治はあくまで手段だから、住民みんなで積み上げていった目標・ビジョンを理想として掲げ、民意として共有している、これが理想だと思うんです。このビジョンを描いていくところでわれわれが貢献させていただき、大学も含んだ形で知識を結集していき、そこで首長さんが音頭をとっていく。例えば大西町長が「黒潮町ビジョン」をみんなの英知を結集して作ったとすると、４年のタームで優先順位を刻んでいって評価をしていけば、PDCAが回って

いくし、振り回されるさまざまな悩ましい課題をみんなの工夫によって乗り越えていくことができると思います。

ここでの大学の役割は、もしかすると地方自治における大いなるシンクタンク機能かもしれない。政策、立案するというシンクタンク機能に加えて、さらに実行する。よく最近ドゥータンクという言葉を使うんですが、実践部隊。そこまであると、大学としての価値がさらに高まると思います。さらに言えば、それを実現していくところで、リアライズタンクがあって実現もお手伝するし、それを持続するサステインタンクとしても使ってもらえる。シンクタンク、ドゥータンク、リアライズタンク、サステインタンクができると、自治体と大学との新しい連携関係が生まれるかもしれない。これは一つの理想かなと思いつつ考えているところです。

大西 勝也（黒潮町長）

これからの時代、今を見つめ、既成概念に囚われずに提案できる力がいる

大西■行政がこれまで持ちえなかったもの、あるいは持たなくてもすんでいたもの、でもこれからの時代には必要である、という時代はとっくにきてるんだけれども行政としては認めたくない、そういった材料が大学にはたくさんあると思います。

民間需要が地域経済を支えていた時代、いわゆる景気のいい時代は、行政の役割は地域全体の中で小さくてすんでいました。しかし地域経済がこれだけ疲弊すると、それが本来の行政業務であるかどうかは別にして、公的資金を利用しながらの、まさに産業振興のサポートという領域に踏み込んでいかざるを得ない。これは、三千あるといわれる市町村業務の核になるぐらい重要性を増してきていると思います。

これまではコンプライアンスがプライオリティーの最上位になっていて、法律をどれだけ知っているか、どれだけ正しく解釈しているか、説明できる知識範囲が広いということが役場の人材としての評価、基準でした。これからは、時代に合わせて法や条例は改めていかなければならないわけで、そうなると目の前にポンと出された課題に正解が出せる人間よりも、むしろ設問できる人間、自らこういう課題があるのではないかと言える人間が必要になってきます。これって、もともと大学というフィールドの中で培われてきたもので、大学の中には行政にとっての財宝がたくさん埋まっています。これからはどの事業を連携してやるにしても、実はその事業が成功するしないの他に、そういった副次的効果が望まれるんだと思います。

受田■教員がメインとして持っているものの考え方、客観性とか、将来に向けて問題提起したりアドバイスしたりする機能はわれわれの一つの強みですが、もう一方で、大学には学生という存在がある。高知大は学部の学生だけで五千人いるんです。この数は大豊町の人口より多い。この規模は大学としてはそんなに大きくないんですけど、高知県というスケールでみた時にはとてつもなく大きい。

大西■アイデアの出所が五千あるということ自体、驚く規模です。また、既成概念に囚われてないのもすごく魅力です。行政職員は、長年の経験値から、慣例が、前例がと言いたくなるんですけど、「それ、時代に適してるの？」「いつ変えるの？」と思ってしまいます。長く行政組織にいると意識改革は非常に難しい。

黒潮町は総合病院もないし、やはり地域医療が核にならざるをえない。医療制度も社会保障もこれからどうなっていくか分からないですけど、例えば「拳の川診療所の存廃」を行政が判断しようとすると、何人のお客様がいて、経営収支がどうで、補助金がこう入ってきて、交付税がいくらで、と考えざるを

得ない。でも大学生は全然違いますね。ある意味、理論的根拠がなくても「残さなければだめです」と強烈に言う人もいれば、「違ったやり方があります」と提案する学生もいて、その発想力、前向きさはきっとうちの職員の中でも上位にランクすると思います。時代に合った新しい感覚を持つというのは、いつの時代も若い世代だと思うし、必ず今の閉塞感を打ち破っていくと思います。

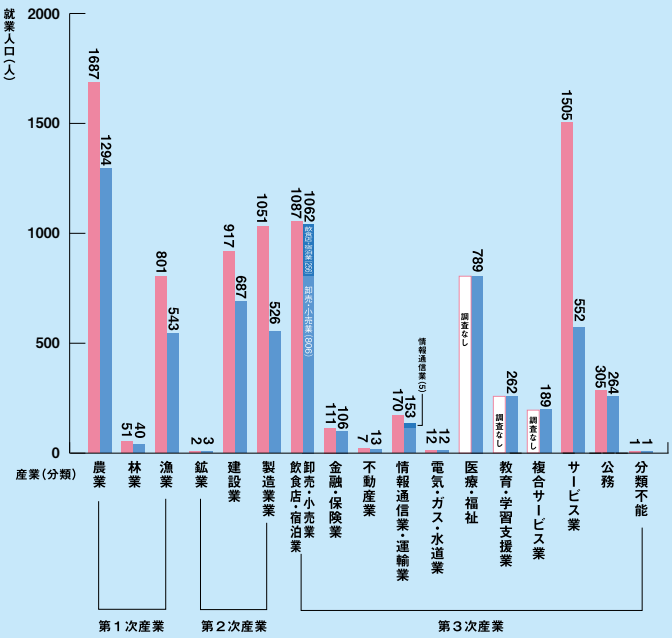
受田■われわれは「地域の大学」ということで、地方に存在する意義を訴えていかないといけない。もう一方で、行政と連携することによって、研究や学生の教育に還元される部分があるんじゃないか、と思

黒潮町の産業データ

就業人口

就業構造基本調査より

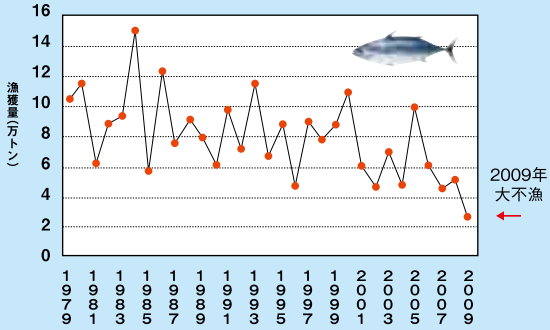
■平成２年／■平成17年



町の人口は１万3437人（平成17年）で、平成２年から15年の間に約2000人減少し、１～３次産業の就業人口も1225人減り、少子高齢化が進んでいる。

漁獲量

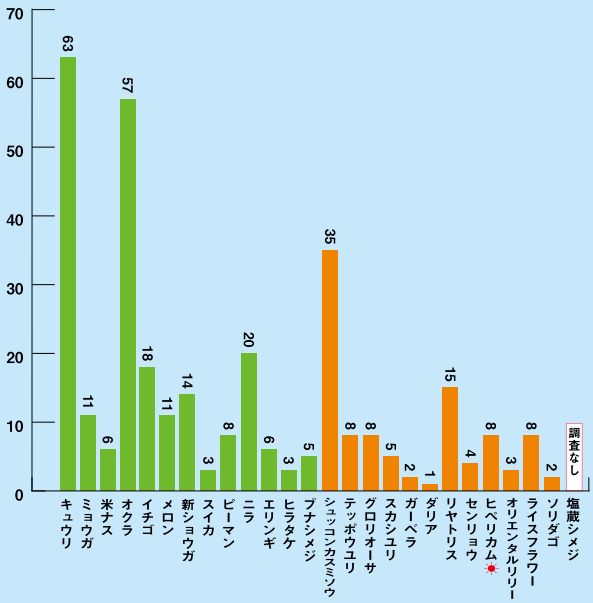
日本近海カツオ漁獲量



日本近海の一本釣りカツオ漁獲量は減少してきている。

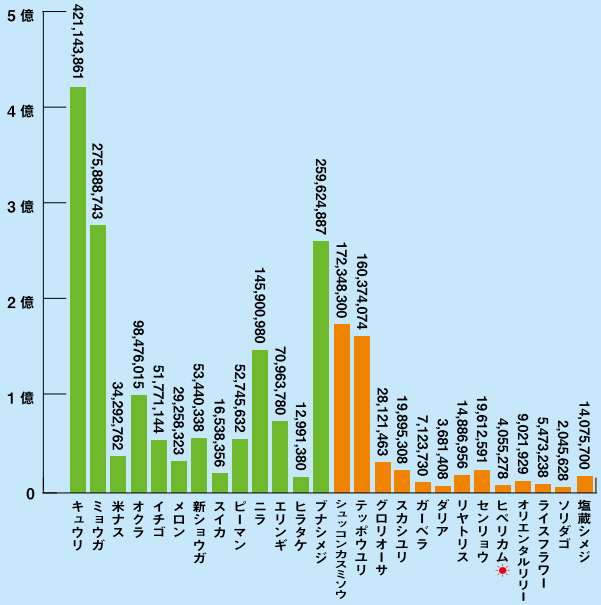
栽培戸数（戸）

■園芸 施設園芸・野菜等
■花卉部 ☀印は露地栽培



販売金額（円）

■園芸 施設園芸・野菜等
■花卉部 ☀印は露地栽培



大方地域では施設園芸や花卉栽培、佐賀地域ではカツオ一本釣りや菌茸栽培が盛んであるが、町では「雇用の場の創出」が課題となっている。

平成18年度JA高知はた（大方支所・佐賀支所）各品目販売実績より

うんです。最近「現場主義」という言葉がいろんなところで使われていますけど、現場を直視して、現場で一体何が起こっていて、どういう課題が浮かび、その中で自分自身はどんな存在意義があるのか、これなんか教室で教員が一方通行で授業しても何にも答えは出てこないですね。それを生々しい実践の場で、学生たちに感じ取ってもらうことは必要なのかなと思います。

大西■大学に通いながら、また出てから、公務員学校に行かれる学生さんがいます。去年20人ほど面接したんですけど、6－7割は公務員学校を出ていて、質問するとだいたい分かるんです。「公務員学校を出て、何をやりたいですか、何ができると思いますか？」と聞くと、必ず出てくるのが「地域の活性化をやりたい」です。で、「地域の活性化のあなたの定義はなんですか？」と聞くところくらいまでの答えは用意してるんです。で、「その手法は？」と、一ランク掘り下げて聞くと、もう答えられない。自分の思いがないんです。公務員学校では受かるための答えを学んでいるんですが、僕らが求めているのは逆で、これまでのスキームでは限界があるので、それを打破してくれるようなエネルギッシュな職員がいるんです。せっかく大学で自由な発想を学び多様性が培われているのに、規格された答えを出すための学校に入って既成概念を身に付け直すというのは、非常にもったいない気がする。ダイレクトで来てください、と言いたいです。

受田■それは他の自治体の方からも聞いたことがあります。人物本位で、特長的な人を採りたいので面接を重視してます、と。そういう力を培っていく現場として、われわれが黒潮町と一緒に連携を結んでいるし、じかに現場でいろんなことを学んで欲しい。連携事業をきちんと教育カリキュラムとして展開していけるようになるといいかもしれないですね。

大西■もっと理想を言えば、漠然とゴールが見えていて欲しいというのがあります。そのプロセスも漠然と見えていて欲しい。地域を回っていると強烈に福祉の重要性がインプットされます。おじいちゃん、おばあちゃんと話してると、寂しそうだなという感覚がわく。じゃあ、どうしたらいいのか。寂しくないようにするには会話がいるだろう、集う場所がいるだろう、ということが漠然と見える。ここからが問題なんですけど、感覚論で政策決定はできないので、民意とずれていないか、データとずれてないか、しっかりした判断材料が欲しい。フィールドワークで生の意見を抽出することも大事なんですが、それ以外の、高知県はどうなってるの？　先進地ではどうやってるの？　今後の経済推移は？　お年寄りの心のケアは？　で、解決策はどうなるのか？ということまでになると今の行政職員だけではなかなか難しい。ここをものすごく大学に求めることなんですが、でも単純に「データをください」ということではなくて、データの足りないところは行政が補い、共にやっていくこと自体がカリキュラムになって学び気づき、それが職員の資質向上につながるというのが理想の大学との連携のあり方なのかなと思います。

す。しっかりしたデータを基に政策決定できれば、リスクヘッジができるし、住民への説明が透明で、理解が得られる。そのところを、官民協働でできていけばと思います。

受田■それができれば一枚岩になっていくから、不毛な議論であるとか、賛成反対で町を二分するとか、そういった非効率性がなくなりますね。

実は今、高知大学は「地域再生ルネッサンス」という新しい教育プログラムをつくろうとしています。これまでの授業だと、地域で現場を学ぶ上で限られたメニューだったので、断片的で、本来の課題発見と課題解決能力を身につけることにつながらなかったという反省があります。そこで、地域というかけがえのない現場を教育プログラムとして明確に位置づけ直して、固定観念に囚われず、問題を設定し解決する能力を身につけた学生を育てるコースを作ろうとしてます。

ぜひ、黒潮町さんと一緒に一つのモデルができることを願って、今日の対談を閉めさせていただきます。どうもありがとうございました。

事　業　報　告

生涯学習部門

産学官民連携部門

知的財産部門

国際交流部門

Section

生涯学習部門

● 活動報告

平成22年

4月9日	★高知大学オープン・クラス（授業公開）第1学期開始
5月6日	第1回生涯学習企画会議
5月27日	第2回生涯学習企画会議
6月4日	大学訪問（高知高校）
6月10日	大学訪問（京都府立海洋高校）
6月16日	大学訪問（高知県立須崎高校）
6月30日	出前公開講座（中土佐町）第1回：龍馬と土佐藩
7月2日	大学訪問（愛媛県立松山中央高校）
7月7日	出前公開講座（中土佐町）第2回：龍馬と幕末明治の土佐の絵師たち
	大学訪問（香川県立琴平高校）
7月9日	大学訪問（高知県立梼原高校）
7月14日	出前公開講座（中土佐町）第3回：明智光秀と龍馬
	第7回高知大学・高知市コーディネーター会議
7月15日	大学訪問（高知県立室戸高校）
7月21日	出前公開講座（中土佐町）第4回：坂本乙女のオンリー・ワン・スピリッツ
7月28日	出前公開講座（中土佐町）第5回：「今に生きる龍馬」～龍馬の魅力を考える～
	第3回生涯学習企画会議（メール会議）
8月3日	大学訪問（愛媛県立西条高校）
8月6日	★高知大学オープン・クラス（授業公開）第1学期終了
8月19日	出前公開講座（土佐町）第1回：早寝、早起き、朝ごはんで成績アップ！
	～子ども達の総合睡眠健康改善教育プログラム策定にむけて～
8月24日	大学訪問（個人）
8月26日	出前公開講座（土佐町）第2回：早寝、早起き、朝ごはんで成績アップ！
	～子ども達の総合睡眠健康改善教育プログラム策定にむけて～
9月2日	出前公開講座（土佐町）第3回：「今に生きる龍馬」～龍馬の魅力を考える～
9月9日	出前公開講座（土佐町）第4回：スポーツと子どもの成長
9月16日	出前公開講座（土佐町）第5回：インターネット社会　ーその便利さと危険性
9月28日	大学訪問（高知県立高知東高校）
10月1日	★高知大学オープン・クラス（授業公開）第2学期開始
	出前公開講座（大豊町）第1回：明智光秀と龍馬
	秋の公開講座「対人関係を円滑にするコミュニケーション」第1回
10月5日	秋の公開講座「これからの時代のライフプランと資産運用を考える」第1回
10月7日	大学訪問（高知県立宿毛高校）
10月8日	出前公開講座（大豊町）第2回：「友だち以上　恋人未満とは」
	秋の公開講座「対人関係を円滑にするコミュニケーション」第2回
10月12日	秋の公開講座「これからの時代のライフプランと資産運用を考える」第2回
10月15日	出前公開講座（大豊町）第3回：おいしいものには、徳（得）がある
	秋の公開講座「対人関係を円滑にするコミュニケーション」第3回
	大学訪問（香川県立坂出高校）
10月19日	秋の公開講座「これからの時代のライフプランと資産運用を考える」第3回
10月21日	大学訪問（香川県立琴平高校）
10月22日	出前公開講座（大豊町）第4回：環境問題と消費行動の関わり　―あなたは地球にやさしいですか？
	秋の公開講座「対人関係を円滑にするコミュニケーション」第4回
10月24日	秋の公開講座　プレシンポジウム「高知の自然の情報を記録する」主催
10月26日	秋の公開講座「これからの時代のライフプランと資産運用を考える」第4回
10月29日	出前公開講座（大豊町）第5回：私たちが食べている養殖魚の話
	秋の公開講座「対人関係を円滑にするコミュニケーション」第5回
11月2日	秋の公開講座「これからの時代のライフプランと資産運用を考える」第5回
11月5日	秋の公開講座「四国の野生生物―その現状と課題―」第1回
	秋の公開講座「母子保健…お母さんの健やかな子育て支援…」第1回
11月12日	秋の公開講座「四国の野生生物―その現状と課題―」第2回
	秋の公開講座「母子保健…お母さんの健やかな子育て支援…」第2回
	大学訪問（香川県立高松西高校）
11月17日	秋の公開講座「高知市総合調査（自然編）」第1回
	秋の公開講座「高知市総合調査（社会編）」第1回
11月18日	秋の公開講座「パラタクソノミスト養成講座―自然の記録を残す人をつくる―」第1回
11月19日	秋の公開講座「四国の野生生物―その現状と課題―」第3回
	秋の公開講座「母子保健…お母さんの健やかな子育て支援…」第3回
11月21日～22日	全国生涯学習フォーラム高知大会シンポジウム「環境保全活動におけるＮＰＯ等との連携と環境教育」
11月24日	秋の公開講座「高知市総合調査（自然編）」第2回
	秋の公開講座「高知市総合調査（社会編）」第2回
11月26日	秋の公開講座「四国の野生生物―その現状と課題―」第4回
	秋の公開講座「母子保健…お母さんの健やかな子育て支援…」第4回
11月27日	秋の公開講座「『資本論』第Ⅰ巻を読む」第1回
11月30日	秋の公開講座「「地域再生」入門―地域再生の事例から高知県の活性化を考える―」第1回
12月1日	秋の公開講座「高知市総合調査（自然編）」第3回
	秋の公開講座「高知市総合調査（社会編）」第3回
12月3日	秋の公開講座「四国の野生生物―その現状と課題―」第5回
	秋の公開講座「母子保健…お母さんの健やかな子育て支援…」第5回
12月4日	秋の公開講座「『資本論』第Ⅰ巻を読む」第2回
12月7日	秋の公開講座「「地域再生」入門―地域再生の事例から高知県の活性化を考える―」第2回
12月11日	秋の公開講座「『資本論』第Ⅰ巻を読む」第3回
12月12日	4大学県民講座「自分らしく生きる」開催
12月13日	大学訪問（高知県立春野高校）
12月14日	秋の公開講座「「地域再生」入門―地域再生の事例から高知県の活性化を考える―」第3回
	大学訪問（香川県立高瀬高校）
	大学訪問（徳島県立脇町高校）
12月15日	秋の公開講座「高知市総合調査（自然編）」第4回
	秋の公開講座「高知市総合調査（社会編）」第4回
12月18日	秋の公開講座「『資本論』第Ⅰ巻を読む」第4回
12月19日	秋の公開講座「パラタクソノミスト養成講座―自然の記録を残す人をつくる―」第2回
12月21日	秋の公開講座「「地域再生」入門―地域再生の事例から高知県の活性化を考える―」第4回
12月22日	秋の公開講座「高知市総合調査（自然編）」第5回
	秋の公開講座「高知市総合調査（社会編）」第5回

平成23年

1月9日	秋の公開講座「パラタクソノミスト養成講座―自然の記録を残す人をつくる―」第3回
1月11日	秋の公開講座「「地域再生」入門―地域再生の事例から高知県の活性化を考える―」第5回
1月18日	秋の公開講座「「地域再生」入門―地域再生の事例から高知県の活性化を考える―」第6回
2月2日	ジョイフルコンサートシリーズコーチ2011開催
2月3日	大学訪問（高知県立伊野商業）
2月4日	大学訪問（高知県立窪川高校）
2月6日	秋の公開講座「パラタクソノミスト養成講座―自然の記録を残す人をつくる―」第4回
2月9日	★高知大学オープン・クラス（授業公開）第2学期終了
3月6日	秋の公開講座「パラタクソノミスト養成講座―自然の記録を残す人をつくる―」第5回
3月20日	秋の公開講座「パラタクソノミスト養成講座―自然の記録を残す人をつくる―」第6回

TOPICS 1

生涯学習部門の推進体制

平成22年度４月１日付にて、生涯学習部門の活動の企画・立案、分析評価、部門運営等について審議する生涯学習企画会議を立ち上げた。

メンバーは、生涯学習部門長を座長に、センター長、運営戦略室会議委員（岡豊部門長、物部部門長、国際交流部門長）、上田教育研究部総合科学系長（人文学部教授）とした。

国際・地域連携センター生涯学習企画会議内規

平成22年３月25日

国際・地域連携センター運営戦略室会議　裁定

（設置）

第１条　国際・地域連携センター生涯学習部門に国際・地域連携センター生涯学習企画会議（以下「生涯学習企画会議」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　生涯学習企画会議は、次の各号について審議する。

(1) 国際・地域連携センターの所掌する生涯学習活動の企画・立案に関すること

(2) 国際・地域連携センターの所掌する生涯学習活動の分析・評価に関すること

(3) 生涯学習部門の運営に関すること

(4) その他学内の生涯学習活動に資すること

（組織）

第３条　生涯学習企画会議の委員は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

(1) 国際・地域連携センター長

(2) 国際・地域連携センター生涯学習部門長

(3) 国際・地域連携センター運営戦略室会議委員　若干人

(4) 国際・地域連携センター長が必要と認めた者

（座長）

第４条　生涯学習企画会議に座長を置き、生涯学習部門長をもって充てる。

２　座長は、必要の都度生涯学習企画会議を招集し、その議長となる。

３　座長に事故あるときは、座長があらかじめ指名した委員が、その職務を代行する。

（任期）

第５条　第３条第３号の委員の任期は、２年とする。

ただし、委員に欠員が生じた場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（事務）

第６条　生涯学習企画会議の事務は、地域連携課生涯学習グループにおいて処理する。

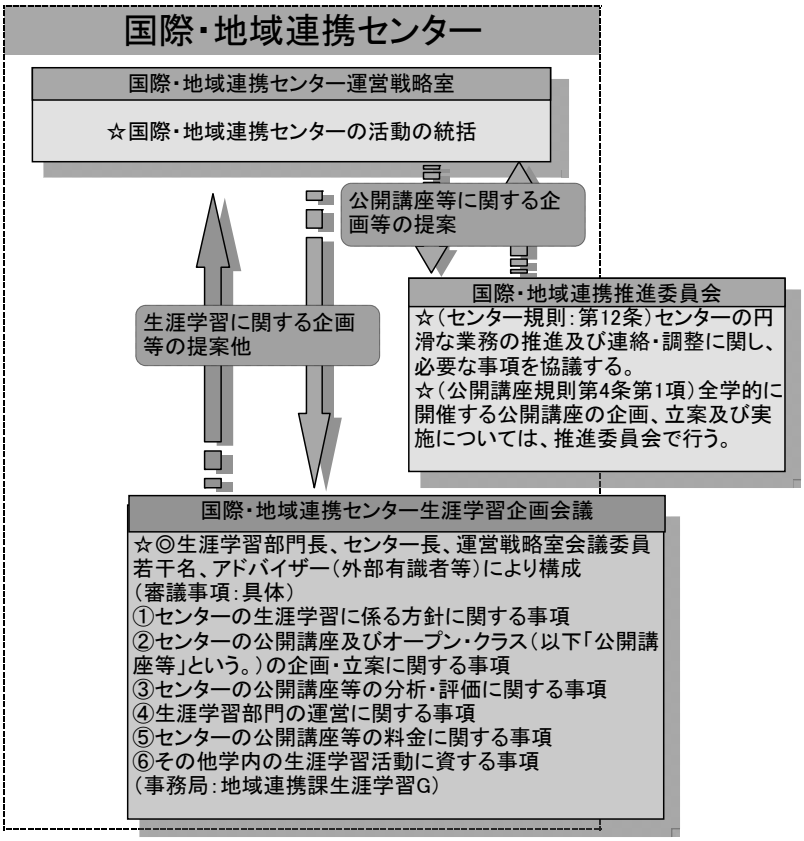
（雑則）

第７条　この内規に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

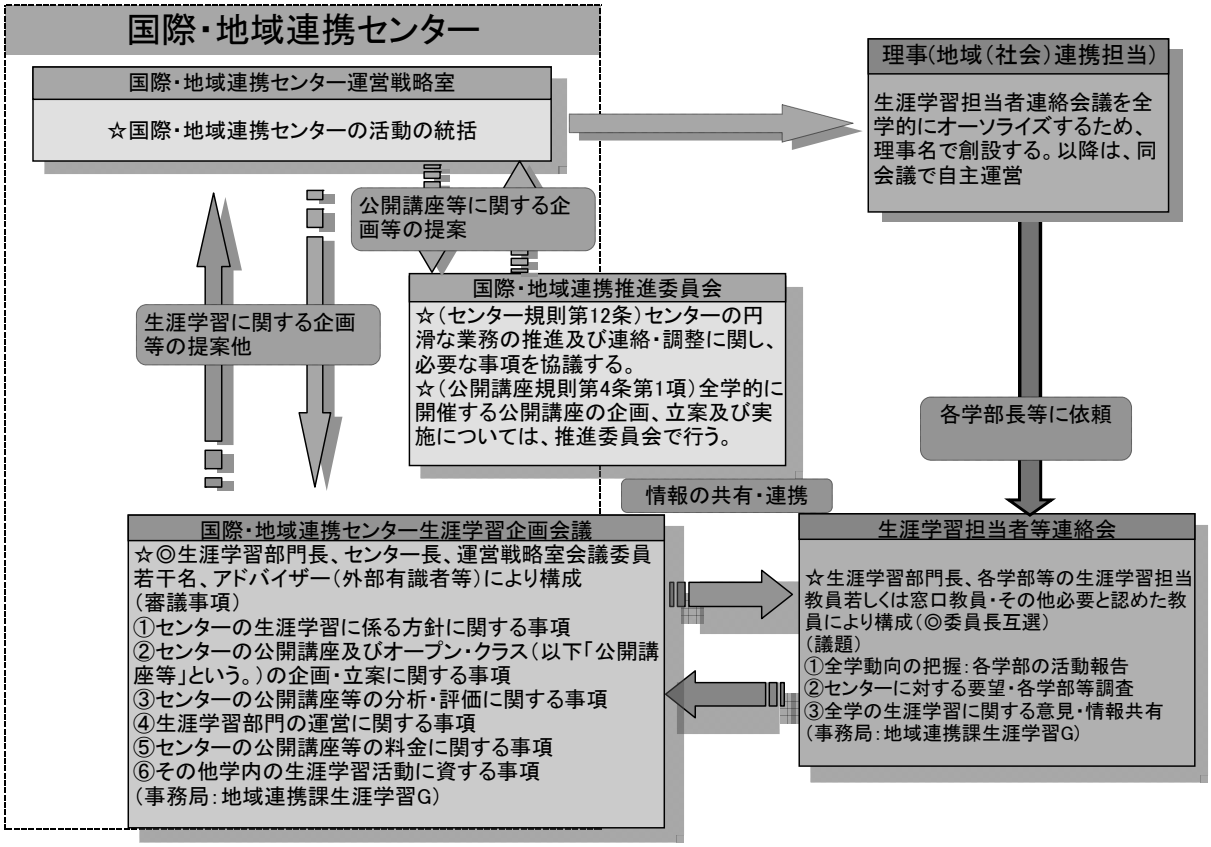
附　則

この内規は、平成22年４月１日から施行する。

生涯学習事業に係る企画・実施体制第1期イメージ図



生涯学習事業に係る企画・実施体制第2期イメージ図（案）



TOPICS 2

全国生涯学習フォーラム
高知大会より「フェスティバル」から名称変更

11月20日（土）から３日間、高知県を会場に、全国生涯学習フォーラム高知大会が開催された。今回の高知大会から名称を「フェスティバル」から「フォーラム」に変更し、１年間テーマ別に取り組んできた内容を発表する研究協議会的な場（フォーラム）となった。

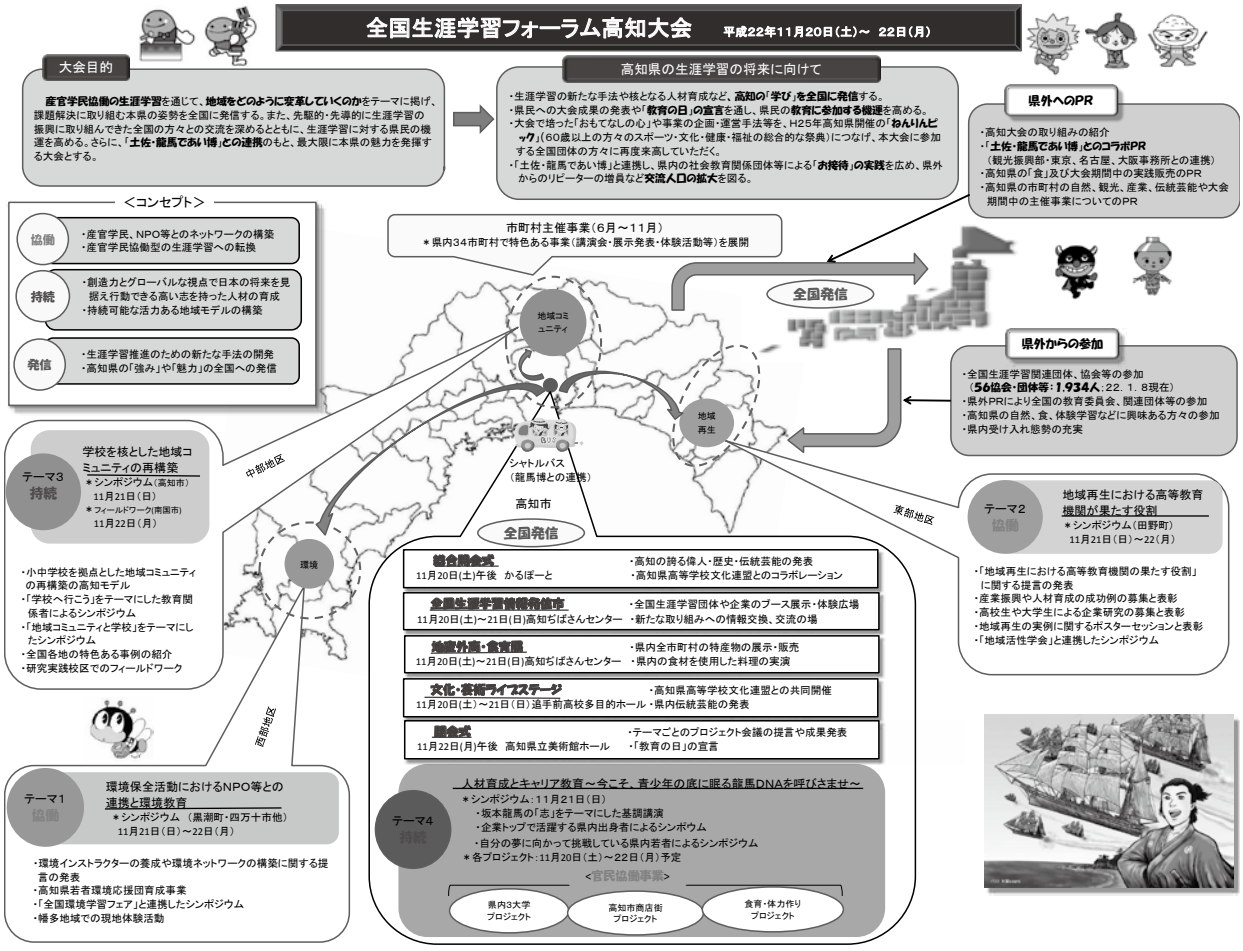
20日（土）は、午後、高知市文化プラザかるぽーとで「総合開会式」が開催された後、環境フォーラムの開催会場である黒潮町に移動し、夜は関係者と打ち合わせをおこなった。

21日（日）は、黒潮町「ふるさと総合センター」を会場に、環境フォーラムが開催されたが、500名近くの参加者を得て、無事、盛況のうちに全ての行事を終了させることができた。

環境フォーラムでは、「高知自然学校構想」の発表を行い、その中で、環境を核とした人材育成の仕組みである「環境八策」（生涯学習政策の目標）について提言をおこなった。

また、環境フォーラムの最後に、若者ＥＣＯ応援隊の活動に関して表彰を行い、高知大学教育学部の取り組み「こじゃんとＥＣＯ隊」などを表彰した。

22日（月）は、閉会式会場である高知県立美術館ホールにて「環境フォーラム」の活動報告（総括）をおこない、１年半かけて準備してきた大会を、無事終了させることができた。



TOPICS 3

4大学県民講座

平成22年12月12日(日)に、本年度で3回目となる4大学県民講座を高知女子大学永国寺キャンパスにて開講した。講座タイトルを「自分らしく老いる」から「自分らしく生きる」に変更し、新たな受講者層の獲得を目指したが、受講者数は約184名（延べ数）と前年（約350名）に比して大きく減となった。

TOPICS 4

ジョイフルコンサートコーチ 2011

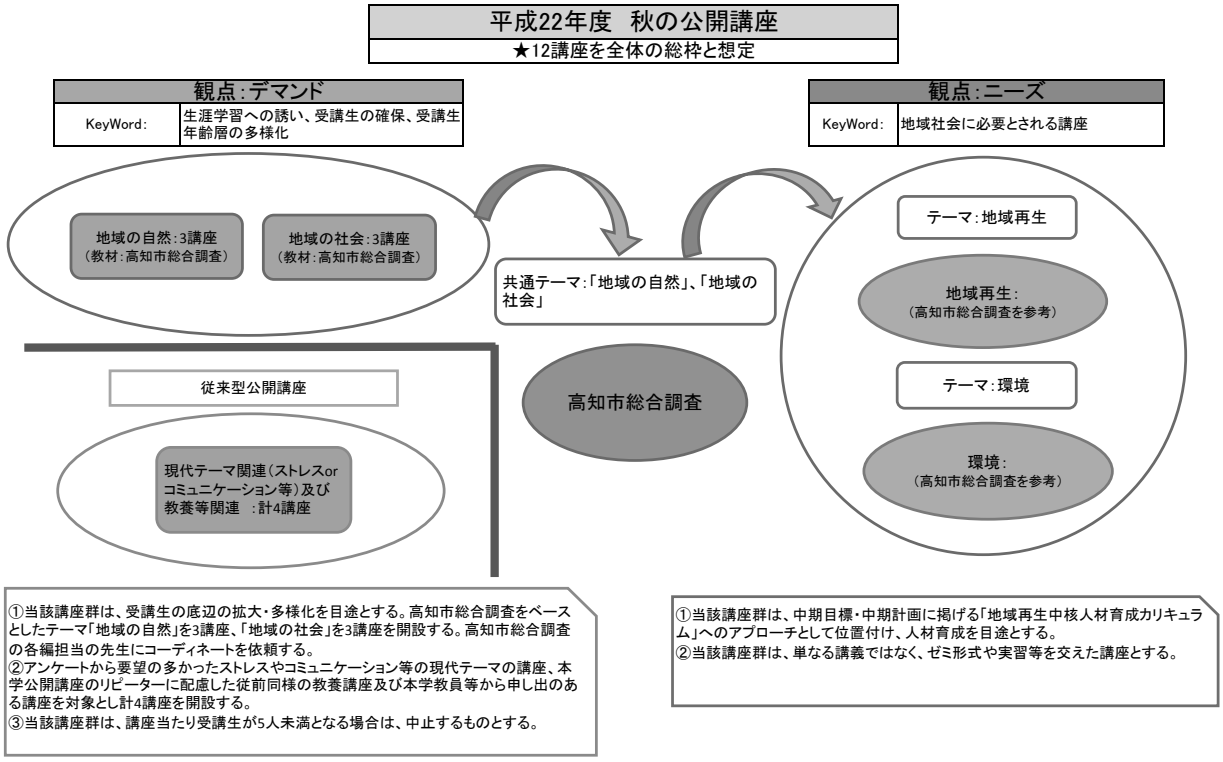
平成 23 年２月２日（水）、ジョイフルコンサートシリーズコーチ 2011 を開催した。

1 公開講座①

秋の公開講座

生涯学習企画会議を３回開催し、一般教養・現代テーマ等が主体であった従前の秋の公開講座を分析評価の上、そのあり方を抜本的に改定した。

平成22年度秋の公開講座のあり方



この「平成 22 年度秋の公開講座のあり方」をもとに、生涯学習部門で具体的内容を詰め、次の区分で実施した。

高知大学 公開講座

平成 22 年度　秋の公開講座（４講座群）

１．講座内容

①公開講座（第１群：一般教養・現代テーマ等）

●募集人員 30 名　●受講料 6,200 円

高知大学朝倉キャンパス

講座名	講師	開講日	曜日	時間帯
『資本論』第１巻をよむ	頭川　博	11 月 27 日～12 月 18 日（全４回）	土	昼間
これからの時代のライフプランと資産運用を考える	諸角　憲治	10 月 5 日～11 月 2 日（全５回）	火	夜間

高知大学岡豊キャンパス

講座名	講師	開講日	曜日	時間帯
対人関係を円滑にするコミュニケーション	戸田由美子	10 月 1 日～10 月 29 日（全５回）	金	夜間
母子保健・・・お母さんの健やかな子育て支援・・・	稲富眞彦他	11 月 5 日～12 月 3 日（全５回）	金	夜間

②高知大学・高知市共催公開講座（第２群：高知市を中心とした「地域の自然」及び「地域の社会」に関する調査「高知市総合調査」には，高知大学による緻密なデータや豊富な知識が網羅的に集約されており，高知市の次期総合計画の策定資料としても活用されている。この調査を教材として，高知市の持つ潜在力，可能性について講義する。）

●定員 50 名　●無料（申込不要・先着順）

高知市内会場（高知市総合あんしんセンター他）

講座名	講師	開講日	曜日	時間帯
高知市総合調査（自然編）	吉倉紳一他	11 月 17 日～12 月 22 日（全５回）	水	昼間
高知市総合調査（社会編）	中澤純治他	11 月 17 日～12 月 22 日（全５回）	水	昼間

③公開講座（第３群：「環境」に関する人材育成を目途とする。公開講座に先立ち「環境シンポジウム」を開催する。）

●定員 120 名　●無料（申込不要・先着順）

高知大学朝倉キャンパス（メディアの森）

＊詳細は新聞（予定）等で広く公表します。

シンポジウム	パネリスト等	開講日時	曜日	時間帯
高知の自然の情報を記録する	高知に科学館をつくる会代表、国立科学博物館研究員、元高知県植物誌編纂委員、なにわホネホネ団団員、北九州市立いのちのたび博物館学芸員、高知県教育次長、四国自然史科学研究センター長	10 月 24 日 13 時 00 分～17 時 40 分 （受付：12 時 30 分～）	日	昼間

●募集人員 30 名　●受講料　有料（受講料目数によって変わります）＊詳細は本学ホームページをご覧ください。

講座名	講師	開講日	曜日	時間帯
パラタクソノミスト養成講座 ―自然の記録を残す人をつくる―	町田吉彦他	11 月 18 日（木）～ 3 月 20 日（日） （全６回）	木・日	第 1 回のみ木曜夜間、他は日曜昼間

●募集人員 30 名　●受講料 6,200 円

講座名	講師	開講日	曜日	時間帯
四国の野生生物　―その現状と課題―	谷地森秀二	11 月 5 日～12 月 3 日（全５回）	金	夜間

④公開講座（第４群：「地域再生」に関する人材育成を目途とする。）

●募集人員 30 名　●受講料 6,200 円　＊詳細は本学ホームページをご覧ください。

講座名	講師	開講日	曜日	時間帯
「地域再生」入門 ―地域再生の事例から高知県の活性化を考える―	○斎藤俊幸：本山町地域再生マネージャー他、○吉田敦也：徳島大学地創生センター長、○松田一敬：北海道ベンチャーキャピタル（株）代表取締役、○堂野智史：財団法人　大阪市都市型産業振興センターメビック扇町　所長他、○受田浩之：高知大学国際・地域連携センター長、○坂本世津夫：同教授、○石塚悟史：同准教授	11 月 30 日～1 月 18 日 （全６回）	火	夜間

① 一般教養・現代テーマ等として従前型の講座：４講座（主として教員から申出のあったもの）

② 高知大学・高知市共催公開講座：２講座（平成 20 年度～21 年度に策定した「高知市総合調査」を教材とした講座）

○平成 22 年７月 14 日（水）開催の第７回高知大学・高知市コーディネーター会議において、本学から提案し講座を開設することが決まった。平成 21 年３月及び平成 22 年３月に刊行された「高知市総合調査受託研究成果報告書」（次期「高知市総合計画」策定のための資料）には、「地域の自然」や「地域の社会」の視点から、高知大学教員による緻密なデータや豊富な知識が網羅的に集約されている。まさに高知市の持つポテンシャルがそこに表わされており、この緻密なデータや豊富な知識を教材として講義を行い、高知市職員の「高知市総合計画」の策定に資する等の研修として位置付けるとともに、広く高知市民と分かち合うことが本講座の狙いである。

高知大学 高知市 共催 公開講座

高知大学と市では、連携事業として実施した地域の自然・社会に関する総合的な調査「高知市総合調査」を題材として、これからの地域の可能性を考える公開講座を初めて開催します。

調査に携わった高知大学の教授陣らを講師に迎え、全 10 回開講。定員は先着 50 人。申し込み不要で、どの回でも受講できます。

地域のことをもっとよく知る機会として、ぜひご参加ください。

開催日		会場	高知市総合調査	
月日	曜日		（自然編）演題・講師	（社会編）演題・講師
11月17日	水	●公開講座１日目（総合あんしんセンター 2階 大会議室）	地域の自然（13時30分～15時00分） 講義名「高知市の地形と地質」 講 師 吉倉 紳一 自然科学系理学部門(理学部)教授	地域の社会（15時15分～16時45分） 講義名「高知市経済の特徴と課題」 講 師 中澤 純治 人文学部・准教授
11月24日	水	●公開講座２日目（総合あんしんセンター 3階 中会議室）	地域の自然（13時30分～15時00分） 講義名「高知市の地震災害と防災」 講 師 横山 俊治 自然科学系理学部門(理学部)・教授	地域の社会（15時15分～16時45分） 講義名「少子高齢化と子育て支援」 講 師 玉里 恵美子 総合教育センター・准教授
12月1日	水	●公開講座３日目（総合あんしんセンター 3階 大会議室）	地域の自然（13時30分～15時00分） 講義名「高知市の土壌と自然・農業生態系」 講 師 櫻井 克年 総務・国際交流担当理事・農学部教授(兼担)	地域の社会（15時15分～16時45分） 講義名「安全と防災活動」 講 師 大槻 知史 総合教育センター・准教授
12月15日	水	●公開講座４日目（総合あんしんセンター 3階 中会議室）	地域の自然（13時30分～15時00分） 講義名「高知市の植生と植物相」 講 師 石川 慎吾 自然科学系理学部門(理学部)・教授	地域の社会（15時15分～16時45分） 講義名「ＮＰＯ活動の現状と課題」 講 師 上田 健作 人文学部・教授
12月22日	水	●公開講座５日目（高知市文化プラザかるぽーと）	地域の自然（13時30分～15時00分） 講義名「浦戸湾と流入河川の動物相」 講 師 町田 吉彦 高知大学名誉教授	地域の社会（15時15分～16時45分） 講義名「パネルディスカッション「これからの高知を考える 総合調査から見えてきた高知市」」 講 師 石岡 覚 人文学部・准教授 他 上記4講師

1 会場案内

●公開講座１日目から４日目までの会場

高知市総合あんしんセンター

高知市丸ノ内一丁目 7-45

●公開講座５日目の会場

高知市文化プラザかるぽーと

高知市九反田 2-1

2 受講方法

講座当日、直接会場へおこしください。（申し込み不要・先着順）

定員：各回 50 人

※定員を上回る場合は受講いただけない場合がございますのでご了承ください。

3 備 考

受講料無料

公開講座についてのお問い合わせ

高知大学国際・地域連携センター

〒780-8073 高知市朝倉本町2丁目17番47号

TEL：088-844-8555　FAX：088-844-8556

E-mail：kokaikoza@kochi-u.ac.jp

URL　http://www.kochi-u.ac.jp/~www/life/

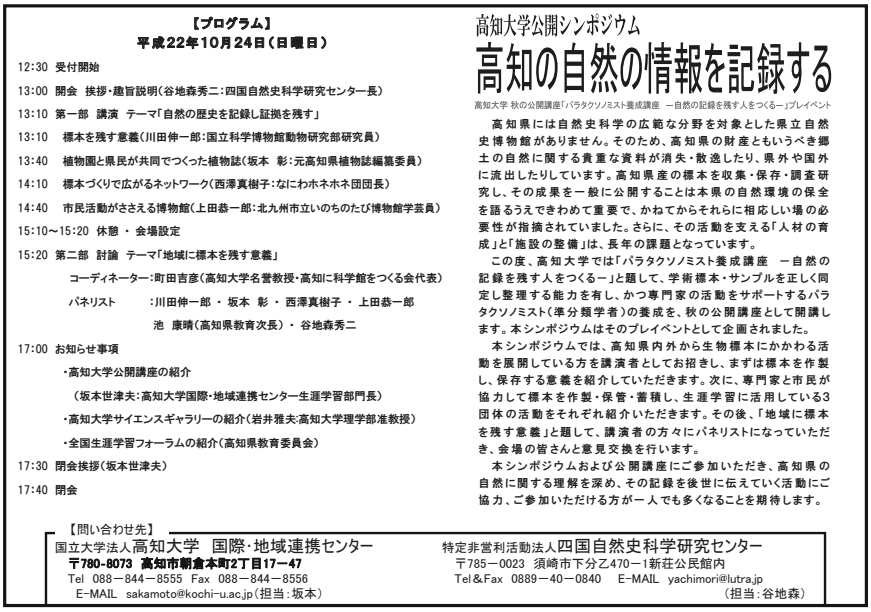
高知市窓口：総務部総合政策課（TEL：088-823-9407）

③「環境」に関する人材育成を目途とした講座：２講座（プレシンポジウム「高知の自然の情報を記録する」を含む）

○「環境」をテーマとした講座、「パタラクソノミスト養成講座－自然の記録を残す人をつくる－」と「四国の野生生物－その現状と課題－」の開催に先立ち、平成 22 年 10 月 24 日（日）にプレシンポジウム「高知の自然の情報を記録する」を開催した。

また、本シンポジウムは、本年度開催される「全国生涯学習フォーラム高知大会」の１つのテーマである「環境保全活動におけるＮＰＯ等との連携と環境教育 」に繋げるためのイベントでもあった。

本シンポジウムには、約 80 名の方に参加いただいた。



【プログラム】

平成22年10月24日（日曜日）

12:30 受付開始

13:00 開会 挨拶・趣旨説明（谷地森秀二：四国自然史科学研究センター長）

13:10 第一部 講演 テーマ「自然の歴史を記録し証拠を残す」

13:10 標本を残す意義（川田伸一郎：国立科学博物館動物研究部研究員）

13:40 植物園と県民が共同でつくった植物誌（坂本 彰：元高知県植物誌編纂委員）

14:10 標本づくりで広がるネットワーク（西澤真樹子：なにわホネホネ団団長）

14:40 市民活動がささえる博物館（上田恭一郎：北九州市立いのちのたび博物館学芸員）

15:10～15:20 休憩 ・ 会場設定

15:20 第二部 討論 テーマ「地域に標本を残す意義」

コーディネーター：町田吉彦（高知大学名誉教授・高知に科学館をつくる会代表）

パネリスト　：川田伸一郎 ・ 坂本 彰 ・ 西澤真樹子 ・ 上田恭一郎

池 康晴（高知県教育次長）・ 谷地森秀二

17:00 お知らせ事項

・高知大学公開講座の紹介

（坂本世津夫：高知大学国際・地域連携センター生涯学習部門長）

・高知大学サイエンスギャラリーの紹介（岩井雅夫：高知大学理学部准教授）

・全国生涯学習フォーラムの紹介（高知県教育委員会）

17:30 閉会挨拶（坂本世津夫）

17:40 閉会

高知大学公開シンポジウム

高知の自然の情報を記録する

高知大学 秋の公開講座「パラタクソノミスト養成講座 －自然の記録を残す人をつくる－」プレイベント

高知県には自然史科学の広範な分野を対象とした県立自然史博物館がありません。そのため、高知県の財産ともいうべき郷土の自然に関する貴重な資料が消失・散逸したり、県外や国外に流出したりしています。高知県産の標本を収集・保存・調査研究し、その成果を一般に公開することは本県の自然環境の保全を語るうえできわめて重要で、かねてからそれらに相応しい場の必要性が指摘されていました。さらに、その活動を支える「人材の育成」と「施設の整備」は、長年の課題となっています。

この度、高知大学では「パラタクソノミスト養成講座 －自然の記録を残す人をつくる－」と題して、学術標本・サンプルを正しく同定し整理する能力を有し、かつ専門家の活動をサポートするパラタクソノミスト（準分類学者）の養成を、秋の公開講座として開講します。本シンポジウムはそのプレイベントとして企画されました。

本シンポジウムでは、高知県内外から生物標本にかかわる活動を展開している方を講演者としてお招きし、まずは標本を作製し、保存する意義を紹介していただきます。次に、専門家と市民が協力して標本を作製・保管・蓄積し、生涯学習に活用している3団体の活動をそれぞれ紹介いただきます。その後、「地域に標本を残す意義」と題して、講演者の方々にパネリストになっていただき、会場の皆さんと意見交換を行います。

本シンポジウムおよび公開講座にご参加いただき、高知県の自然に関する理解を深め、その記録を後世に伝えていく活動にご協力、ご参加いただける方が一人でも多くなることを期待します。

【問い合わせ先】

国立大学法人高知大学　国際・地域連携センター
〒780-8073　高知市朝倉本町2丁目17－47
Tel　088－844－8555　Fax　088－844－8556
E-MAIL　sakamoto@kochi-u.ac.jp（担当：坂本）

特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター
〒785－0023　須崎市下分乙470－1新荘公民館内
Tel＆Fax　0889－40－0840　E-MAIL　yachimori@lutra.jp
（担当：谷地森）

高知大学公開シンポジウム

高知の自然の情報を記録する

高知大学 秋の公開講座「パラタクソノミスト養成講座 －自然の記録を残す人をつくる－」プレイベント

【参加費】
無料
【開催日】
平成22年10月24日（日曜日）
【時 間】
午後1時～5時40分
【会 場】
高知大学メディアホール
（高知市曙町 総合キャンパス メディアの森 6階）

ニホンザル *Macaca fuscata*
標本番号 SZNH－MA－336

第一部
講演「自然の歴史を記録し証拠を残す」
講演者
国立科学博物館研究員
元高知県植物誌編集委員
なにわホネホネ団団長
北九州市立いのちのたび博物館学芸員
第二部
討論「地域に標本を残す意義」
コーディネーター
高知に科学館をつくる会代表
パネリスト
講演者
高知県教育次長
四国自然史科学研究センター長

全国生涯学習フォーラム高知大会

主 催　国立大学法人高知大学　国際・地域連携センター
共 催　特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター
協 賛　全国生涯学習フォーラム高知大会実行委員会
後 援　高知に科学館をつくる会　こうちミュージアムネットワーク　高知県教育委員会　高知県　高知新聞社
RKC高知放送　NHK高知放送局　エフエム高知　KUTVテレビ高知　KSSさんさんテレビ　土佐生物学会
特定非営利活動法人環境のはこうち（順不同）

④「地域再生」に関する人材育成を目途とした講座：１講座

○「地域再生」をテーマとし、松田一敬氏（北海道ベンチャーキャピタル株式会社　代表取締役）、堂野智史氏（関西ネットワークシステム）、吉田敦也氏（徳島大学地域創生センター）、斉藤俊幸氏（イング総合計画株式会社　代表取締役）をお招きし、本学国際・地域連携センター教員とともに講座を開設した。最終回には、パネルディスカッションを行った。

合計９講座

講座名	定員	受講者	備考
『資本論』第Ⅰ巻をよむ	30	14	
これからの時代のライフプランと資産運用を考える	30	9	
対人関係を円滑にするコミュニケーション	30	9	
母子保健・・・お母さんの健やかな子育て支援・・・	30	6	
高知市総合調査（自然編）【高知大学・高知市共催公開講座】	(50)	(Av44)	延人数 221／5 回＝44 人
高知市総合調査（社会編）【高知大学・高知市共催公開講座】	(50)	(Av27)	延人数 134／5 回＝27 人
パラタクソノミスト養成講座	30	13	
四国の野生生物　－その現状と課題－	30	4	
「地域再生」入門　－地域再生の事例から高知県の活性化を考える－	30	7(9)	
合計　7(9)講座（参加率：29.5(45.8)％）	210(100)	62(80)	

＊参考：平成 21 年度　13 講座（参加率 40.8%）

1 公開講座②

出前公開講座「自然と文化」

出前公開講座「自然と文化」は、大学が地域に出かけて、市町村の教育委員会と連携して開催する公開講座である。平成 22 年度は、平成 21 年度と同じく、中土佐町、土佐町、大豊町の３地域で開催した。開催にあたっては、事前に講義内容を教育委員会と協議し、地域（市町村）の要望に応じた内容、地域の特性を重視した地域独自の講座内容としている。したがって、テキストは開催地ごとに独自の内容で作成した。

〈中土佐町〉

平成２２年度　高知大学公開講座

「自然と文化」ご案内

主　催　高知大学国際・地域連携センター生涯学習部門

共　催　中土佐町教育委員会

○日　時　第１回　６月３０日（水）　午後７：１５～９：００
第２回　７月　７日（水）　午後７：３０～９：００
第３回　７月１４日（水）　午後７：３０～９：００
第４回　７月２１日（水）　午後７：３０～９：００
第５回　７月２８日（水）　午後７：３０～９：１５

○場　所　**第１～３回「中土佐町大野見保健福祉センター」、第４～５回「中土佐町民交流会館」**
＊１回～３回目と４回～５回目で会場が異なります。ご注意下さい。

○講座テーマ：「もうちょっと、龍馬を知ろう」

第１回　**龍馬と土佐藩**
高知県立坂本龍馬記念館　主任学芸員　**三浦（みうら）　夏樹（なつき）**

第２回　**龍馬と幕末明治の土佐の絵師たち**
高知県立美術館　学芸員　**後藤（ごとう）　雅子（まさこ）**

第３回　**明智光秀と龍馬**
高知大学国際・地域連携センター　教授　**坂本（さかもと）　世津夫（せつお）**

第４回　**坂本乙女のオンリー・ワン・スピリッツ**
エッセイスト（高知新聞朝刊連載「はちきん修行記・訪ねて候」他）　**渡辺（わたなべ）　瑠海（るみ）**

第５回　：**「今に生きる龍馬」～龍馬の魅力を考える～**
高知県立坂本龍馬記念館　学芸員　**前田（まえだ）　由紀枝（ゆきえ）**

○募集人員　　３０人（＊受講料は無料です）
受講される方にはテキストを頒布し、３回以上出席された方には修了証書を授与します。

○お申し込み　中土佐町教育委員会（TEL0889－57－2023）へ、６月２９日（火）までにお申し込みください。（当日の参加も可能ですが、できるだけ事前にお申し込みください。）

○少しだけ、高知大学国際・地域連携センター、生涯学習部門のコマーシャル
高知大学国際・地域連携センター、生涯学習部門では、いろいろな学習の場を提供しています。なんでも、お気軽にご相談下さい。

お問い合わせ先：高知大学国際・地域連携センター生涯学習部門
TEL：088-844-8454　FAX：088-844-8556
E-mail：sakamoto@kochi-u.ac.jp（坂本）
＊ホームページも見てね　ＵＲＬは　→　http://www.kochi-u.ac.jp/~wwwlife/index.html

講座題目・講師一覧

月　日	時間	講座の内容と講師
６月３０日（水）	19:15～19:30	開　講　式
	19:30～21:00	**龍馬と土佐藩**　三浦　夏樹 龍馬が抱いていた藩や日本に対する考え方について、好対照である武市半平太の考え方と対比しながら説明いたします。龍馬は藩に対する忠義や親・先祖に対する孝行より、朝廷を中心とした日本全体のことを考えるべきだと主張して脱藩しました。逆に武市は忠義と孝行を重んじ、藩に拘り続けました。同じ下級武士の出身であるのに、なぜ違う考えを持つようになったのか。また、藩を捨てたはずの龍馬が、慶応3年には土佐藩と手を結びます。脱藩後の龍馬は、土佐藩のことをどう考えていたのか、などを紹介いたします。
７月　７日（水）	19:30～21:00	**龍馬と幕末明治の土佐の絵師たち**　後藤　雅子 龍馬が活躍し礎を築いた幕末・明治。高知では絵金が土佐独特の芝居絵屏風を展開し、龍馬に航海通商策を教えたといわれる絵師・河田小龍が舶来物の絵の具や遠近法、写実的な表現などを作品に取り入れています。一方で壬生水石や徳弘蕉斎、橋本小霞ら伝統的な流れを汲む南画の絵師たちも活躍しました。小龍は、アメリカから帰国したジョン万次郎の異国での体験を聞き書きした『漂巽紀畧』を著し、維新の志士たちとも交流するなど、絵師としてだけでなく知識人としても名を馳せました。他にも龍馬に砲術を、武市瑞山に絵を教えた徳弘蕉斎や龍馬の義兄・高松小楚など、龍馬ら維新の志士と関わりの深い絵師たちは数多くいます。土佐を舞台に繰り広げられた小龍、絵金をはじめとする様々な絵師たちの幅広い画業と交流をご紹介いたします。
７月１４日（水）	19:30～21:00	**明智光秀と龍馬**　坂本　世津夫 坂本龍馬は、本能寺の変で織田信長を討った明智光秀の子孫であるという説がある。龍馬が生まれた坂本家の家紋は「組合い角」という形の、中央に桔梗をかたどったものであるが、この桔梗の形が明智家の家紋「桔梗紋」と同じである。本能寺の変の後、明智光春は自決して子どもたちは全国に散り散りとなって隠れ住んだ。その一人が坂本太郎五郎で、土佐で坂本家を起こした。 しかし、太郎五郎が光春の息子であると立証されず、長らく仮説ととらえられてきたが、光春の本妻の墓が南国市亀岩にあった。関が原の戦い前まで土佐を治めた長宗我部家は、3代続けて明智の重臣でもある美濃の斎藤家から妻を迎えている。明智（土岐氏）は土佐に地縁があった。戦国時代の土佐は、今までの歴史観（イメージ）を覆す可能性が出てきた。
７月２１日（水）	19:30～21:00	**坂本乙女のオンリー・ワン・スピリッツ**　渡辺　瑠海 坂本龍馬を育て上げた姉、乙女。龍馬が最も慕った女性は風変わりで、龍馬よりも更に個性的。当時土佐ではこの姉にして龍馬ありと言われた、別名「坂本のお仁王さま」乙女の生活のこだわりや、親友・武市富子（武市半平太の妻）との交友。そして龍馬との知られざるエピソードや武勇伝をご紹介。また、姪の春猪はなぜ龍馬たちに「おやべ」と呼ばれていたのか？　その驚くべきニックネーム由来の考察も織り交ぜながら、坂本家に受け継がれる「優しさとユーモア」「オンリー・ワン・スピリッツ」に迫ります。
７月２８日（水）	19:30～21:00	**「今に生きる龍馬」～龍馬の魅力を考える～**　前田　由紀枝 今年は NHK 大河ドラマ「龍馬伝」の影響もあって、高知はもちろん、各地で“龍馬フィーバー”が再燃している。 なぜ今、龍馬なのか？龍馬とは何者なのか？　龍馬という人は時代の求めによって、小説やドラマで何度も蘇った。死んで 140 年以上経った今、ますます生き生きとしている感がする。時代は何を龍馬に求めているのだろう。龍馬の手紙や資料から龍馬の魅力を探り、今に生きる私たちへのメッセージを考えていく。
	21:00～21:15	閉　講　式 （修了証書授与）

中土佐町

土佐町

〈土佐町〉

平成２２年度　高知大学公開講座

「自然と文化」ご案内

主　催　高知大学国際・地域連携センター生涯学習部門

共　催　土佐町教育委員会

○日　時　第１回　８月１９日（木）　午後６：４５～８：３０
第２回　８月２６日（木）　午後７：００～８：３０
第３回　９月　２日（木）　午後７：００～８：３０
第４回　９月　９日（木）　午後７：００～８：３０
第５回　９月１６日（木）　午後７：００～８：４５

○場　所　土佐町保健福祉センター（あじさいホール）

○講座タイトルと講師

第１回　**早寝、早起き、朝ごはんで成績アップ！**
～子ども達の総合睡眠健康改善教育プログラム策定にむけて～
教育学部　学校教育教員養成課程（理科教育）　教授　**原田　哲夫**（はらだ　てつお）

第２回　**身近な生きものカエルを考える**　**～人の営みに翻弄される生きもの～**
特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター　センター長　**谷地森　秀二**（やちもり　しゅうじ）

第３回　**「今に生きる龍馬」～龍馬の魅力を考える～**
高知県立坂本龍馬記念館　学芸主任　**前田　由紀枝**（まえだ　ゆきえ）

第４回　**スポーツと子どもの成長**
教育学部　生涯教育課程（保健体育）　教授　**本間　聖康**（ほんま　きよやす）

第５回　**インターネット社会**　**－その便利さと危険性－**
国際・地域連携センター　教授　**坂本　世津夫**（さかもと　せつお）

○募集人員　３０人
受講される方にはテキストを頒布し、３回以上出席された方には修了証書を授与します。

○お申し込み　**土佐町教育委員会事務局（TEL0887－82－0483）へ、８月１７日（火）**までにお申し込みください。

○受講料　**１講座 500 円**

○少しだけ、高知大学国際・地域連携センター、生涯学習部門のコマーシャル
高知大学国際・地域連携センター、生涯学習部門では、いろいろな学習の場を提供しています。なんでも、お気軽にご相談下さい。

お問い合わせ先：高知大学国際・地域連携センター生涯学習部門
TEL：088-844-8555　FAX：088-844-8556
E-mail：sakamoto@kochi-u.ac.jp（坂本）
＊ホームページも見てね　ＵＲＬは　→　http://www.kochi-u.ac.jp/~wwwlife/index.html

講座題目・講師一覧

月　日	時間	講座の内容と講師
８月１９日(木)	18:45～19:00	**開　講　式**
	19:00～20:30	**早寝、早起き、朝ごはんで成績アップ！** **～子ども達の総合睡眠健康改善教育プログラム策定にむけて～**　**原田　哲夫** 子ども達の生活リズム改善の為には乳幼児から大学生までの総合睡眠健康改善教育プログラムの策定が喫緊の課題であり、このプログラムの策定には年齢別の介入と効果の検証がその基礎として不可欠である。乳幼児・小学校低学年対象には、「おやすみテレビくん、おやすみゲームくんシール貼り、生活リズム改善リーフレットの配布」による約１か月の介入、小学校高学年・中学生対象には「生活リズム改善リーフレット(原田ら, 2008)」と補助教材を使った睡眠健康改善のための授業実践」、特別支援学校対象には「児童生徒ごとに睡眠健康評価を行い、それぞれの子どもが持つ障害と睡眠障害の特徴との関係を明確にし、睡眠健康の改善案の個別提案につなげる」、大学生対象には、「スポーツ選手の朝食メニューの改善やその後の太陽光暴露の介入」が提案された。本講座では、これらの実施結果の経過を述べ、改善プログラムの具体的内容について考えたい。
８月２６日(木)	19:00～20:30	**身近な生きものカエルを考える** **～人の営みに翻弄される生きもの～**　**谷地森　秀二** 誰でも知っている生きもの、カエル。昔から人の身近にすんでいたカエル。水辺の環境において、多くの生きものを食べ、また多くの生きものに食べられるカエル。幼生時代は水中で暮らし、生体になると陸上でも暮し始めるカエル。その生活は、人の営みに上って大きく影響を受けてきました。そして今、人の生活様式の変化のために絶滅が心配される種が出てきてしまいました。 高知県には 11 種のカエルがすんでいますが、全ての名前や鳴声を言い当てられる人は少ないでしょう。本講演では、高知にすんでいるカエルたちをまず紹介します。その後、絶滅が心配されている種類が出てきてしまった要因を示しながら、人とカエルの共生の道を模索したいと考えます。
９月　２日(木)	19:00～20:30	**「今に生きる龍馬」～龍馬の魅力を考える～**　**前田　由紀枝** 今年は NHK 大河ドラマ「龍馬伝」の影響もあって、高知はもちろん、各地で"龍馬フィーバー"が再燃している。 なぜ今、龍馬なのか？龍馬とは何者なのか？　龍馬という人は時代の求めによって、小説やドラマで何度も蘇った。死んで 140 年以上経った今、ますます生き生きとしている感がする。時代は何を龍馬に求めているのだろう。龍馬の手紙や資料から龍馬の魅力を探り、今に生きる私たちへのメッセージを考えていく。
９月　９日(木)	19:00～20:30	**スポーツと子どもの成長**　**本間　聖康** 子どもの望ましい発育・発達をサポートするには、身体の形態や機能に関する研究成果を踏まえ、活用することが大切である。人の身体は、組織・器官により発育の度合いが異なるので、スポーツという観点からも、年齢に応じて扱いを変えなければならない。子どもにとって望ましい身体を、身のこなしが巧みであること(神経系)、スタミナがあること(呼吸循環系)、力強いこと(筋系)という要素からみていき、子どもにとっての、身体の働きの発育を考慮した、年齢に応じた運動をみていく。また、発育期のスポーツ外傷・障害の予防という観点から注意すべき点についても触れる。
９月１６日(木)	19:00～20:30	**インターネット社会　－その便利さと危険性－**　**坂本　世津夫** 情報通信技術(ICT)は、人々が生活していくうえで避けては通れない技術になりました。しかし、ブロードバンド基盤や地上デジタル放送の整備などデジタル基盤が整備されている中、地域住民の多くはまだその十分な成果を実感できずにいます。同時に、情報通信社会は便利さとは裏腹に危険性をもはらんでいます。デジタル技術が「空気や水」のように当たり前に使えるような環境になっているのかどうかを、生活者の視点に立って検証するとともに、生活者に対して、デジタル技術で変わる暮らしのイメージを与え、自ら進んでデジタル技術を使うような環境づくりを整える必要があります。自治体、医療、教育、家庭、地域づくり等の各分野でデジタル技術がもたらす生活者にとっての利点や懸念を明らかにした上で、デジタル技術が使いやすい環境とはどのようなものか、また、そのような環境を作りあげるためには何が必要なのかを考えたいと思います。
	20:30～20:45	**閉　講　式** （修了証書授与）

土佐町

大豊町

〈大豊町〉

平成２２年度　高知大学公開講座

「自然と文化」ご案内

主　催　高知大学国際・地域連携センター生涯学習部門

共　催　大豊町教育委員会

○日　時　第１回　　１０月　１日（金）　午後７：００～８：４５
第２回　　１０月　８日（金）　午後７：００～８：３０
第３回　　１０月１５日（金）　午後７：００～８：３０
第４回　　１０月２２日（金）　午後７：００～８：３０
第５回　　１０月２９日（金）　午後７：００～８：４５

○場　所　大豊町総合ふれあいセンター　３階多目的ホール

○講座タイトルと講師

第１回　**明智光秀と龍馬**

国際・地域連携センター　教授　**坂本　世津夫**（さかもと せつお）

第２回　**「友だち以上　恋人未満とは」**

人文学部　人間文化学科　人間基礎論　准教授　**増田　匡裕**（ますだ まさひろ）

第３回　**おいしいものには、徳（得）がある**

医学部　医学科　医療学助教　**弘田　量二**（ひろた りょうじ）

第４回　**環境問題と消費行動の関わり―　あなたは地球にやさしいですか？　―**

教育学部　附属教育実践総合センター　教授　**小島　郷子**（こじま きょうこ）

第５回　**私たちが食べている養殖魚の話**

農学部　農学科　国際支援学　教授　**益本　俊郎**（ますもと としろう）

○募集人員　　３０人

受講される方にはテキストを頒布し、３回以上出席された方には修了証書を授与します。

○お申し込み　大豊町教育委員会　　（TEL0887-72-0450）へ、
９月２２日（水）までにお申し込みください。

○受講料　１，２００円

○少しだけ、高知大学国際・地域連携センター、生涯学習部門のコマーシャル

高知大学国際・地域連携センター、生涯学習部門では、いろいろな学習の場を提供しています。なんでも、お気軽にご相談下さい。

お問い合わせ先：高知大学国際・地域連携センター生涯学習部門
TEL：088-844-8555　FAX：088-844-8556
E-mail：sakamoto@kochi-u.ac.jp（坂本）

＊ホームページも見てね　ＵＲＬは　→　http://www.kochi-u.ac.jp/~wwwlife/index.html

講座題目・講師一覧

月　日	時間	講座の内容と講師
１０月１日（金）	19:00～19:15	**開　講　式**
	19:15～20:45	**明智光秀と龍馬**　坂本　世津夫 坂本龍馬は、本能寺の変で織田信長を討った明智光秀の子孫であるという説がある。龍馬が生まれた坂本家の家紋は「組合い角」という形の、中央に桔梗をかかげたものであるが、この桔梗の形が明智家の家紋「桔梗紋」と同じである。本能寺の変の後、明智光春は自決して子どもたちは全国に散り散りとなって隠れ住んだ。その一人が坂本太郎五郎で、土佐で坂本家を起こした。 しかし、太郎五郎が光春の息子であると立証され、長らく仮説ととらえられてきたが、光春の本妻の墓が南国市亀岩にあった。関が原の戦い前まで土佐を治めた長宗我部家は、3代続けて明智の重臣でもある美濃の斎藤家から妻を迎えている。明智（土岐氏）は土佐に地縁があった。戦国時代の土佐は、今までの歴史観（イメージ）を覆す可能性が出てきた。
１０月８日（金）	19:00～20:30	**「友だち以上　恋人未満とは」**　増田　匡裕 名前を付けることは、仕事を区別して整理する大切な作業です。学問の場合、専門家しか分からない暗号みたいな用語のこともありますし、多くの人が日常的に使う言葉をそのまま用いることもあります。社会心理学という学問は、私たちが普段何も考えずに上手くできることや、いつも何故だか失敗してしまうことを考える学問ですので、世間で普通に通用する言葉の意味を重視します。 友だちと上手くいかないとき、「友だちって何だろう」と誰しも考えますが、社会心理学者も一緒に「そもそも『友だち』の定義は何だろう」と考えるのです。そして何気ない言葉違いにも耳を澄ませます。「友だち以上恋人未満」なんていう言い方ができるということは、さて、私たちは「友だち」と「恋人」をどんなふうに区別しているのでしょうか。
１０月１５日（金）	19:00～20:30	**おいしいものには、徳（得）がある**　弘田　量二 高知に暮らして早５年、弘田家も５回目のお米の収穫を迎えました。大学で教育に携わる傍ら、義父の水田を手伝っています。我が家では、ひと月で食べきれる量だけ、その都度精米して、残りは、涼しい納屋に貯蔵しております。品種はコシヒカリ。炊きたてご飯は、そりゃ、もう、絶品です！！　おかずなしで、何度でもおかわりいけます。お米は生きて呼吸しているので貯蔵中にいやな匂いの成分も作り出しますし、気温・湿度が高いと害虫やかびも発生します。電気のいらない、昔ながらの納屋は究極のエコ冷蔵庫です。カビの種類には、時にはアフラトキシンという猛毒をだすやつもいます。まあ、かびのついたお米は、あきらかに美味しくないですから、勿体無いと言わずに、廃棄するのがよいでしょう。ただし、毒というのは、いつも悪者というわけではなく、時にはボツリヌス菌がだすボツリヌストキシンのように、人間を殺すほどの能力があると同時に、ちょうどいい量を使うのならば、しわとり薬にもなるものもあり、人体にいい効果があれば薬だし、害がでれば毒と呼ばれるのです（人間の都合です！）。私の研究室では、こういった様々な物質の毒性を調べております。毒は薬の効果も併せ持っているのですから、食べ物のもっている健康へのいい効果も調べております。今回は、ゆずや番石茶といった大豊町にゆかりなる食べ物のいい効果についてお話したいと思います。
１０月２２日（金）	19:00～20:30	**環境問題と消費行動の関わり　―あなたは地球にやさしいですか？　―**　小島　郷子 世界中で環境に対する意識が高まっている――こんな記事を目にしたことがあるでしょうか。しかし、一人ひとりの消費行動が環境保護にどう役立っているのか、本当に理解しているでしょうか。環境と調和し、持続可能な世界を実現するために、人々はどのくらい行動しているのでしょうか。 今日の環境問題の根底には、大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会経済システムの形成とそれに支えられた私たちの生活からの環境負荷があります。持続可能な世界の実現のためには、私たちは身につけてきたライフスタイルを大幅に修正、あるいは抜本的に変化させなければならなくなってきています。 本講座では、環境に影響を与える消費行動の現状を把握し、環境配慮型消費行動について考えてみたいと思います。
１０月２９日（金）	19:00～20:30	**私たちが食べている養殖魚の話**　益本　俊郎 昨今の健康食ブームにより魚食が注目されています。そして量販店の鮮魚コーナーなどに行くと最近「養殖」の文字をよく目にします。農畜産物が人の手によって、お米や野菜あるいは牛や豚などが育てられて我々の食料になるように、人が世話をして育てられた魚が養殖魚です。陳列されている養殖魚は何を食べてどのように育てられてきたのでしょうか。普段あまり知られていない、でも消費者にとっては気になる、養殖魚の飼育方法や飼料について、歴史や技術の変遷なども含めてお話をします。
	20:30～20:45	**閉　講　式** （修了証書授与）

自治体名	講座名	定員	延人数
大豊町	明智光秀と龍馬	30	31
	「友だち以上　恋人未満とは」	30	28
	おいしいものには、徳(得)がある	30	29
	環境問題と消費行動の関わり-あなたは地球にやさしいですか？-	30	26
	私たちが食べている養殖魚の話	30	25
小計 5 講座(参加率:93%)		150	139
中土佐町	龍馬と土佐藩	30	34
	龍馬と幕末明治の土佐の絵師たち	30	33
	明智光秀と龍馬	30	33
	坂本乙女のオンリー・ワン・スピリッツ	30	29
	「今に生きる龍馬」～龍馬の魅力を考える～	30	24
小計 5 講座(参加率:102%)		150	153
土佐町	早寝、早起き、朝ごはんで成績アップ！	30	17
	身近な生きものカエルを考える～人の営みに翻弄される生きもの～	30	14
	「今に生きる龍馬」～龍馬の魅力を考える～	30	17
	スポーツと子どもの成長	30	19
	インターネット社会-その便利さと危険性-	30	14
小計 5 講座(参加率:54%)		150	81
合計　15 講座(参加率:83%)		450	373

＊参考１：平成 22 年度　延受講者数 373 名、実受講者数 114 名、修了証書授与者数 78 名
＊参考２：平成 21 年度　15 講座（参加率 83.4%）　定員 500 名　延受講者数 417 名

2 オープンクラス

平成 22 年度　オープン･クラス(授業を一般市民に公開)

本学では、学生向けの授業を一般市民にも公開し、生涯学習に対する社会的要請に応えるとともに、地域社会と大学との連携をますます深めようとしている。オープン･クラスとは、一般の学生とともに受講していただくためのコースで、演習・実習を除く全ての講義形式の講座を開放している。基本的に、１講座の受講生は３名に限定している。授業を一般市民に開放してはいるが、講義の内容を一般向けに考慮することは行っていない。オープン・クラスの受講にあたっては、受講生として登録していただいている。

授業はあくまでも本学の学生を対象にしたものであるため、授業内容が希望に沿うものであるかを試聴期間中（通常第１回目の講義）に十分検討していただくようにしている。その上で、担当教員の承認を得て受講を認めている。

今後、大学は地域社会の中で一般市民のキャリア教育やリカレント教育をいかに担っていくかが課題である。積極的に大学を開放し、地域生涯学習システムの一つの柱として、オープン・クラスの充実を図っていく必要性がある。

○オープン・クラス（１学期）

受付期間：平成 22 年３月 23 日（火）～平成 22 年４月２日（金）

開講期間：平成 22 年４月９日（金）～平成 22 年８月６日（金）

開講講座数：35 講座

受講者数：79 名

平成22年度 オープン･クラス授業科目一覧(第1学期)

本学の学生を対象とする授業を学生とともに受講していただくクラスです。

※単位認定は行いません。

※通常授業の開放であり受講生のために特に開設されたものでないことをご了承ください。

受付期間:第1学期　平成22年3月23日(火)～平成22年4月2日(金)

開講期間:第1学期　平成22年4月9日(金)～平成22年8月6日(金)

受　講　料　　1科目 3,000円（消費税込）

オープン･クラス授業科目一覧のご説明

注1:レベル欄の説明

A 入門的な内容であり、高等学校卒業程度の学力を要する(対象:大学1年次学生～)

B より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となるもの(対象:大学2年次学生～)

C 高度な内容であり、当該専門分野について系統立てた学習がなされていることを要する(対象:3～6年次学生)

事前に教室配置図等で講義室をご確認ください。

なお、受講者数等の関係で講義室が変更になることがあります。教員の指示や変更掲示にご注意ください。

授業時間は、次のとおりとなっています。ただし、医学部の時間については、各授業科目の時間割をご確認願います。

時限	1	2	3	4	5
時間	08:50～10:20	10:30～12:00	13:10～14:40	14:50～16:20	16:30～18:00

平成２２年度　オープン・クラス授業科目一覧について（第１学期）

共通教育

授業科目	学部	担当教員	曜日	時限	レベル	キャンパス	定員
言語の探求	教育学部	久野　眞	金	2	A	物部	3 名
フードサイエンスの世界	農学部	八木　年晴　他	火	1	A	朝倉	3 名
環境資源学概論	農学部	依光　良三	木	2	A	物部	3 名
生命の科学	農学部	大谷　和弘	金	2	A	物部	3 名
植物遺伝学概論	農学部	村井　正之	金	5	A	物部	3 名
医療人間学原論	医学部	阿部　眞司	水	3	A	岡豊	3 名
生命学・死生学	医学部	阿部　眞司	水	2	A	岡豊	3 名
学問基礎論	医学部	坂本　雅代	火	2	A	岡豊	3 名
課題探求実践ｾﾐﾅｰ（看護学科）	医学部	髙橋　永子	金	4、5	A	岡豊	3 名

専門教育

授業科目	学部	担当教員	曜日	時限	レベル	キャンパス	定員
宗教学概論Ⅰ	人文学部	安藤　恵崇	火	4	B	朝倉	3 名
日本史概論Ⅰ	人文学部	津野　倫明	木	2	B	朝倉	3 名
言語・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ研究概論	人文学部	古閑　恭子	火	2	A	朝倉	3 名
ヨーロッパ社会文化論特講	人文学部	斎藤　昌人	火	4	A	朝倉	3 名
刑法Ⅰ	人文学部	稲田　朗子	木	2	B	朝倉	3 名
政治学	人文学部	上神　貴佳	水	2	B	朝倉	3 名
英語学特講	教育学部	谷口　雅基	火	5	C	朝倉	3 名
言語文化論	教育学部	谷口　雅基	木	5	C	朝倉	3 名
地理学・地誌学概論	教育学部	岡田　俊裕	金	2	B	朝倉	3 名
哲学概論	教育学部	原崎　道彦	水	2	A	朝倉	3 名
生徒指導	教育学部	加藤　誠之	月	4	A	朝倉	3 名
東洋史特講	教育学部	遠藤　隆俊	木	5	B	朝倉	3 名
教科専門演習Ⅰ	教育学部	遠藤　隆俊	火	5	C	朝倉	3 名
量子力学Ⅰ	理学部	飯田　圭	金	2	B	朝倉	3 名
風環境工学	理学部	佐々　浩司	火	3	A	朝倉	3 名
組合せとグラフの理論	理学部	塩田　研一	金	2	A	朝倉	3 名
生命分子工学	理学部	宇田　幸司、砂長　毅	金	1	A	朝倉	3 名
堆積学	理学部	奈良　正和	金	3	B	朝倉	3 名
有機材料化学	理学部	吉田　勝平・渡辺　茂	月	2	C	朝倉	3 名
食品生化学	農学部	永田　信治	月	1	B	物部	3 名
食品化学	農学部	受田　浩之	月	1	C	物部	3 名
食品分析学	農学部	受田　浩之	月	2	C	物部	3 名
測量学	農学部	松岡　真如	月	2	B	物部	3 名
熱帯農業論	農学部	山本　由徳	月	4	B	物部	3 名
農業気象学	農学部	森　牧人	水	3	B	物部	3 名
水族環境学	農学部	足立　真佐雄	木	2	C	物部	3 名
熱帯林業論	農学部	市栄　智明	金	2	B	物部	3 名
リモートセンシング	農学部	松岡　真如	金	2	C	物部	3 名
栽培学	農学部	山本　由徳	金	3	B	物部	3 名
生化学	医学部	本家　孝一	月 4、金 1		A	岡豊	3 名
保健医療制度	医学部	安田　誠史	木	2	C	岡豊	1～2 名
基礎看護学概論Ⅰ（演）	医学部	坂本　雅代	木	3	A	岡豊	3 名
生理学【通年】	医学部	椛　秀人、佐藤　隆幸	1 学期：月 1・2、金 2 2 学期：月 3・4		C	岡豊	3 名
臨床医学総括講義（内科学 2）【集中授業】	医学部	寺田　典生	6/8　2・3 限、6/10　4 限、6/11　2・3 限		C	岡豊	3 名
統合医学Ⅰ・Ⅱ（内科学 2）【集中授業】	医学部	井上　眞理	6/15　2～4 限、6/17　4 限、6/18　2～4 限		C	岡豊	3 名
臨床医学総括講義(神経精神医学)【集中授業】	医学部	掛田　恭子	10/19　2～4 限、10/26　2、3 限		B	岡豊	3 名
臨床医学総括講義（外科学 1）【集中授業】	医学部	花崎　和弘	8/30　3・5 限、9/3　3 限、9/8　5 限		C	岡豊	3 名
臨床医学総括講義(産科婦人科学)【集中授業】	医学部	泉谷　知明	9/7　3・5 限、9/9　4・5 限、9/15　3 限		C	岡豊	3 名
臨床医学総括講義（整形外科学)【集中授業】	医学部	武政　龍一	9/29　3・4 限、10/6　2・3 限		C	岡豊	3 名
臨床医学総括講義（眼科学）【集中授業】	医学部	福島　敦樹	9/30　2・3 限、10/12　2・3 限		C	岡豊	3 名
臨床医学総括講義(耳鼻咽喉科学)【集中授業】	医学部	兵頭　政光	9/27　2 限、9/29　2 限、10/7　2・3 限		C	岡豊	3 名
臨床医学総括講義(脳神経外科学)【集中授業】	医学部	清水　恵司	10/1　2・3 限、10/4　2・3 限		C	岡豊	3 名
臨床医学総括講義(歯科口腔外科学)【集中授業】	医学部	山田　朋弘	9/27　3・4 限、10/8　2・3 限		B	岡豊	3 名

【お問い合せ】
高知大学 国際・地域連携センター
〒780-8073 高知市朝倉本町２丁目 17 番 47 号
TEL：088-844-8555
FAX：088-844-8556
E-MAIL：kokaikoza@kochi-u.ac.jp
URL：http://www.kochi-u.ac.jp/~wwwlife/

○オープン・クラス（２学期）

受付期間：平成 22 年９月 13 日（月）～平成 22 年９月 24 日（金）

開講期間：平成 22 年 10 月１日（金）～平成 23 年２月９日（水）

開講講座数：29 講座

受講者数：61 名

平成22年度　オープン･クラス授業科目一覧（第2学期）

本学の学生を対象とする授業を学生とともに受講していただくクラスです。
※単位認定は行いません。
※通常授業の開放であり受講生のために特に開設されたものでないことをご了承ください。

受付期間：第2学期　平成22年9月13日（月）～平成22年9月24日（金）

開講期間：第2学期　平成22年10月1日（金）～平成23年2月9日（水）

受　講　料　　1科目 3,000円（消費税込）

オープン･クラス授業科目一覧のご説明

注1：レベル欄の説明
A　入門的な内容であり、高等学校卒業程度の学力を要する（対象：大学1年次学生～）
B　より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となるもの（対象：大学2年次学生～）
C　高度な内容であり、当該専門分野について系統立てた学習がなされていることを要する（対象：3～6年次学生）

事前に教室配置図等で講義室をご確認ください。
なお、受講者数等の関係で講義室が変更になることがあります。教員の指示や変更掲示にご注意ください。

授業時間は、次のとおりとなっています。ただし、医学部の時間については、各授業科目の時間割をご確認願います。

時限	1	2	3	4	5
時間	08:50～10:20	10:30～12:00	13:10～14:40	14:50～16:20	16:30～18:00

平成２２年度　オープン・クラス授業科目一覧について（第２学期）

共通教育

授業科目	学部	担当教員	曜日	時限	レベル	キャンパス	定員
魚と食と健康	農学部	足立　真佐雄　他	月	1	A	朝倉	3 名
ライフサイエンスの世界	農学部	曳地　康史　他	火	1	A	朝倉	3 名
自然環境と人間	農学部	河野　俊夫　他	月	3	A	朝倉	3 名
流れと波の災害	農・理	大年　邦雄・佐々　浩司	月	2	A	朝倉	3 名
森林と地球環境	農学部	塚本　次郎　他	木	2	A	朝倉	3 名
環食同源論入門	農学部	益本　俊郎　他	月	2	A	朝倉	3 名

専門教育

授業科目	学部	担当教員	曜日	時限	レベル	キャンパス	定員
宗教学概論Ⅱ	人文学部	安藤　恵崇	火	4	B	朝倉	3 名
考古学Ⅲ	人文学部	清家　章	火	4	C	朝倉	3 名
大衆文化論	人文学部	山下　興作	金	4	B	朝倉	3 名
アジア経済社会論	人文学部	岩佐　和幸	木	2	B	朝倉	3 名
商法Ⅰ	人文学部	堀井　智明	火	1	C	朝倉	3 名
統計学	人文学部	岡村　和明	火	2	C	朝倉	3 名
英語学基礎演習	教育学部	谷口　雅基	火	5	C	朝倉	3 名
地理学特講	教育学部	岡田　俊裕	木	3	B	朝倉	3 名
生徒指導	教育学部	加藤　誠之	月	5	A	朝倉	3 名
東洋史演習	教育学部	遠藤　隆俊	月	4	B	朝倉	3 名
東洋史各論	教育学部	遠藤　隆俊	木	5	B	朝倉	3 名
教科専門演習Ⅱ	教育学部	遠藤　隆俊	火	5	C	朝倉	3 名
力学	理学部	津江　保彦	金	4	B	朝倉	3 名
災害科学	理学部	岡村　眞	木	4	A	朝倉	3 名
数値解析	理学部	塩田　研一	水	2	A	朝倉	3 名
酵素化学	理学部	鈴木　知彦	金	3	B	朝倉	3 名
古生物学	理学部	近藤　康生	木	3	B	朝倉	3 名
水熱科学	理学部	柳澤　和道	金	3	B	朝倉	3 名
熱帯生物環境化学	農学部	田中　壮太	月	1	C	物部	3 名
花卉園芸学	農学部	島崎　一彦	月	2	B	物部	3 名
植物資源機能科学	農学部	大谷　和弘	月	2	B	物部	3 名
熱帯環境論	農学部	大谷　和弘　他	月	4	B	物部	3 名
国際農林水産物市場論	農学部	川田　勲　他	月	4	C	物部	3 名
流域水環境保全学	農学部	藤原　拓	火	2	C	物部	3 名
熱帯水産業論	農学部	益本俊郎・大野正夫	水	2	B	物部	3 名
品質管理学	農学部	河野　俊夫	水	2	C	物部	3 名
熱帯・特用作物学	農学部	山本　由徳	金	2	C	物部	3 名
基礎社会医学－環境医学・疫学	医学部	菅沼　成文	金	2	B	岡豊	3 名
臨床薬理学	医学部	宮村　充彦	水	2	B	岡豊	3 名
基礎看護学概論Ⅱ（演）	医学部	尾原　喜美子　他	水	3	A	岡豊	3 名

【お問い合せ】
高知大学 国際・地域連携センター
〒780-8073 高知市朝倉本町２丁目 17 番 47 号
TEL：088-844-8555
FAX：088-844-8556
E-MAIL：kokaikoza@kochi-u.ac.jp
URL：http://www.kochi-u.ac.jp/~wwwlife/

合計開講講座数　64 講座（参考：平成 21 年度　71 講座）

合計受講者数：140 名（参考：平成 21 年度　143 名）

3 高大連携事業

高等学校との連携 Cooperation with High Schools

平成22年度 2010

サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SPP)事業 Science Partnership Project

大学、研究機関、民間企業等と中学校、高等学校の連携により、児童生徒の科学技術・理科、数学に関する興味・関心と知的探究心等を一層高める機会を充実するために実施する（独）科学技術振興機構が行う事業に参画しました。またSPP事業で採択を受けた高等学校等に教員を派遣しました。

高等学校等	講座型学習活動（高知大学採択分）
本県立高等学校	高校生のための楽しい数学・理科講座

高等学校等	合宿型学習活動（サイエンスキャンプ）
県内外高校生10名	先端科学で地球環境を探る－海洋コアー
県内外高校生8名	先端科学で地球環境を探る－遺伝子資源－
県内外高校生15名	農楽体験～自然を知る、食を知る、生物を知る～

1 講座型学習活動 Invited Lectures （高等学校等採択分） （1）高知南中・高等学校
テーマ：生活環境と科学のかかわり

スーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）事業 Super Science High School Program

科学技術、理科、数学教育を重点的に行う高等学校をスーパーサイエンスハイスクールとして指定し、高等学校及び中高一貫教育校における理科・数学に重点を置いたカリキュラムの開発、大学や研究機関等との効果的な連携方策についての研究を推進し、将来有為な科学技術系人材の育成に資するための（独）科学技術振興機構が行う事業に参画しました。

高知県指定高等学校	実施内容
高知小津高等学校	大学ゼミ、大学体験ゼミ、研究機関体験ゼミ、施設見学

出前講義 Extension Lectures

高等学校に出向き、生徒に大学の講義を体験してもらう模擬授業を実施しています。
平成22年度は延べ55校（103名の教員派遣）で出前講座を開催しました。

① 出前授業（実績）

月	派遣教員数	備考
22年 4月	1	
5月	10	
6月	5	
7月	18	
8月	2	
9月	1	
10月	14	
11月	9	
12月	22	
23年 1月	8	
2月	8	
3月	5	
合計	103	年Av.8.58件

②大学訪問（実績）

月	件数	備考
22年 4月	0	
5月	0	
6月	3	高知高校、京都府立海洋高校、須崎高校
7月	4	愛媛県立松山中央高校、香川県立琴平高校、梼原高校、室戸高校
8月	3	愛媛県立西条高校、高知県教育委員会（アグリウォッチング）、個人
9月	1	高知東高校
10月	4	宿毛高校、香川県立坂出高校、高知東高校、香川県立琴平高校
11月	1	香川高松西高校
12月	3	春野高校、徳島県立脇町高校、香川県立高瀬高校
23年 1月	0	
2月	2	伊野商業高校、窪川高校
3月	0	
合計	21	年Av.1.75件

Section

産学官民連携部門

● 活 動 報 告

平成 22 年

4 月 2 日　四国地区四大学新技術説明会（JST ホール）
4 月 19 日　高知大学・高知銀行連携協議会
5 月 7 日　平成 22 年度土佐フードビジネスクリエーター人材創出開講式
5 月 11 日　高知大学・室戸市連携事業　第 4 回リュウゼツラン活用検討会議
5 月 12 日　高知大学・室戸市連携事業　「変形性膝関節症予防・改善のための水中運動プログラム」（6 月 30 日まで）
6 月 5 日　科学・技術フェスタ in 京都 - 平成 22 年度産学官連携推進会議 -（国立京都国際会館）（出展）
6 月 11 日　四国 6 大学・産総研包括協定連絡協議会（第 16 回大学・産総研連絡協議会（合同））
6 月 24 日　産学連携学会第 8 回大会（函館）（25 日まで）（発表）
6 月 30 日　高知大学・室戸市連携事業　「変形性膝関節症予防・改善のための水中運動プログラム」効果測定会（シレストむろと）
7 月 2 日　高知県中小企業応援センター連絡協議会
7 月 3 日　土佐経済同友会公開シンポジウム「大学と地域貢献」（高知追手前高校芸術ホール）（共催）
7 月 5 日　四国経済産業局　「食と健康」関係機関連絡会議
7 月 7 日　高知大学・室戸市連携事業　「変形性膝関節症予防・改善のための水中運動プログラム」成果報告会（室戸市保健福祉センターやすらぎ）
7 月 14 日　第 7 回高知大学・高知市コーディネーター会議
平成 22 年度四国におけるコーディネート力向上を目指す集い～科学技術による地域活性化は、人と人との「繋がり」から～（四国経済産業局）
7 月 15 日　平成 22 年度中国・四国地区国立大学法人地域共同研究センター等センター長会議（高知会館）（16 日まで）
7 月 26 日　高知県産学官連携会議発足
8 月 2 日　高知大学・高知銀行連携協議会
8 月 3 日　アグリフード EXPO 東京 2010（4 日まで）（土佐 FBC 出展）
8 月 19 日　第 1 回「碁石茶」地域ブランド化推進委員会
8 月 25 日　四国まるごと「食と健康」イノベーション 2010（10 月 16 日まで）
8 月 26 日　第 23 回国立大学法人共同研究センター専任教員会議（佐賀県武雄市）（27 日まで）
8 月 28 日　おもしろワクワク化学の世界 '10 高知化学展（高知会館）（30 日まで）
9 月 1 日　四国食品健康フォーラム（松山市総合コミュニティセンター）
9 月 3 日　連続セミナー「植物工場」第 2 回－四国地域にとって植物工場とは－（後援）
9 月 9 日　“知”と“地”の協奏　地域貢献をめざす高知発の科学技術　～JST イノベーションサテライト高知　研究成果報告会～（高知新阪急ホテル）（後援）
9 月 21 日　文部科学省産学官連携支援事業「全国コーディネート活動ネットワーク」第 2 回中国・四国地域会議（愛媛大学）（22 日まで）
9 月 24 日　UNITT2010　第 7 回産学連携実務者ネットワーキング（25 日まで）
9 月 27 日　産総研本格研究ワークショップ in 四国
9 月 29 日　イノベーション・ジャパン 2010 －大学見本市－（東京国際フォーラム）（10 月 1 日まで）（出展）
10 月 7 日　第 31 回国立大学法人等研究協力部課長会議（鹿児島）（8 日まで）
10 月 14 日　第 22 回国立大学法人共同研究センター長等会議（山口）（15 日まで）
10 月 15 日　食品開発専門技術研修会（高知県工業技術センター）（共催）
10 月 28 日　四万十市・高知大学連携事業報告会「四万十川の恵みスジアオノリを考える！」（四万十市立中央公民館）
11 月 3 日　高知大学物部キャンパス一日公開（土佐 FBC 出店）
11 月 8 日　第 3 回四万十市・高知大学連携事業推進会議
11 月 11 日　第 4 回技術シーズ発表会 in 四国（高知県工業技術センター）（後援）
11 月 17 日　NEDO 技術フォーラム in 四国（2010）～職と健康を支える技術開発～
11 月 18 日　横浜全国産学広域連携推進会議「横浜リエゾンポート 2010」（慶應義塾大学日吉キャンパス協生館）（出展）
11 月 20 日　全国生涯学習フォーラム高知大会　まなびピア高知 2010　全国生涯学習情報発信市（ぢばさんセンター）（21 日まで）（出展）
11 月 24 日　第 2 回碁石茶ブランド化推進委員会
アグリビジネス創出フェア 2010（幕張メッセ）（26 日まで）
11 月 25 日　食の大商談会 2010（高知市文化プラザかるぽーと）（26 日まで）（後援）
11 月 30 日　文部科学省平成 22 年度科学技術振興調整費シンポジウム・ポスター展示「地域に根ざした人材づくり」（科学技術館）（土佐 FBC 出展）
12 月 3 日　産学連携学会関西・中四国支部　第 2 回研究・事例発表会（後援）
12 月 12 日　高知銀行・高知大学共催　第 1 回子どもサッカー教室
12 月 17 日　（財）横浜企業経営支援財団　第 172 回産学交流サロン
12 月 20 日　農林水産省支援　平成 22 年度農山漁村 6 次産業化対策事業　技術促進対策事業　～地域戦略構想ワークショップ（高知）～　第 1 回　未来の高知県食料産業を考える　～世界のブランド先進国事例に学ぶ～
12 月 27 日　四国サイズの研究プラットフォーム実務者会議

平成 23 年

1 月 8 日　日本カツオ学会設立総会、黒潮一番地カツオ・シンポジウム 2010（黒潮町総合センター）
1 月 11 日　高知銀行との連携事業　安芸市産業振興市民講座「安芸市を元気にするために～産業の活性化を目指して～」（安芸市健康ふれあいセンター「元気館」）
1 月 12 日　高知大学・室戸市連携事業　シレストむろと水中運動プログラム「生活習慣病予防・改善プログラム」（3 月 23 日まで）
1 月 17 日　農林水産省支援　平成 22 年度農山漁村 6 次産業化対策事業　技術促進対策事業　～地域戦略構想ワークショップ（高知）～第 2 回未来の高知県食料産業を考える　～新鮮価値をデリバリーする～
農林水産省支援　平成 22 年度農商工等連携促進対策中央支援事業　6 次産業化推進に向けたコーディネーター人材育成研修～高知開催～
1 月 19 日　平成 22 年度えるくらぶ　とさ交流会（高知共済会館）（後援）
1 月 20 日　四万十市・高知大学連携事業アユ報告会（四万十市立中央公民館）
四国総合研究所懇話会（三翠園）
1 月 21 日　高知大学・大豊町企業マッチングフォーラム（東京）　幻のお茶、大豊町の「碁石茶」　～「碁石茶」の機能と新商品開発･産地形成への挑戦～（主催）
1 月 22 日　松崎武彦高知エコ基金第二回講演会　環境と農業　～新農薬ネオニコチノイドが脅かすミツバチ・生態系・人間～（高知大学朝倉キャンパスメディアホール）（共催）
1 月 23 日　2011 高知市総合計画（案）市民説明会
1 月 28 日　平成 22 年度「本場の本物」大豊の碁石茶目慣らし会
第 8 回地域再生プログラム実施機関連絡会議（金沢大学）
2 月 2 日　高知大学・大豊町企業マッチングフォーラム（大阪）　幻のお茶、大豊町の「碁石茶」　～「碁石茶」の機能と新商品開発･産地形成への挑戦～（主催）
第 32 回工業技術見本市　テクニカルショウヨコハマ 2011（パシフィコ横浜）（4 日まで）（出展）
2 月 15 日　アグリフード EXPO 大阪 2011（16 日まで）（土佐 FBC 出展）
2 月 16 日　高知県「緑の分権改革」推進事業　シンポジウム
ASTEC2011（東京ビッグサイト）（18 日まで）（出展）
2 月 28 日　香南市・高知大学連携事業報告会
3 月 6 日　こうち情報倶楽部 200 回記念シンポジウム「動的平衡で地域を語る」（かるぽーと）（後援）
3 月 7 日　土佐フードビジネスクリエーター人材創出平成 22 年度成果発表会
第 3 回「碁石茶」地域ブランド化推進委員会
3 月 8 日　国立大学法人共同研究センター西日本ブロック専任教員会議
3 月 12 日　6 次産業化推進人材育成事業　6 次化人材プロジェクト（25 日まで）（プログラム開発）
3 月 23 日　平成 22 年度土佐フードビジネスクリエーター人材創出修了式
3 月 30 日　高知大学・室戸市連携事業「生活習慣病予防・改善のための水中運動プログラム」成果報告会

TOPICS 1

高知大学と自治体・企業等との連携事業

高知大学は、県内自治体との連携協定等に基づき、各自治体を中心とした以下の連携事業等を実施した。

【高知県】 高知県食品産業研究会、芸西村天敵農法に関する法人設立、緑の分権改革推進事業、コア・サイエンス・ティーチャー養成拠点構築事業、高知県食料産業クラスター協議会（食品開発専門技術研修会）、高知県産学官連携会議

【室戸市】 健康増進事業（レシストむろと水中運動プログラム）リュウゼツランの活用、室戸ジオパーク推進協議会、海洋深層水活用研究

【芸西村】 連携事業に関する協定書締結に向けた協議

【香美市】「土佐フードビジネスクリエーター（ＦＢＣ）人材創出」事業

【香南市】「土佐フードビジネスクリエーター（ＦＢＣ）人材創出」事業、香南市ブランド化事業（地域雇用創造実現事業）、共同研究：新規下水道処理技術、ヒラメ中間育成施設活用等

【南国市】「土佐フードビジネスクリエーター（ＦＢＣ）人材創出」事業、菌床椎茸事業、食育事業（南国市中学校給食を考える会）

【大豊町】 大豊町碁石茶等研究開発推進会議、農林水産省：新需要創造フロンティア育成事業「碁石茶」

【土佐市】 共同研究：β－グルカンの病院食としての機能性評価、おらがまち“とさ”再生事業（地域雇用創造支援事業）

【黒潮町】 カツオ学会の設立

【四万十市】 スジアオノリの生産量アップ研究、スジアオノリ健康増進効果研究、天然アユを守る取り組み

【企業等】 高知大学・高知銀行連携協議会

１．土佐フードビジネスクリエーター人材創出

高知大学が、地域の食品産業の中核人材を養成するため、南国市・香美市・香南市の３市との連携のもと平成20年度から５年間の計画で取り組む「土佐フードビジネスクリエーター（ＦＢＣ）人材創出」は、３年目の事業が実施された。

平成22年度は、新規受講生30名のほか、平成21年度のＡコース（２年課程）の受講生５名、平成21年度修了生でＡコースを受講する３名・Ｂコースを受講する１名、その他に留年生６名が受講し、うち30名が修了した。

○開講式

日時　平成22年５月７日　14：00～14：30

場所　高知大学農学部３号棟　Ⅲ－１－11

新規受講生30名（Ａコース　４名、Ｂコース　11名、Ｃコース　15名）

○土佐ＦＢＣ倶楽部

・本事業に参集し、食品産業の活性化による地域再生という同じ「志」のもとに互いに机を並べた者同士のプラットホームとして、相互の交流・連携を促進し、もって地域の発展に貢献することを目的としている。

・原則として、２か月に１回、第３金曜日に開催することとし、平成22年度は６回開催した。

第７回　平成22年５月21日　日章会館１階ホール　参加約46名

第８回　平成22年７月16日　旭ロイヤルホテルビヤガーデン　参加約41名

第９回　平成22年９月17日　日章会館１階ホール　参加約25名

第10回　平成22年11月14日　柳憲　参加約48名

第11回　平成23年１月21日　日章会館１階ホール　参加約29名

第12回　平成23年３月７日　高知会館　参加約34名

・倶楽部では、修了生同士あるいは修了生と講師等との情報交換、修了生の試作品の評価などが行われ、いずれの回も活発な活動が続いている。

○アグリフードEXPO 2010に出展

アグリフードEXPOは、（株）日本政策金融公庫が毎年、東京と大阪で開催している国産農産物・加工品等の展示商談会であり、魅力ある農産物づくりに取り組んでいる農業経営者や、地元産品を活用した多様なこだわり食品を製造する食品メーカーの販路拡大の機会を提供している。土佐ＦＢＣでは、修了生・受講生の展示商談会への参加や食品市場動向の把握、展示商品の情報収集などを目的に参加した。

日時　平成22年８月３日（10：00～17：00）　４日（10：00～16：00）

場所　東京ビッグサイト

出展者　１期生２名、２期生３名、３期生１名

○物部キャンパス一日公開に出店

物部キャンパス一日公開において、事業のＰＲや受講生が受講の成果を生かし開発・生産した製品の試食・販売、また製品化に向けての官能試験の実施を目的に、土佐ＦＢＣ地産地消店を出店した。

日時　平成22年11月３日　9：00～15：00

場所　高知大学物部キャンパス

出展者　受講生８名（アイスクリームの販売、ジェラートの販売、干しイモ及び焼き芋の販売、官能試験、シカ肉加工品の試食・販売、有機野菜の販売）

○文部科学省平成22年度科学技術振興調整費シンポジウム・ポスター展示

日時　平成22年11月30日　12：00～18：00

場所　科学技術館サイエンスホール（東京都）

受田浩之センター長が土佐ＦＢＣの取組状況について報告、また、ポスター展示も行った。

○成果報告会

日時　平成23年３月７日　13：30～16：55

場所　高知会館３階「飛鳥」

基調講演　テーマ：“食における新価値創出～
ＦＢＣ人材への期待”
（株）ＦＢＴプランニング代表取締役社長
久塚　智明氏

成果発表　“女子と高齢社会における食材のすすめ”
“トマト新品種作出に有用な分子マーカーの
探索およびその利用”
“高知県の資源としてシカ肉を有効活用する商品開発”
“土佐ＦＢＣで学んで”

土佐ＦＢＣ人材創出の中間評価について　－最高評価である『Ｓ評価』を受賞－
（独）科学技術振興機構 科学技術振興調整費プログラムオフィサー　山下　廣順氏

○修了式

日時　平成23年３月23日　12：00～12：20

場所　高知大学朝倉キャンパス　共通教育棟２号館212番教室

修了生30名（Ａコース　９名、Ｂコース　８名、Ｃコース　13名）

２．新需要創造フロンティア育成事業「碁石茶」

平成22年度　農林水産省新需要創造フロンティア育成事業に、高知県大豊町で継承されてきた伝統的な２段階発酵茶「碁石茶」が採択された。

本事業は新しい需用を創造するために、発展的かつ持続的供給体制の構築と品質保証システムの確立を目指したビジネスプランを立案、具体的には「碁石茶」のブランド化のための手法を確立し、新製品の開発を行い、「碁石茶」関連製品の情報を消費者・企業に広く提供すると共に、これらの情報を産地・企業・研究機関で有効活用しうる新需要創造協議会の育成を行うことを目的としている。

【得られた成果】

・生産規模の拡大計画を作成
・茶葉の最適栽培法の確立
・製造工程の確立（高いレベルで茶の品質向上）
・需要拡大と認知度アップ、マーケティングプランの作成
（抗酸化能の機能性評価によりメタボリックシンドロームの改善効果）
・新製品の開発

飲料としてのお茶（カートカン）

石鹸や化粧品（万能クリームなど）

・マッチングフォーラムの開催

東京会場：（財）都道府県会館４階　平成 23 年 1 月 21 日（金）　12：00 ～ 17：00

参加企業等：企業 16 社 20 名　その他 3 団体 5 名

大阪会場：大阪産業創造館６階会議室Ｅ　平成 23 年 2 月 2 日（水）　12：00 ～ 17：00

参加企業等：企業 12 社 14 名　その他 5 団体 10 名

・パンフレットの作成（企業向け、消費者向け）

企業向け

消費者向け

・新需要創造協議会の育成

本協議会の下に、茶分科会、食品（茶以外）分科会、外用（石鹸、化粧品など）分科会を立ち上げた。

３．高知大学・高知銀行連携事業

○高知大学・高知銀行連携協議会

高知大学は、高知銀行と平成 21 年 12 月 14 日に相互の連携を強化し、産業振興や地域経済の活性化を図るため「連携協力協定書」を締結し、連携事業を推進するため平成 22 年度「高知大学・高知銀行連携協議会」を開催し地域課題を解決していくための具体的な手法、特に市町村における地域中核人材育成について活発な議論を行った。

日時　平成 22 年 4 月 19 日（月）　14：00 ～ 15：30

　　平成 22 年 8 月 2 日（月）　16：00 ～ 17：00

場所　国際・地域連携センター２Ｆ　自治体連携室

○安芸市産業振興市民講座

日時　平成23年1月11日（火）13：30～16：45

場所　安芸市健康ふれあいセンター「元気館」

テーマ 「安芸市を元気にするために～産業の活性化を目指して～」

講演　受田浩之センター長

「高知県産業振興計画の推進と食品加工について」

石塚悟史産学官民連携部門長

「地域再生事業の展開について」

出口伸一黒潮町地域雇用創造協議会事務局長

「他自治体の先行事例について」

４．日本カツオ学会

○日本カツオ学会設立総会

将来にわたり、日本人とカツオとの「上手な付き合い方」を探るために、カツオ産業の盛んな地域と産･学･官の関係者、及びカツオに興味のある人々が集い、交流・連携しカツオに関わる産業の振興や地域の振興に資する様々な取り組みを行う場として「日本カツオ学会」を設立しました。

日時　平成23年1月8日（土）9：30～11：50

場所　黒潮町総合センター

○黒潮一番地カツオ・シンポジウム

日時　平成23年1月8日（土）13：00～

場所　黒潮町総合センター

テーマ　―カツオとの上手な『付き合い方』を考える―

パネルディスカッション

第Ⅰ部【カツオの生態と資源を考える…】

第Ⅱ部【カツオの利用と流通を考える…】

コーディネーター　受田浩之センター長

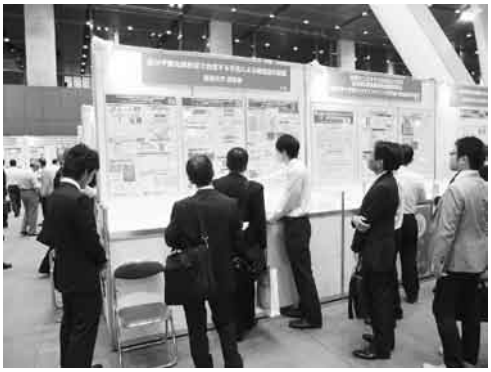
第Ⅲ部【カツオの文化と地域の活性化を考える…】

TOPICS 2

イノベーションジャパン、アグリビジネス創出フェア等の展示会への出展

平成22年度は、以下の展示会等に本学の研究成果を出展し、民間企業等とのマッチングを行った。

【科学・技術フェスタ in 京都】平成22年6月5日　国立京都国際会館
「近赤外蛍光を捕捉する術中ナビゲーションカラーイメージングシステム」
　医学部　佐藤 隆幸　教授
（同時開催）
　平成22年度産学官連携推進会議



【イノベーション・ジャパン2010 －大学見本市－】
平成22年9月29日～10月1日　東京国際フォーラム
「健康商品を利用した害虫防除　－体によい農薬－」
　農学部　手林 慎一　准教授
「高分子膜を紙表面で合成する手法による機能紙の創製」
　農学部　市浦 英明　准教授
GREEN FLOAT 特別企画　ワークショップ
「海洋深層水が作る純粋アオノリの栽培システム」
　海洋教育研究施設　平岡 雅規　准教授

【NEDO 技術フォーラム in 四国（2010）】平成22年11月17日　サンポートホール高松
テーマ　～食と健康を支える技術開発～
国際・地域連携センターとして会場にて地域貢献活動を展示・紹介

【横浜リエゾンポート2010】平成22年11月18日　慶應義塾大学日吉キャンパス協生館
「廃棄ガラスからの発泡体の作製」
　理学部附属水熱科学実験所　柳澤 和道　教授

【アグリビジネス創出フェア2010】平成22年11月24日～26日　幕張メッセ
「セラミックを用いた水の界面動電処理による新たな浄水処理法」
　農学部　石川 勝美　教授
「ショウガ粉末、孟宗竹粉末、柚子皮等を利用した養殖魚用飼料の改善」
　農学部　深田 陽久　准教授
「動物や植物からの発酵物から分離した乳酸菌を使った健康志向の食品」
　農学部　永田 信治　教授
「大豊町の碁石茶」及び「碁石茶の派生製品（おかき・あられ）」の展示・試飲等

【テクニカルショウヨコハマ2011】平成23年2月2日～4日　パシフィコ横浜
「高知型植物工場へ向けた研究」
　農学部　石川 勝美　教授、島崎 一彦　教授、宮内 樹代史　准教授、安武 大輔　准教授、西村 安代　准教授

TOPICS 3

シンポジウム、フォーラム等

【土佐経済同友会主催　公開シンポジウム「大学と地域貢献」】
　日時　平成22年7月3日　13：00～17：00
　場所　高知追手前高等学校芸術ホール
　共催　高知県・高知市・高知大学・高知女子大学・高知工科大学・高知商工会議所
受田浩之センター長がパネリスト及びプレゼン者として登壇
産学官民連携グループが会場ロビーにて高知大学の地域貢献活動を展示・紹介

【四国食品健康フォーラム2010（四国まるごと「食と健康」イノベーション2010）】
　日時　平成22年9月1日　10：30～17：00
　場所　松山市総合コミュニティセンター
　主催　四国経済産業局、（財）四国産業・技術振興センター
受田浩之センター長が総括講演　「機能性食品素材の開発・事業化に向けた取り組み」
石塚悟史産学官民連携部門長がファシリテーターとして登壇

【産総研　本格研究ワークショップ in 四国】
　日時　平成22年9月27日　13：00～17：00
　場所　ホテルニューフロンティア（高松市）
　主催　（独）産業技術総合研究所
受田浩之センター長がパネルディスカッションに登壇
テーマ　「四国サイズの研究プラットフォーム」づくりを目指して
　～「食と健康」をテーマに大学発　～

【第1回　食品開発専門技術研修会】
　日時　平成22年10月15日　13：30～16：50
　場所　高知県工業技術センター
　主催　高知県食料産業クラスター協議会
受田浩之センター長（高知県食料産業クラスター協議会副会長）が開会の挨拶

【第4回技術シーズ発表会 in 四国】
　日時　平成22年11月11日　13：00～17：00
　場所　高知県工業技術センター
　主催　（独）科学技術振興機構
石塚悟史産学官民連携部門長が技術シーズ発表（テーマ「健康と食品」）の座長として登壇

【第172回産学交流サロン】
　日時　平成22年12月17日　15：00～18：30
　場所　横浜メディア・ビジネスセンター
　主催　（財）横浜企業経営支援財団

受田浩之センター長が大学・企業の先進事例を紹介
テーマ 「地域の食材を売れる商品に磨きあげる！」～大学の知恵を活用して～

【農林水産省支援 平成22年度農山漁村６次産業化対策事業 技術促進対策事業 ～地域戦略構想ワークショップ（高知）～】
第１回　未来の高知県食料産業を考える　～世界のブランド先進国事例に学ぶ～
　日時　平成22年12月20日　13：30～17：30
　場所　高知会館２階　白鳳の間
　主催　（社）食品需給研究センター、高知県地域戦略構想書策定ワーキング
受田浩之センター長がパネルディスカッション（高知県食料産業のこれからを考える）のコーディネーターとして登壇
第２回　未来の高知県食料産業を考える　～新鮮価値をデリバリーする～
　日時　平成23年１月17日　13：00～17：00
　場所　高知県工業技術センター
　主催　（社）食品需給研究センター、高知県地域戦略構想書策定ワーキング
受田浩之センター長がパネルディスカッション（おいしさ価値を包み込む）のコーディネーターとして登壇

【黒潮一番地　カツオ・シンポジウム2010】－カツオとの上手な「付き合い方」を考える…－
　日時　平成23年１月８日　13：00～17：30
　場所　黒潮町総合センター
　主催　黒潮町、（財）自治総合センター
受田浩之センター長がパネルディスカッション（カツオの利用と流通を考える…）のコーディネーターとして登壇

【農林水産省支援　平成22年度農商工等連携促進対策中央支援事業　６次産業化推進に向けた
　コーディネーター人材育成研修】
　日時　平成23年１月17日　9：00～11：45
　場所　高知県工業技術センター
　主催　（社）食品需給研究センター
北添英矩特任教授がコーディネーターとして登壇

【2011高知市総合計画（案）市民説明会】
　日時　平成23年１月23日　14：00～17：00
　場所　高新文化ホール
　主催　高知市
受田浩之センター長が基調講演 「次代を見据えた高知市の将来像」

【高知県「緑の分権改革」推進事業　シンポジウム】
　日時　平成23年２月16日　13：00～15：00
　場所　高知サンライズホテル
　主催　高知県公営企業局
石塚悟史産学官民連携部門長がコーディネーターとして登壇

【こうち情報倶楽部200回記念シンポジウム】
　日時　平成23年３月６日　10：00～13：00
　場所　かるぽーと（高知市）
　主催　こうち情報倶楽部
受田浩之センター長がパネルディスカッション（動的平衡で地域を語る）のコーディネーターとして登壇

【農林水産省支援　６次産業化推進人材育成事業　６次化人材プロジェクト】

期間　平成 23 年３月 12 日～ 25 日

場所　高知大学国際・地域連携センター他

中島和代地域（社会）連携担当理事、受田浩之センター長、石塚悟史産学官民連携部門長、北添英矩特任教授、浜口忠信特任教授、門田直明客員教授が講義、実地研修担当として参加

1 研究成果

平成 22 年度農業改良普及支援事業「産学官連携経営革新技術普及強化促進事業」成果報告書

多角的活用高品質小麦（夏播き小麦）の安定生産の技術実証とその普及

高知大学農学部　石川勝美

１．提案課題概要

高知大学は品種の育成から栽培技術にわたり、小麦の夏播き栽培試験に先駆的に着手し、高知県で十分栽培可能な技術となることを検証してきた。すなわち、夏播き栽培用として従来品種とは異なる、区別性・均一性・安定性に優れた品種を選抜し、パン適性の高品質小麦の安定生産の見通しを得た。その結果、高知大学が開発した「夏播き小麦」とその栽培技術は「FOOD ACTION アワード　2009」において研究開発･新技術部門の優秀賞を受賞した。本事業は、施設園芸や早期水稲栽培が盛んで、従来の小麦の作付け体系 (秋・冬播種) は適さない地域におけるパン適性小麦の高品質安定生産の実証とその普及を図るため、産学官連携プロジェクトにより研究成果を普及発展させるものである。具体的には、①選抜した登録品種（宮高１号）と育成品種を採用②収穫期を梅雨の時期から回避させた高品質生産③夏播き小麦の機能性とそれを活かした商品開発に着手した。

平成 22 年度は、高知大学農学部内とともに、学外（南国市、四万十町）において実証栽培を行った。とくに農学部構内の栽培農地においては、気象環境要因や生体情報に基づく、小麦の光合成速度の動態（植物生産と密接に関与）の解明に取り組んだ。さらに、夏播き小麦の機能性（ポリフェノール成分、膨張性、加工特性）の評価、夏播き小麦を用いたパン・うどんの試食会も行った。

２．実験圃場の気象・環境特性

観測期間中の主要な測定項目（気温、降水量、風速および全天日射量）の変化のうち、気温は季節的に明瞭に変化し変動を繰り返しながらも１月下旬にかけて低下傾向を示し、それ以降は逆に上昇傾向にあった。日平均気温の最低値が現れた 2011 年１月 14 日の日平均気温は実験圃場において 0.3℃であった。次に降水量についてみると、12 月中旬から１月を除き、降水の頻度が比較的高く推移した。期間中、降水量が 50 mm を上回った日は４日あり、11 月初旬には 100 mm を超える降水が観測された。小麦を栽培する上では、土壌の水分状態がその生長に大きく影響を及ぼすため、現地における降水量の測定は今後も継続していく必要がある。

風速は期間を通じて 2 ms-1 前後で推移した。冬季、風速は数日程度の周期で変動を繰り返すが、春先にかけては風速の振幅が増すとともに変動の周期もやや長くなる傾向にあった。また、同様な傾向は特に春以降にかけて気温変動にも認めた。期間中の風向は北、北北西、北北東の順に卓越しており、同地域の気温環境形成に北よりの風が強く関与していた。一方、風速値の下限についてみると、それが 1 ms-1 を下回ることは非常に少ない。すなわち、同地域は継続的な季節風により特徴づけられるといってよい。強風と晴天が続く場合、たとえ冬であっても前者の効果により圃場からの蒸発散は促進される。したがって、実験圃場における土壌の水分管理にはより注意を払う必要がある。全天日射量についてみると、多少の変動はあるものの、季節的な減少と増加傾向を確認できた。

３．圃場における栽培実験

パン適性小麦の宮高１号および育成品種を 2010 年９月 17 日に実験圃場に播種した。播種は耕うん同時施肥播種機（さばける号）を用いた。播種量は 0.012kg/m2（12kg/10a）、施肥量は 0.03kg/m2（30kg/10a）の割合で実施した（図１）。各品種に対して生体情報（草丈、茎数、葉数）および収穫量を調査すると共に、気象･環境データとの関係解析を行った。

図１　播種後１週間時の実験圃場の様子．右奥に気象・環境計測システム

土壌条件および播種深度の違いから出芽に時間を要し、その後の生育にも遅れが見られた。草丈に関しては測定終了まで宮高１号が高い値を示し、葉数は６～７葉程度と両品種間に違いはなかった。

圃場試験における出穂期の比較を表１に示す。宮高１号は早い出穂となり、登熟も早く、年内に刈取りを行なうことができた。収量構成要素に関しては､有効穂数､稈長､登熟粒数等で宮高１号＞育成品種であった（表２）。刈取り後、ハウス内で架干し、子実の琥珀色を確認した後、脱穀を行なった。宮高１号の千粒重（約 45 g）は，播種時期や気象によっても異なる（千粒重は 25 ～ 50 g）が品質の高さが示唆された。

表１　出穂期の比較

品種	出穂期（月日）	積算温度（℃）
育成品種	10月30日	1056
宮高１号	10月23日	934

表２　収量構成要素の比較

品種	茎数（本／m²）	穂長（cm）	稈長（cm）	登熟粒数（粒/本）	乳熟粒数（粒/本）
宮高１号	163	6.7	66.5	26.5	5.5
育成品種	96	7.3	60.1	0.0	11.7

４．夏播き小麦の機能性評価＜小麦粉のポリフェノール比較＞

宮高１号の機能性を評価するために、先ず、小麦粉のポリフェノール含有量を測定した。比較対照としては、市販されている小麦粉（日清フーズ、日清雪、中理気小麦粉；川久保製粉、地粉）を用いた。

各サンプルのポリフェノール含量結果(表３)は､サンプル [g] あたりのフェルラ酸等量 [mg] で表した。ポリフェノール含量は、市販の小麦粉では 0.238 ～ 0.269 mg/g であったのに対して、新小麦は 0.670 mg/g と高い値が観察された。

ポリフェノールの定量を高速液体クロマトグラフィー（HPLC）を用いて行った結果を表４に示す。全ての項目において、市販小麦と比べて新小麦は高い値を示し、その優位性が示唆された。

表３　各サンプルのフェルラ酸濃度およびサンプルあたりのフェルラ酸等量

サンプル名		フェルラ酸濃度[μg/mL]	mg フェルラ酸等量/g サンプル	平均（mg フェルラ酸等量/g サンプル）
2/8 製粉 夏まき小麦	n1	70.31	0.689	0.670
（1/28 脱穀）	n2	66.44	0.651	
日清フーズ 日清雪	n1	23.39	0.226	0.238
中力小麦粉	n2	26.22	0.249	
川久保製粉 地粉	n1	28.71	0.275	0.269
愛媛県産小麦粉	n2	26.74	0.262	

表４　各サンプルの各ポリフェノール濃度

サンプル名	濃度[μg/g]		
	p-ヒドロキシ安息香酸	p-クマル酸	trans-フェルラ酸
2/8 製粉 夏まき小麦（1/28 脱穀）	270.37	2.31	8.80
日清フーズ 日清雪 中力小麦粉	62.95	n.d.	0.89
川久保製粉 地粉　愛媛県産小麦粉	44.83	n.d	0.13

５．夏播き小麦の機能性評価＜小麦粉の膨張力＞

国産小麦粉は、外国産のものと比べて、栽培環境の違いなどによりグルテン含量が低く、膨張性の高い製パンを得ることが難しい。そこで、宮高１号の機能性の評価として小麦粉の膨張力試験を実施した。比較対照として市販小麦粉を用い､数種の酵母を使用した。生地膨張力試験は中種法で行った。中種を練った後､一部を採取しメスシリンダーに入れ､4 時間の発酵時間中１時間おきに生地の高さ（体積）を読んだ。生地は､スクロース濃度 0%（無糖)､5%（低糖)、30%（高糖）の条件で行った。

市販小麦粉における試験の結果、比較的好成績を得たツキノワグマ YK3、キリン YK101、キリン MR202、ユズ廃棄土壌 A208 を用いて、宮高１号の生地膨張力試験を行った。無糖の条件でキリン YK101 とキリン MR202 とツキノワグマ YK3 が、高糖の条件ではキリン YK101 がパン酵母に勝る高い膨張力を示した。低糖の条件では、パン酵母に勝るものは見られなかったが、キリン YK101 とキリン MR202 とツキノワグマ YK3 が高い膨張力を示した。

６．製品実用化を目指した取り組み

本プロジェクトで取り組んだ新品種は、その有意性が示された。製品実用化を目指して、高知県内のうどん店「土佐うどん源水」の協力の下、新規小麦を使用したうどん麺が作られ、2010 年 10 月～ 11 月に試食会が行われた。試食者からは「もちもちしている」「独特な味」等と好評を得た。この取り組みは、テレビ、新聞でも多く取り上げられ、大きな注目を集めた。

７．今後の展開

通常、小麦は 11 ～ 12 月に播種して翌年 6 月に収穫する作物であるため収穫期が雨季にあたり、国内、とくに高温多湿な高知県においてはこれまでほとんど栽培されていなかった。そこで、本プロジェクトでは新たな品種と作期を確立する研究に先駆的に着手し、高知県で高品質小麦生産が可能となることを示した。また、夏播き小麦の機能性についていくつかの試験が行われ、その特異性・優位性が示唆された。さらにパン・うどんの試食アンケート結果から、消費ニーズは高いことが判明した。一方、地域の圃場条件によっては出穂時期が遅れ、収量にも大きく影響する。最近の気象の変化は大きいことから、気象・環境データと小麦生体情報との関係解析から地域の最適播種時期を設定した実証試験を積み上げることにより、地域活性化に繋がる地域特有の効果的な栽培技術が期待できる。

夏播き小麦　報道記事等

【新聞記事】

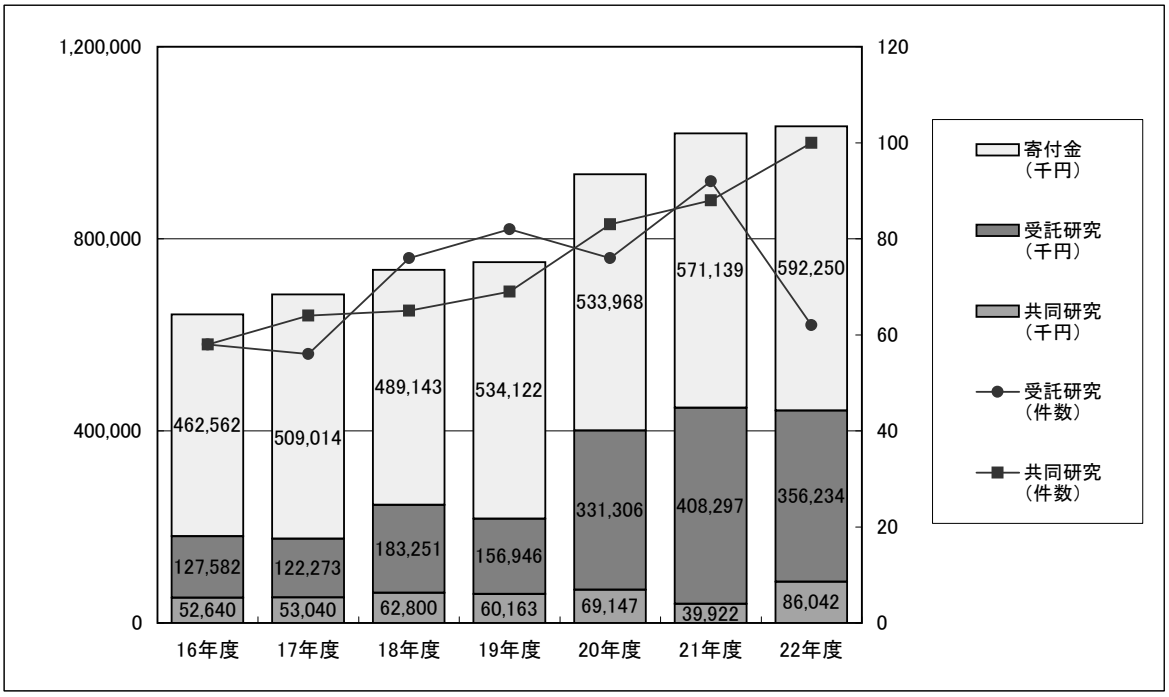
１．小麦、冬に収穫：高知新聞　2010.1.27
２．夏まき小麦　実った！：高知新聞　2010.2.18
３．夏まき小麦使いうどん（人ひととき）：朝日新聞 2010.3. 1
４．夏まき小麦うどんで試食：高知新聞　2010.3.6
５．高知産小麦のうどんいかが：日経新聞 2010.3.6
６．夏まき小麦うどん「合格」：朝日新聞 2010.3.6
７．高知大、夏まく新品種開発、高知産小麦のうどんいかが：日経新聞 2010.3.6
8.「香り楽しめるうどん」：毎日新聞 2010.10.22
9.「うどんに合う冬の小麦」：読売新聞 2010.10.23
10.「夏まき小麦　伸びる期待」：朝日新聞 2010.11.4
11. 夏播き小麦：うどんに行列、高知大学物部 1 日公開：毎日新聞 2010.11.4
12. 1 月に収穫、夏播き小麦「ふゆのめぐみ」病害虫防除が不要：農業共済新聞 2011.2.16

【TV ニュース等】

１.「小麦の新たな産地へ」テレビ高知　イブニング KOCHI：　2010.3.5
２.「高知生まれの小麦でうどん」高知さんさんテレビ：　2010.3.5
３.「高知大　新種小麦の調査始まる」（四万十町興津）テレビ高知：2010.9.16
４.「高知生まれ“小麦”の実験開始」（南国市下野田）高知さんさんテレビ：2010.9.17
５.「ふゆのめぐみ、夏播き小麦」（南国市下野田）高知放送　こうち eye：2010.9.17
６.「夏まき小麦実証実験はじまる」RKC ニュース：2010.9.17
７．こうち情報いちばん「新しい小麦を使ったうどん試食」NHK：2010.10.21
８.「夏播き小麦のうどんを試食」高知さんさんテレビ：2010.10.21
９.「新しい小麦を使ったうどん試食」NHK：2010.10.22
10.「FOOD ACTION NIPPON」公式サイト「地域アクション」高知大学農学部の取組紹介

2 産学官民連携件数等

	16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		22年度	
	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数
共同研究（千円）	52,640	58	53,040	64	62,800	65	60,163	69	69,147	83	39,922	88	86,042	100
受託研究（千円）	127,582	58	122,273	56	183,251	76	156,946	82	331,306	76	408,297	92	356,234	62
寄付金（千円）	462,562	705	509,014	710	489,143	737	534,122	679	533,968	710	571,139	729	592,250	731



※JST育成研究は共同研究金額に含まない。
　平成17年度　1件　25,742,418円
　平成18年度　3件　104,296,727円
　平成19年度　5件　134,178,092円
※平成16年度より奨学寄附金から寄付金となる。
※平成19年度寄付金は医学部寄附講座（5年間）を含む。

・諸活動
大学シーズと企業等ニーズとのマッチング
共同研究等契約支援
各省庁及び自治体・企業等の外部資金獲得事業
知的財産の創出・活用支援
シンポジウム，講演会等
産学官連携関係イベント（シーズ出展等）
産学官連携に関する調査及び研究
産学官連携システム（組織化・共同体）の構築
地域連携事業
科学・技術相談
事業化支援
起業（大学発ベンチャー）支援

3 平成22年度　民間企業等との共同研究一覧（100件）

No.	研　究　題　目	大学研究者
1	OLL1073R－1多糖体による Nippostrongylus brasiliensis 感染防御効果	看護学部門 教授　吾妻　健 基礎医学部門 助教　都留 英美
2	排便の臭いのコントロールと便秘の緩和に関する研究 －食事療法（おなか活力タブレットとR-1）を取り入れた排便臭のコントロールおよび便秘緩和への取り組み－	看護学部門 教 授　吾妻　健 助教　野村 晴香
3	香り不織布の吸収性能、蒸散性能など香り不織布の開発	看護学部門 教 授　片岡 万里 助教　笠原 聡子
4	ソフィβ-グルカンの免疫賦活効果に関する研究	看護学部門 教授　溝渕 俊二
5	海洋深層水及びβ-グルカンの皮膚（表皮及び細胞）における機能性の研究	看護学部門 教授　溝渕 俊二 医学部 特任助教　渡部 嘉哉
6	機能性素材を用いた食品の開発	看護学部門 教授　溝渕 俊二 医学部 特任助教　渡部 嘉哉
7	家畜の免疫に関する研究	看護学部門 教授　溝渕 俊二 医学部 特任助教　渡部 嘉哉
8	柚子の機能性についての研究	看護学部門 教授　溝渕 俊二 医学部 特任助教　渡部 嘉哉
9	抗腫瘍アジュバントに関する研究	基礎医学部門 教授　宇高 恵子
10	不織布KP9340の安全性試験	基礎医学部門 准教授　津田 雅之 助教　都留 英美
11	不織布NP91028Tの安全性試験	基礎医学部門 准教授　津田 雅之 助教　都留 英美
12	不織布KS9040の安全性試験	基礎医学部門 准教授　津田 雅之 助教　都留 英美
13	1073R-1乳酸菌が産生するEPSのマウス小腸上皮細胞における受容体の探索	基礎医学部門 教授　本家 孝一 医学部附属システム糖鎖生物学教育研究センター 特任准教授　小谷 典弘
14	ALA(5-ｱﾐﾉﾚﾌﾞﾘﾝ酸)を用いた尿路上皮がんの診断方法の開発および転移予防に関する基礎研究	臨床医学部門 准教授　井上 啓史
15	泌尿器癌への5－ALA光線力学的診断と治療効果の検討	臨床医学部門 准教授　井上 啓史
16	泌尿器癌への5-ALA光線力学的診断／治療に用いる装置の開発	臨床医学部門 准教授　井上 啓史
17	光線力学的診断法を用いた経尿道的膀胱腫瘍切除術(PDD-TUR-Bt)に　おける新規内視鏡および処置具のコンセプトに関する検討	臨床医学部門 准教授　井上 啓史
18	5-アミノレブリン酸(5-ALA)による膀胱癌光線力学的診断における蛍光軟性内視鏡(SAFE-3000)の効用	臨床医学部門 准教授　井上 啓史
19	C型慢性肝炎に対するPEG-IFNα-2aを中心とした併用療法の治療効果とHCV遺伝子変異および鉄代謝の関係の検討	臨床医学部門 准教授　岩崎 信二
20	NASHの病態と鉄代謝に関する検討	臨床医学部門 講師　小野 正文
21	乾癬発症とメタボリック症候群に関する研究	臨床医学部門 教授　佐野 栄紀
22	家庭用皮膚疾患治療装置の開発	臨床医学部門 教授　佐野 栄紀
23	医療器具等の研究	臨床医学部門 教授　杉浦 哲朗 附属病院 看護部長　宮井 千恵
24	食品素材が健康に与える効果の確認	臨床医学部門 教授　杉浦 哲朗 講師　竹内 啓晃
25	開放規格検体検査自動化システムの実用性に関する研究	臨床医学部門 教授　杉浦 哲朗 附属病院検査部 技師長　小倉 克巳

No.	研　究　題　目	大学研究者
26	開放規格検体検査自動化システムに関する研究	臨床医学部門 教授　杉浦 哲朗 附属病院検査部 技師長　小倉 克巳
27	院内搬送に関する経由・到着確認システムの研究	臨床医学部門 教授　杉浦 哲朗 附属病院検査部 技師長　小倉 克巳
28	採血管準備管理システム新方法の研究	臨床医学部門 教授　杉浦 哲朗 附属病院検査部 技師長　小倉 克巳
29	微生物遺伝子型識別の有用性に関する研究	臨床医学部門 教授　杉浦 哲朗 附属病院検査部 主任技師　森本 徳仁
30	大血管への採血アプローチによる血糖測定系の確立	臨床医学部門 教授　花崎 和弘 准教授　山下 孝一 助教　北川 博之 助教　矢田部 智昭 附属病院 外科医員　宗景 匡哉
31	ゲムシタビンとBCAAの併用をin vitro 評価する研究	臨床医学部門 教授　花崎 和弘 助教　市川 賢吾 技術補佐員　竹崎 由佳
32	歯科治療材料の生物学的毒性に対する検討	臨床医学部門 教授　山本 哲也
33	歯科治療材料の物理的・化学的・生物学的機能の臨床評価	臨床医学部門 教授　山本 哲也
34	ICT利活用による地域医療情報の収集、解析および適用に関する研究	連携医学部門 教授　奥原 義保 助教　片岡 浩巳 助教　宮野 伊知郎 臨床医学部門 助教　久保　亨
35	蛋白電気泳動波形を用いた検査値予測システムの研究	連携医学部門 助教　片岡 浩巳
36	データマイニング技術を用いた診療支援に関する研究	連携医学部門 助教　片岡浩巳 附属病院検査部 検査部長　杉浦 哲朗
37	地域活性化におけるデザイン・印刷・商品開発の実践研究	教育学部門 講師　吉岡 一洋
38	有明海湾奥部の稚仔魚の研究	黒潮圏科学部門 教授　木下　泉
39	土佐湾における魚類再生産機構に関する研究	黒潮圏科学部門 教授　木下　泉 複合領域科学部門 准教授　岡村　慶
40	地域医療・在宅介護等に関するICT利活用の適用可能性に関する研究	黒潮圏科学部門 准教授　久保田　賢
41	ICT技術による救急医療情報連携システムの構築に関するシステム研究	黒潮圏科学部門 准教授　久保田　賢
42	未利用生物資源からの血糖値および脂肪制御作用を持つ物質の探索	黒潮圏科学部門 教授　富永　明 准教授　平岡 雅規
43	海藻の移植胞子採取、育苗、成体育成及びキリンサイの育成・越冬	黒潮圏科学部門 准教授　平岡 雅規
44	海藻種苗安定生産に関する研究	黒潮圏科学部門 准教授　平岡 雅規
45	海藻類の胞子の採取、育苗、成体育成	黒潮圏科学部門 准教授　平岡 雅規
46	海洋深層水を利用したアワビと海藻の増養殖に関する研究	黒潮圏科学部門 准教授　平岡 雅規
47	非着床型藻類バイオマスによるCO2高効率固定プラントの開発に関するフィージビリティスタディ	黒潮圏科学部門 准教授　平岡 雅規
48	安心して子育てができる地域コミュニティ形成支援ICTモデル開発のための共同研究	人文社会科学部門 准教授　遠山 茂樹
49	施設栽培葉ジソ（オオバ）の総合的害虫管理技術の確立	生命環境医学部門 教授　荒川　良
50	インテリジェント性を有する紙および不織布の開発	農学部門 准教授　市浦 英明

No.	研　究　題　目	大学研究者
51	南海地震に備えた新しい給水インフラ整備と多重給水システムの開発研究	農学部門 教授　大年 邦雄 准教授　原　　忠
52	斜面工事における労働災害防止のための計測機器設置方法の検討	農学部門 教授　笹原 克夫
53	「繰り返し降雨履歴が変形プロセスに与える影響」に関する研究	農学部門 教授　笹原 克夫
54	低湿転換畑におけるアーバスキュラ菌根菌の定着条件の解明	農学部門 准教授　佐藤 泰一郎
55	HPFRCCを用いたため池更新技術の評価	農学部門 准教授　佐藤 周之
56	小水力発電における利用と立地に関する研究	農学部門 准教授　佐藤 周之
57	小水力発電における利用と立地に関する研究・開発	農学部門 准教授　佐藤 周之
58	搬出間伐における作業システム運用技術の開発	農学部門 教授　後藤 純一 准教授　鈴木 保志
59	木材搬出時の残存木の保護と損傷軽減実用化研究	農学部門 准教授　鈴木 保志
60	強度間伐等に対応した森林管理技術開発	農学部門 教授　塚本 次郎 教授　藤原 新二
61	甘味料を用いた保存食品害虫防除技術の開発	農学部門 准教授　手林 慎一
62	酢ビ系材料を用いた農業部材の開発	農学部門 准教授　西村 安代
63	養殖魚の配合飼料に関する研究	農学部門 准教授　深田 陽久
64	連続曝気式オキシデーションディッチ法による下水からの効率的窒素除去に関する研究	農学部門 教授　藤原　拓
65	面的水管理・カスケード型資源循環システムの統合評価に関する研究	農学部門 教授　藤原　拓
66	ブリ類用魚粉配合率削減飼料（ブリ用低魚粉飼料）の開発	農学部門 教授　益本 俊郎
67	バイオ新素材ポリグルタミン酸の量産化とバイオジェル吸水部材の応用研究	生命環境医学部門 教授　芦内　誠
68	工業微生物の開発	生命環境医学部門 教授　芦内　誠
69	微細藻Dunaliella salinaの培養技術と機能性に関する研究	生命環境医学部門 教授　受田 浩之 准教授　島村 智子
70	乳および乳製品の品質とメイラード反応の関連に関する研究	生命環境医学部門 教授　受田 浩之 准教授　島村 智子 准教授　柏木 丈拡 臨床医学部門 講師　竹内 啓晃
71	馬路村における果皮成分増量技術を活用した柚子果汁品の研究開発	生命環境医学部門 准教授　柏木 丈拡
72	「表面増強ラマン散乱（SERS）分光法を用いたピロリ菌の抗菌活性の分析に関する研究」	生命環境医学部門 准教授　柏木 丈拡 臨床医学部門 講師　竹内 啓晃 大学院連合農学研究科 工藤 勇人
73	カンボジア王国における高性能鉄吸着剤を用いたヒ素汚染地下水の浄化技術の研究開発	生命環境医学部門 教授　康　峪 梅 農学部門 教授　大谷 慶人
74	カンボジア王国における高性能鉄吸着剤を用いたヒ素汚染地下水の浄化技術の研究開発	生命環境医学部門 教授　康　峪 梅 農学部門 教授　大谷 慶人
75	マコモの製造管理および発酵中に生存する微生物の機能性の評価	生命環境医学部門 教授　永田 信治
76	新規Aureobasidium sp.単離株を用いたβ-1,3-1,6-グルカンの産生およびその加工	生命環境医学部門 教授　永田 信治
77	低価格帯清酒用新規酵母の開発	生命環境医学部門 教授　永田 信治
78	東南アジアにおけるフェリー等旅客船の転覆事故防止に係る技術的検討	海洋コア総合研究センター 特任教授　渡邊　巌
79	現場型化学分析センサーシステムの開発	複合領域科学部門 准教授　岡村　慶

No.	研　究　題　目	大学研究者
80	海洋深層水大規模培養による海洋性アンフィジニウム属渦鞭毛藻由来の医薬リード化合物の探索と開発	複合領域科学部門 教授　津田 正史 理事(研究担当) 副学長　小槻 日吉三 黒潮圏科学部門 教授　富永　明 基礎医学部門 准教授　津田 雅之 総合研究センター 特任助教　熊谷 慶子 技術専門職員　小西 裕子 技術補佐員　秋丸 陽子 技術補佐員　西坂 太樹
81	生薬の有効成分に関する分析化学的研究	複合領域科学部門 教授　蒲生 啓司
82	バッテリー再生剤の機能向上に関する研究	複合領域科学部門 准教授　上田 忠治
83	固体触媒を用いた乳酸からのアクリル酸合成	複合領域科学部門 助教　恩田 歩武
84	水熱法によるリチウムイオン電池材料合成プロセスの研究	複合領域科学部門 教授　柳澤 和道
85	水熱合成法による単結晶材料の創生に関する基礎研究	複合領域科学部門 教授　柳澤 和道 助教　恩田 歩武
86	波長変換用蛍光資材の利用によるスジアオノリ栽培の高付加価値化研究	複合領域科学部門 教授　吉田 勝平
87	波長変換用蛍光色素に関する研究	複合領域科学部門 教授　吉田 勝平
88	波長変換用蛍光資材の利用によるスプラウト栽培の高付加価値化研究	複合領域科学部門 教授　吉田 勝平 農学部門 講師　濱田 和俊
89	四国地域における地殻内地震と地殻歪みの関連性評価	理学部門 教授　田部井 隆雄
90	高知大学方式^{3}HeGM冷凍機の高効率化	理学部門 教授　西岡　孝
91	THzを用いた安心センシングセンサーの研究	理学部門 教授　西岡　孝
92	ディペンダブル協調設計検証技術の研究	理学部門 教授　村岡 道明 教授　豊永 昌彦
93	下北沖掘削コア試料を用いた地圏と生命圏の共進化に関する共同研究	理学部門 教授　村山 雅史 教授　小玉 一人 准教授　池原　実 助教　山本 裕二 複合領域科学部門 准教授　岡村　慶
94	基礎試錐「東海沖～熊野灘」コア試料を用いた微生物起源メタンの生成・タイミングに関する研究	理学部門 教授　安田 尚登
95	GTLを用いた新たなハウス加温法の開発	理学部門 教授　安田 尚登

他 5件

3 平成22年度　民間企業等との受託研究一覧（62件）

No.	研究題目	大学研究者
1	確率論的解析手法ならびに用量反応分析技術の開発	医学教育部門 教授　岩堀 淳一郎
2	(科学技術振興機構)A-STEP(探索タイプ) 固形腫瘍内へT細胞を動員する次世代免疫療法の動物実験	基礎医学部門 教授　宇高 恵子
3	(国立環境研究所) 平成22年度子どもの健康と環境に関する全国調査高知ユニットセンター委託業務	基礎医学部門 教授　菅沼 成文
4	(科学技術振興機構)A-STEP(探索タイプ) 尿路上皮腫瘍の光動力学的スクリーニングシステムの新規開発	臨床医学部門 教授　井上 啓史
5	スジアオノリの有効成分による健康増進効果の実証実験事業	臨床医学部門 講師　今村　潤
6	【21指-9】健康長寿社会構築のための社会(医学)的、政策的、経済的調査分析と課題解決のための政策立案に係る包括的研究	臨床医学部門 講師　上村 直人
7	(科学技術振興機構)A-STEP(探索タイプ) 悪性脳腫瘍に対する高力価レトロウイルスベクター産生システムの新たな構築による遺伝子治療法の開発	臨床医学部門 教授　清水 惠司
8	多項目自動血球分析装置の性能評価	臨床医学部門 教授　杉浦 哲朗 附属病院検査部 技師長　小倉 克巳
9	クラビット錠・細粒特定使用成績調査「第9回抗菌剤感受性年次別推移の検討」	臨床医学部門 教授　杉浦 哲朗 助教　上岡 樹生
10	虚弱高齢者のための児童・生徒参加型高齢者健診と運動器リハモデルに関する研究	臨床医学部門 教授　谷 俊一
11	モデル動物を用いたロキソプロフェンパップ剤・テープ剤の慢性痛覚過敏発症阻止メカニズムの解析	臨床医学部門 教授　谷 俊一
12	(科学技術振興機構)A-STEP(探索タイプ) 水熱ホットプレス法を応用した生体近似骨の顎骨再建への応用	臨床医学部門 講師　山田 朋弘
13	天然アユを守る取り組み	黒潮圏科学部門 教授　木下　泉
14	科学技術振興機構の地球規模課題対応国際科学技術協力事業の研究課題「熱帯多島海域における沿岸生態系の多重環境変動適応策」(研究代表者:東京工業大学　灘岡和夫教授)中の「生態学的アプローチによる熱帯沿岸生態系の生物多様性・生態系機能維持機構と多重ストレス応答評価」	黒潮圏科学部門 助教　中村 洋平
15	塗料を塗った魚網の海藻付着抑制効果の検証	黒潮圏科学部門 准教授　平岡 雅規
16	天然スジアオノリの生産量アップの実証実験事業	黒潮圏科学部門 准教授　平岡 雅規
17	(文部科学省)平成22年度科学技術試験研究委託事業『海洋資源の利用促進に向けた基盤ツール開発プログラム』「海底熱水鉱床探査の為の化学・生物モニタリングツールの開発」	複合領域科学部門 准教授　岡村　慶
18	大学生就職意識調査	人文社会科学部門 教授　中川 香代
19	農林水産省平成22年度農業生産地球温暖化対策事業:「土壌由来温室効果ガス・土壌炭素調査事業」 「炭素貯留農法の社会的受容に関する消費者心理及び生産物の高付加価値化に関する調査研究」	地域協働教育部門 特任助教　城月 雅大
20	(科学技術振興機構)A-STEP(探索タイプ) 新奇酵素を利用したホモシステインの簡便かつ安価な定量試薬の開発	生命環境医学部門 講師　加藤 伸一郎
21	新農薬実用化試験に関する研究	生命環境医学部門 教授　荒川　良
22	スジアオノリの有効成分による健康増進効果の実証実験事業	生命環境医学部門 教授　受田 浩之
23	アリルイソチオシアネート製品の分析	生命環境医学部門 准教授　柏木 丈拡
24	種雄牛の現場後代検定	生命環境医学部門 准教授　松川 和嗣
25	「戦略的次世代バイオエネルギー利用技術開発事業(次世代技術開発)」 「遺伝子改良型海産珪藻による有用バイオ燃料生産技術開発」	農学部門 教授　足立 真佐雄
26	農林水産省消費・安全局(平成22年度海洋生物毒安全対策事業) 事業メニュー名:海洋生物毒に係る高感度分析法の開発・普及及び毒化状況実態調査 (独立行政法人水産総合研究センターと共同提案)	農学部門 教授　足立 真佐雄
27	(内閣府食品安全委員会)平成22年度食品健康影響評価技術研究 「日本沿岸海域における熱帯・亜熱帯性魚毒による食中毒発生リスクの評価法の開発」	農学部門 教授　足立 真佐雄
28	「平成22年度漁場環境・生物多様性保全総合対策委託事業のうち、 赤潮・貧酸素水塊漁業被害防止対策事業研究(新奇有害プランクトンに係る発生・増殖機構の解明、モニタリング及び予察技術に関する研究)	農学部門 教授　足立 真佐雄 准教授　山口 晴生

No.	研 究 題 目	大学研究者
29	(科学技術振興機構)重点地域研究開発推進プログラム(育成研究)「植物工場におけるスピーキング・プラント・アプローチで成育を担保した植物部位温度制御システムの開発」	農学部門 教授 石川 勝美
30	平成22年度地球環境研究総合推進費 「地域住民のREDDへのインセンティブと森林生態資源のセミドメスティケーション化」委託業務のうち「移住-定着関係と生態資源利用における住民参加」	農学部門 教授 市川 昌広
31	(農林水産省)平成22年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「「血合肉褐変防止技術を基盤とする国際競争力の推進と海外市場展開(2025)」のうち「退色遅延徐放機能フィルムの開発」	農学部門 准教授 市浦 英明
32	イオン液体を用いた製紙スラッジの再資源化技術の確立	農学部門 准教授 市浦 英明
33	平成22年度環境研究総合推進費 「熱帯林の断片化による雑種化促進リスクと炭素収支への影響評価」(2年計画の1年目)	農学部門 准教授 市榮 智明
34	平成22年度福岡県新製品・新技術創出研究開発支援事業(実用化支援型) 農業分野の発展に寄与する果実イノベーション	農学部門 教授 尾形 凡生
35	(農林水産省)平成22年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業 「防疫・省力・高品質機能を合せ持つ革新的イチジク樹形の開発」	農学部門 教授 尾形 凡生
36	養殖魚類の病勢鑑定とその対策の検討	農学部門 教授 川合 研兒
37	平成22年度 イノベーションシステム整備事業 地域イノベーションクラスタープログラム(都市エリア型) 「接続可能な“えひめ発” 日本型養殖モデルの創出」	農学部門 教授 川合 研兒 教授 益本 俊郎 教授 枝重 圭祐 教授 葛西 孫三郎 准教授 深田 陽久 黒潮圏科学部門 教授 大島 俊一郎
38	(農林水産省農村振興局補助事業)農地・水・環境保全向上対策交付金 「農地・水・環境保全向上対策に関する絶海池水質・底質調査及び周辺流入水路水質調査」	農学部門 准教授 齋 幸治
39	(農村振興総合整備推進事業)農地等整備・保全推進事業費補助金 コンクリート水路の簡易補修調査研究	農学部門 准教授 佐藤 周之
40	NEDO:平成21年度省エネルギー革新技術開発事業費助成金「高輝度・高効率な電界電子放出型光源の研究開発／人工環境ボックスを使用した栽培試験」	農学部門 教授 島崎 一彦
41	新農薬実用化試験に関する研究	農学部門 准教授 手林 慎一
42	(科学技術振興機構)A-STEP(探索タイプ) ピーマン葉を用いた有用フラボノイドの高効率大量生産技術の開発	農学部門 准教授 手林 慎一
43	(科学技術振興機構)A-STEP(探索タイプ) 甘味料を用いた保存食品害虫防除技術の開発	農学部門 准教授 手林 慎一
44	(経済産業省:全国中小企業団体中央会)ものづくり中小企業製品開発等支援補助金(実証等支援事業)「特定の腐植土からの抽出液及びその腐植土から採取した土壌菌の同定・分析とそれら混入液が農産物の成長と品質に及ぼす影響の評価」	農学部門 准教授 西村 安代
45	(科学技術振興機構)A-STEP(探索タイプ) 環境にやさしい野菜の炭酸水農法の確立	農学部門 准教授 西村 安代
46	クラフト菌漬けショウガの魚の発育成績に及ぼす影響	農学部門 准教授 深田 陽久
47	(科学技術振興機構)戦略的創造研究推進事業(CREST)気候変動を考慮した農業地域の面的水管理・カスケード型資源循環システムの構築	農学部門 教授 藤原 拓
48	ヒラメ・マダイの中間育成等に関する研究	農学部門 教授 益本 俊郎
49	(水産庁)平成22年度持続的養殖生産・供給推進委託事業(低コスト飼料・効率的生産手法開発事業)	農学部門 教授 益本 俊郎
50	平成22年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業委託事業 「高保温性能で暖房燃料使用量を大幅に削減する次世代型パイプハウスの開発(22046)」	農学部門 准教授 宮内 樹代史
51	文部科学省「気候変動適応研究推進プログラム」 流域圏にダウンスケールした気候変動シナリオと高知県の適応策	農学部門 准教授 森 牧人 准教授 西村 安代 准教授 安武 大輔 理学部門 教授 北條 正司 教授 佐々 浩司
52	平成22年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業委託事業 「宝石サンゴの持続的利用のための資源管理技術の開発」	複合領域科学部門 教授 岩崎 望 理学部門 教授 鈴木 知彦 生命環境医学部門 教授 大西 浩平 人文社会科学部門 准教授 中西 三紀

No.	研　究　題　目	大学研究者
53	(科学技術振興機構)A-STEP(探索タイプ) 新奇人工微生物鉄輸送化合物の植物生長促進剤としての応用	複合領域科学部門 助教　松本 健司
54	(文部科学省)平成22年度科学技術試験研究委託事業「東海・東南海・南海地震の連動性評価のための調査観測・研究」に関する「過去の地震発生履歴から見た地震サイクルの多様性の評価」	理学部門 教授　岡村　眞
55	(経済産業省:全国中小企業団体中央会)ものづくり中小企業製品開発等支援補助金(試作開発等支援事業)「ミニマルファブに組み込まれるフリーEDAの配線ツールの研究開発」	理学部門 教授　豊永 昌彦
56	研究成果最適展開支援事業(A－STEP) 固体発光性蛍光色素の事業化可能性検討	複合領域科学部門 教授　吉田 勝平
57	介護予防の効果検証に係る疫学的検討について	連携医学部門 教授　安田 誠史
58	安芸市国保ヘルスアップ事業の評価	連携医学部門 教授　安田 誠史

他 4件

Section

知的財産部門

● 活動報告

平成22年

4月1日	新規採用職員向け職務発明制度説明会
4月8日	第64回知的財産専門委員会
4月19日	第65回知的財産専門委員会
4月21日	CPhI japan 国際医薬品原料・中間体展 出展（東京ビックサイト）（23日まで）
5月7日	第66回知的財産専門委員会
5月31日	平成22年度第1回「知財サロン」幹事会
6月5日	科学・技術フェスタ in 京都 平成22年度産学官連携推進会議 出展（国立京都会館）
6月11日	四国ブロック大学等安全保障貿易管理説明会（香川大学）
6月15日	第67回知的財産専門委員会
6月24日	平成22年度第1回弁理士による発明相談会（2件）
6月25日	平成22年度第2回弁理士による発明相談会（4件）
6月28日	平成22年度第1回「知財サロン」
7月22日	第68回知的財産専門委員会
8月9日	第69回知的財産専門委員会
9月29日	イノベーション・ジャパン2010 出展（東京国際フォーラム）（10月1日まで）
9月30日	第70回知的財産専門委員会
10月26日	第71回知的財産専門委員会
10月27日	大学等研究機関（学生）向け「知的財産総合基礎セミナー」 「社会で必ず役立つ知的財産の基礎知識」（朝倉キャンパス）
11月10日	平成22年度第2回「知財サロン」幹事会（メール会議）
11月11日	平成22年度第3回弁理士による発明相談会（2件）
11月17日	平成22年度第2回「知財サロン」
11月18日	南国市地域雇用創出推進協議会ごめん・ありがとう講座シリーズ 「農産物生産技術研修：夏播き小麦の理論と実際」（グレース浜すし）
11月24日	アグリビジネス創出フェア2010 出展（幕張メッセ）（26日まで）
12月2日	第72回知的財産専門委員会
12月3日	平成22年度第4回弁理士による発明相談会（2件）

平成23年

1月7日	第73回知的財産専門委員会
1月17日	平成22年度第5回弁理士による発明相談会（1件）
1月25日	大学等研究機関（研究者・教職員）向け知的財産セミナー 「知的財産の有効活用について」（岡豊キャンパス）
1月26日	平成22年度第6回弁理士による発明相談会（4件）
1月27日	平成22年度第7回弁理士による発明相談会（3件）
2月3日	第74回知的財産専門委員会
2月15日	平成22年度第8回弁理士による発明相談会（1件）
2月16日	ナノバイオEXPO2011 出展（東京ビックサイト）（18日まで）
2月24日	第75知的財産専門委員会
3月15日	第76回知的財産専門委員会
3月24日	平成22年度第9回弁理士による発明相談会（1件） 平成22年度第3回「知財サロン」幹事会
3月25日	第77回知的財産専門委員会

TOPICS 1

国際･地域連携センター　知的財産部門の紹介

1. 機能

本部門は、高知大学知的財産ポリシーに則り、教職員の研究成果である発明の相談・保護・管理・活用を実施する部門として設置されたものである。

主要な活動として、発明相談会開催、特許等のライセンス契約・管理、特許関係の各種セミナー及び対話型特許調査事業の開催、共同研究契約等の知的財産条項の交渉・検討、及び各種展示会出展等の技術移転活動を行っている。

2. 体制

Ⅰ. 知的財産部門

平成22年度の体制は、部門長は国際・地域連携センター長の受田副学長が兼務し、四国ＴＬＯ分室員として兵頭客員教授（平成21年3月から）が教員組織として、また、事務組織としては、地域連携課の専門職員及び事務職員がそれぞれ1名配置されている。

Ⅱ. 他部門等との連携

当部門の業務内容と密接に関連する、産学官民連携部門（コーディネイト機能）及び研究協力課（共同研究契約等の実務窓口）との連携が必須であることから、合同ミーティング及び情報交換を実施し、案件のステージにあわせて最適な教職員を当該教職員の担当者とすることで、効率的に業務を行えるように配慮している。

Ⅲ. 四国 TLO との連携

当部門の業務に関して、四国 TLO との連携強化を図っている。具体的には、研究者から発明の相談があった場合において、弁理士とともに発明相談会に同席し、特に市場性の観点からの目利きを依頼することができる体制を確立している。また、技術移転段階においては、手続を文書化することにより、明確な意思表示の下での委託関係を構築している。

Ⅳ. 県内機関との連携

高知県商工労働部新産業推進課・高知県商工会議所・高知県商工会連合会・財団法人高知県産業振興センター・社団法人発明協会高知県支部・高知工科大学・県内企業等と連携して実施する「知財サロン」に幹事として参画し、県内での知的財産に関する取り組みの活性化を図るとともに、情報交流ネットワークを構築した。

3. 実績

特許出願に関しては、第２期中期目標・中期計画等を踏まえ、大学帰属出願案件についてはより一層の質的充実を図るため、特許の実施許諾契約等におけるライセンス等収入（直接的収入）や特許等をシーズとした共同研究等の外部資金及び競争的資金（間接的収入）の獲得に当たっての数値目標を設定するとともに、共同研究の成果に係る特許出願及び譲渡指針の策定を行った。また、なされた発明のブラッシュ・アップにより、より有益なものに磨き上げるための特許助成制度を活用し、医学部教員の発明に対し、730千円の助成を行った。

平成22年度における特許出願等件数については､発明届出件数は39件（前年度比３件増）､特許出願件数は28件（前年度比２件減）であった。なお､出願件数（28件）のうち､共同研究等に基づく企業等との共同出願件数は､21件であり、将来の実施（実用化）が期待される。

平成 22 年度における特許等の知的財産の活用による大学への収入又は外部資金等の獲得状況については、実施許諾契約等に基づく収入（直接的収入）は 3,388 千円であり、過去最高の収入実績となった。

また、特許をシーズとし、これと密接に関連した共同研究、受託研究及び外部資金等の受入（間接的収入）は、150,449 千円であった。

4. 成果物（16 ー 22 年度）

・高知大学知的財産ポリシー
・高知大学国際・地域連携センター規則
・高知大学国際・地域連携センター運営戦略室規則
・高知大学国際・地域連携センター推進委員会規則
・高知大学国際・地域連携センター知的財産専門委員会規則
・高知大学発明規則
・職務発明における補償金に関する細則
・高知大学技術移転規則
・高知大学成果有体物取扱規則
・企業との共同研究等から生じた知的財産権の取扱についての基本方針
・高知大学国際・地域連携センター知的財産部門特許助成制度について
・共同研究・受託研究・特許権の取扱いについて（平成１９年９月１０日改訂）
・国立大学法人高知大学特許出願方針
・特許の審査請求及び拒絶理由通知等対応方針
・国立大学法人高知大学知的財産権活用・放棄基準
・国立大学法人高知大学発明フロー
・発明届けの審議手順
・発明から特許取得までの手続きと費用
・高知大学共同研究取扱規則
・共同出願契約書（ひな型）
・実施許諾契約書（ひな型）
・有体物譲渡契約書（企業用）（ひな型）
・有体物譲渡契約書（研究用）（ひな型）
・商標使用権設定契約書（有償版）
・商標使用権設定契約書（無償版）
・「研究ノート」の活用について
・高知大学安全保障輸出管理規則
・共同研究の成果に係る特許出願及び譲渡指針

TOPICS 2

各種セミナー等取り組み

1．セミナー

Ⅰ．「知的財産総合基礎セミナー」

テ ー マ：「社会で必ず役立つ知的財産の基礎知識」
開催日時：平成 22 年 10 月 27 日（水）　16：00 ～ 18：00
開催場所：高知大学　朝倉キャンパス　共通教育棟　２階　222 番教室
講　　師：弁理士　大西　浩之（篠原小宮国際特許事務所：東京都）
主　　催：四国経済産業局
共　　催：高知大学
実　　施：（社）発明協会　高知県支部

Ⅱ．「医学部研究者、医療従事者向け知的財産セミナー」

テ ー マ：「知的財産の有効活用に向けて」
開催日時：平成 23 年 1 月 25 日（火）　18：00 ～ 20：00
開催場所：高知大学　岡豊キャンパス　臨床講義棟　１階　第一講義室
講　　師：加藤　浩（日本大学　大学院知的財産研究科　教授：東京都）
主　　催：四国経済産業局
共　　催：高知大学
実　　施：株式会社カネカテクノリサーチ

2．発明相談会

伊藤　浩彰　弁理士、竹岡　明美　弁理士（アスフィ国際特許事務所：大阪市）、宮川　直之　弁理士（三枝国際特許事務所：大阪市）、戸崎　富哉　弁理士（高島国際特許事務所：大阪市）を延べ 9 回招聘し、累計 20 件の相談を行い、出願明細書の打合せや、研究の方向性や必要なデータの確認等を行った。

3．展示会（知的財産部門が主となるもの）

名　　称：イノベーションジャパン 2010・大学見本市
開催日時：平成 22 年 9 月 29 日（水）～ 10 月 1 日（金）
開催場所：東京都　東京国際フォーラム
主　　催：独立行政法人科学技術振興機構（JST）
　　独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）

名　　称：アグリビジネス創出フェア
開催日時：平成 22 年 11 月 24 日（水）～ 26 日（金）
開催場所：千葉市　幕張メッセ
主　　催：農林水産省

名　　称：ナノバイオ EXPO2011
開催日時：平成 23 年 2 月 16 日（水）～ 18 日（金）
開催場所：東京都　東京ビッグサイト
主　　催：nano　tech　実行委員会

その他の取り組み

１．知財活動の個人評価への反映（特許を論文と同等に評価することへの取組）

高知大学では、教員の活動を教育、研究にとどまらず地域貢献等を含めて点数化（評点）して評価するシステムを他大学に先駆けて構築した。平成 17 年度は試行期間とし、平成 18 年度から本格的に導入している。この中で特許出願、特許登録についても論文と同等以上の価値を認めることになった。このシステムは、今後、大学に知的財産活動を定着化するのに非常に大きな力になると考えられる。

素点の一覧表（講義時間1時間との比較）

研究			素点		時間換算（授業相当）	
			文系(x2)	理系	文系	理系
論文	著書	欧文	30	15	200.0	100.0
		邦文	12	6	80.0	40.0
	総説	欧文	30	15	200.0	100.0
		邦文	12	6	80.0	40.0
	原著論文	欧文	30	15	200.0	100.0
		邦文	12	6	80.0	40.0
活動			文理一共通		文理一共通	
	受賞	件数	25.00		166.7	
	特許出願（公開）	件数	5.00		33.3	
	取得	件数	30.00		200.0	

【平成１７年度「教員の総合的活動自己評価」に関する報告書】より抜粋（平成 18 年 12 月　国立大学法人高知大学評価本部）

２．研究助成制度

特許出願を行ったが、知的財産の観点からさらに追加の研究を行えばより強い発明にブラッシュアップできる潜在的価値が高い案件がある。しかし若手研究者等では研究費が少なく研究が進まない場合も考えられ、少額ではあるが知財部門の判断で知財部門予算から助成できる制度（０～２件／年、総額 100 万円）を発足させた。この制度は、定期的に募集するものではなく、真に必要だと知財部門が判断した場合に行う助成制度として設定したものである。

３．対話型発明相談会事業

医療学系基礎医学部門医学部松﨑茂展教員、内山淳平教員、総合科学系複合領域科学部門津田正史教員の研究を対象として、四国経済産業局主催により、弁理士等の専門家及び特許調査等を行っている株式会社カネカテクノリサーチを招聘し、先行技術調査、特許情報検索、特許マップ作成、明細書作成などを、研究者と対話しながら進めることを通じて、研究開発の初期の段階から特許戦略を意識し、個別案件を深く掘り下げて議論する目的として設けられた当該事業を行ったものである。

1 平成22年度　発明届の処理状況

事項		平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
1. 特許出願件数	【計画】	30 件	33 件	36 件	39 件	42 件	45 件	
	【実績】	33 件	34 件	37 件	30 件	35 件	30 件	28 件
2. 発明届出件数	【計画】		38 件	41 件	44 件	47 件	50 件	
	【実績】	45 件	38 件	51 件	46 件	44 件	36 件	39 件
3. 発明相談会（知的財産部門）	【計画】		38 件	41 件	44 件	47 件	50 件	
	【実績】	未記録	45 件	60 件	66 件	75 件	72 件	65 件
4. 発明相談会（弁理士）	【計画】		8 回	10 回	10 回	10 回	10 回	
	【実績】	5 回	8 回	11 回	11 回	14 回	7 回	9 回
	【実績】	26 件	28 件	27 件	40 件	34 件	21 件	20 件
5. 特許実施許諾等契約（新規）	【計画】		2 件	2 件	2 件	2 件	2 件	
	【実績】	1 件	2 件	3 件	4 件	12 件	3 件	6 件
6. 特許実施許諾等契約（継続及び新規の延べ許諾件数）	【計画】		4 件	6 件	8 件	10 件	12 件	
	【実績】	2 件	4 件	7 件	9 件	17 件	15 件	21 件
7. セミナー開催	【計画】		2 回	2 回	2 回	2 回	2 回	
	【実績】	3 回	2 回	4 回	6 回	4 回	3 回	2 回
8. 共同研究等の知的財産条項検討・交渉	【計画】		31 件	34 件	37 件	40 件	43 件	
	【実績】	未記録	31 件	81 件	94 件	64 件	42 件	47 件
9. 大学院生への特許調査方法教育	【計画】		58 名	23 名	23 名	23 名	23 名	
	【実績】		58 名	1 名	18 名	7 名	1 名	0 名
10. 研究戦略企画プロジェクト会議	【計画】		2 回	2 回	3 回	3 回	4 回	0 回
	【実績】		2 回	2 回	3 回	2 回	5 回	2 回
11. 特許フェア等（産学官民が主となるものを除く）	【計画】		1 回	1 回	1 回	1 回	1 回	
	【実績】		1 回	1 回	2 回	2 回	3 回	3 回
12. 職務発明説明会（新規採用者）	【実績：回数】	対象外	1 回	3 回	16 回	5 回	1 回	1 回
	【実績：確認書】	対象外	33 人	23 人	28 人	25 人	12 人	26 人
13. 研究ヒアリング	【実績：人数】				15 人	19 人	5 人	2 人
14. ＪーＳＴＯＲＥ、特許流通ＤＢ　登載件数	【実績】			23 件	23 件	28 件	39 件	39 件
15. 上記照会件数	【実績】			0 件	2 件	2 件	1 件	0 件

12.特許等による収入実績		327千円	1,904千円	1,871千円	1,281千円	676千円	3,388千円
13.特許出願支援（JST）実績	498千円	3,140千円	3,790千円	2,342千円	4,639千円	3,288千円	6,178千円

Section

国際交流部門

● 活動報告

平成22年

4月1日	平成22年度高知大学国際交流基金助成事業の実施 （6事業、予算規模16,497千円）
4月14日	第27回国際交流推進委員会（計7回開催）
4月13日	中国安徽高等職業教育交流団が表敬訪問
5月24日	中国晋城市幹部研修交流団表敬訪問
6月2日	第26回国際交流基金管理委員会（計2回開催）
7月3日	日本学生支援機構帰国外国人留学生短期研究制度により天津師範大学教育学院の劉智萍講師を外国人研究者として招聘（9月30日まで）
7月20日	独立行政法人国際協力機構（ＪＩＣＡ）平成22年度集団研修「海域における水産資源の管理及び培養コース」開講（10月まで）
7月22日	東南アジア若手研究者による国際ワークショップを開催
7月28日	高知大学国際・地域連携センターFD・SD研修会 （ｶﾘﾌｫﾙﾆｱ州立大学ﾌﾚｽﾞﾉ校名誉教授 Dr.Katsuyo Howard氏による異文化理解・異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ特別講演）
8月9日	スリウィジャヤ大学長を櫻井理事（総務担当）が表敬訪問
8月20日	安徽大学外国語学院に日本語教師として派遣していた外山紗江客員助教による帰国報告会
8月26日	東国大学校文科大学（韓国）と学生交流に関する覚書を締結 ３日間に亘り両大学の研究者が共同して青山文庫にて仏画調査
8月30日 ～31日	高知大学帰国留学生ネットワーク（中国上海地域）ホームカミングデー事業による上海海洋大学教授（同ネットワーク同窓会会長）以下６名の学長表敬訪問及び国際交流セミナー参加他
9月10日	湖南農業大学（中国）教員が櫻井理事（総務担当）を表敬訪問
9月13日	南京航空航天大学（中国）副学長以下５名が学長表敬訪問
9月28日	平成22年度国際交流基金助成決定通知書交付式
10月12日	サルティジョ工科大学（メキシコ）学長等の表敬訪問
10月19日	上海海洋大学（中国）と大学間交流協定及び学生交流に関する覚書を締結
10月20日	深見理事（教育担当）他の安徽大学（中国）表敬訪問等
10月22日	岩崎部門長以下５名が高知県上海事務所を訪問
10月23日	中国上海東亜展覧館において日本留学フェア(上海)に参加(10月24日まで)
11月3日	外国人留学生による外国語講座及び郷土料理紹介・販売 （高知地域留学生交流推進会議による留学生と地域住民との交流事業）
11月5日	平成22年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会（文部科学省講堂）櫻井理事（総務担当）他
11月6日	第4回黒潮圏科学国際シンポジウム（於：高知大学　11月7日まで） 平成22年度外国人留学生実地見学旅行（愛媛・広島）（11月7日まで）
11月9日	韓瑞大学（韓国）総長の学長表敬訪問
11月12日	農学部外国人留学生等交流懇談会（西島園芸団地）
11月30日	医学部外国人留学生等との交流懇談会（医学部キャンパス）
12月16日	学長主催外国人留学生交流懇談会（高知商工会館）

平成23年

2月15日	教育学部及び同附属特別支援学校とオィレショー特別学校（スウェーデン）との部局間交流協定締結
2月17日	カンボジア工科大学（カンボジア）教員の櫻井理事（総務担当）表敬訪問

TOPICS 1

中国安徽高等職業教育交流団が訪問

高知大学事務局 5F 会議室にて意見交換

記念品交換（櫻井理事から李団長へ）

事務局玄関前にて集合写真撮影（前列左から５人目が李　和平　団長）

平成 22 年 4 月 13 日（火）に李　和平　安徽省教育庁副庁長を団長とする安徽高等職業教育交流訪問団 12 名が本学を訪れ、安徽大学への日本語教師派遣、留学生の短期研修交流、及び安徽農業大学との林業、農業関連の交流等について意見交換が行われました。意見交換会の後、記念品交換を行い、李団長から「心のこもった対応に感謝いたします。高知大学と安徽大学は人文系の交流は盛んに行われてきました。今後、理科系や農学系等についても交流が図られるようお願いします」との挨拶がありました。写真撮影の後はメディアの森、その他の学内見学を行いました。

TOPICS 2

東南アジア若手研究者による国際ワークショップを開催

若手研究者による研究発表

ワークショップ会場風景

ワークショップに参加した受入れ教員及び各国若手研究者

平成22年7月22日（木）「アジアン・フィールドサイエンス・ネットワークに関する国際ワークショップⅡ　－東南アジアの環境･食料問題解決に向けたフィールドサイエンス－」が物部キャンパスで開催されました。参加者は40名で、９名の東南アジアの協定校を中心とした新進気鋭の若手研究者がアジア地域の環境・食料問題の解決に向けた様々な分野からの研究発表を行いました。また、大学間ネットワークの強化に向けたディスカッションも活発に行われました。本学では、本事業（日本学術振興会若手研究者交流支援事業～東アジア首脳会議参加国からの招聘～）の採択を受け、「アジアン・フィールドサイエンス・ネットワーク」に賛同する協定校から若手研究者を積極的に招聘し、今後の教育研究プロジェクトの主導的役割を担う国際人材の育成を図ることとしています。

TOPICS 3

東国大学校文科大学（韓国）との学生交流に関する覚書を締結

調印式

懇談

平成22年8月26日（木）、東国大学校文科大学史学科の金教授他3名が来日し、人文学部において学生交流に関する覚書を取り交わしました。既に、平成23年3月に本学から派遣する学生1名が決定しており、今後の活発な学生交流が期待されています。

また、8月26日（木）から28日（土）まで3日間にわたり、両大学の研究者が共同して青山文庫の朝鮮仏画調査を行いました。

TOPICS 4

高知大学帰国留学生ネットワーク(中国上海地域) ホームカミングデー関連事業

1）学長表敬訪問

学長歓迎挨拶

記念品交換

平成 22 年 8 月 30 日（月）、総合教育センター修学・留学生支援部門が企画した「帰国留学生ネットワーク（中国上海地域）ホームカミングデー事業」により来学した、鐘　俊生　上海海洋大学教授（高知大学帰国留学生ネットワーク（中国上海地域）同窓会会長）以下 6 名が学長を表敬訪問し、近況報告を行いました。

2）国際交流セミナー

吉倉総合教育センター長挨拶

畢　雅萌、王　端　氏による発表

全員で高知大学学歌を合唱

平成22年8月30日(月)、午後、総合研究棟2階会議室1において、帰国留学生6名が以下のテーマで達者な日本語を操り発表を行いました。質疑応答により参加者は更に国際理解を深めることができました。セミナー終了後は高知市内で交流懇談会を開催し、多くの参加者を得て大いに盛り上がりました。

セミナー参加者：45名（教職員29名、高知県関係5名、留学生等11名）

交流懇談会参加者：49名（教職員26名、帰国留学生6名、高知県他4名、留学生等13名）

・鐘　俊生　　上海海洋大学教授　「高知大学帰国留学生ネットワーク（中国上海地域）同窓会組織の展望」
・何　　明　　上海交通大学教授　「上海交通大学と高知大学との大学間交流」
・曽　慶煒　　実値留場香港有限公司　上海代表処　首席代表　「中国における日系企業」
・朱　孔軍　　南京航空航天大学教授　「中国の高等教育」
・毕　雅萌　　上海外国語大学大学院生
・王　　端　　上海洛恩市場営銷策劃有限公司

3）同窓会活動・同窓会事務所等に関する打合せ

吉倉総合教育センター長挨拶

高知県産業振興推進部　揚田主幹ご挨拶

平成22年8月31日（火）、10時から事務局５Ｆ会議室において、帰国留学生６名と今後の同窓会活動の方針や同窓会事務所等に関して意見交換を行いました。同席いただいた、高知県産業振興推進部の揚田主幹及び（財）高知県国際交流協会の山下シニア・マネージャーからは、同窓会ネットワークの充実・発展のための示唆に富んだご意見をいただくことができました。

本学としては、同窓会名簿の取扱基準を早々に定めることとして、連絡先や勤務先等の異動情報収集・名簿の更新及び中国（上海地域）での就職情報の提供等を同窓会にお願いしました。

また、上海地域以外にも新たな同窓会を発足させるとの方向性も打ち出されました。なお、同窓会事務所については、同窓会会長である、鐘　俊生　上海海洋大学教授に同大学に設置することをご快諾いただきました。

平成22年10月19日（火）には深見理事（教育担当）以下７名が同大学を訪問し、大学間交流協定等の締結、及び同窓会活動に関する打合せを行いました。

TOPICS 5

帰国外国人留学生による特別講演会を開催

特別講演会の様子

平成22年9月22日（水）、日本学生支援機構の帰国外国人留学生短期研究制度により、7月3日から9月30日まで教育学部菊地教授（家政教育）の下で研究を行っている、劉智萍講師の特別講演会を開催しました。

劉講師は、食育に関する知見を深めるとともに高知市内の幼稚園を訪問し、観察・情報交換を通して母国（中国）の小学校、幼稚園で実施できるような教育内容を構想しています。

TOPICS 6

上海海洋大学（中国）との学術交流協定・学生交流に関する覚書を締結

協定調印式

記念撮影

平成22年10月19日（火）、深見理事（教育担当）以下７名が上海海洋大学を訪問し、大学間交流協定及び学生交流に関する覚書調印式に出席しました。

上海海洋大学の前身は1912年に設立された江蘇省立水産学校で、その後発展を重ね、現在は水産・生命学部、海洋科学部、食品学部、経済管理学部、情報学部、人文学部、工学部、外国語学部の８学部からなり、14,000人以上の学生を有する総合大学となっています。

現在、愛媛大学連合農学研究科（高知大学配属）の修了生２名が同大学の教授となっており、研究交流、学生交流の両面で今後の活発な交流が期待できます。また、高知大学帰国留学生ネットワーク（中国上海地域）同窓会の役員としても協力いただいていることから、同ネットワークの更なる発展、充実も期待されます。

調印式終了後は、鐘俊生上海海洋大学教授（高知大学帰国留学生ネットワーク（中国上海地域）同窓会会長）の案内でキャンパス内を見学するとともに、今後の学術交流、学生交流及び同窓会活動について意見交換が行われました。

TOPICS 7

安徽大学（中国）表敬訪問及び進学説明会を実施

高知大学への進学説明会

安徽大学副学長との記念撮影

平成22年10月20日（水）～21日（木）、深見理事（教育担当）以下7名が安徽大学を表敬訪問し、今までの両大学の交流をベースに更なる発展に向け、来年の高知大学中国語センター設立式典に向けた黄德寛書記（前学長）の高知大学訪問や次回協定更新時の交換学生数の増員等について検討を行いました。

また、日本語学科学生を対象にした高知大学への進学説明会を実施しました。参加学生は本学の概要、学部、大学院の説明及び留学生活全般についての説明に熱心に耳を傾けていました。

進学説明会参加学生数：106名（1年生：25名、2年生：27名、3年生：26名、4年生：28名）

その他、2日間をかけて、芸術学部、歴史学部、生命科学部及び徽学センター等を訪問し、今後の連携などの意見交換を行うとともに、施設見学を行いました。

TOPICS 8

日本留学フェア（上海）に参加

留学希望者との個別相談

平成22年10月23日（土）、24日（日）の両日、岩崎国際・地域連携センター国際交流部門長以下５名が日本留学フェア（上海）に参加し、会場の上海東亜展覧館に設置された高知大学のブースで本学への留学希望者、及びその父兄に対して情報提供を行いました。

ブース訪問者数：120名（学部進学希望者：34名、大学院進学希望者：86名）

TOPICS 9

第４回黒潮圏科学国際シンポジウムを開催

高知大学メディアの森 ６Ｆメディアホールにて研究発表

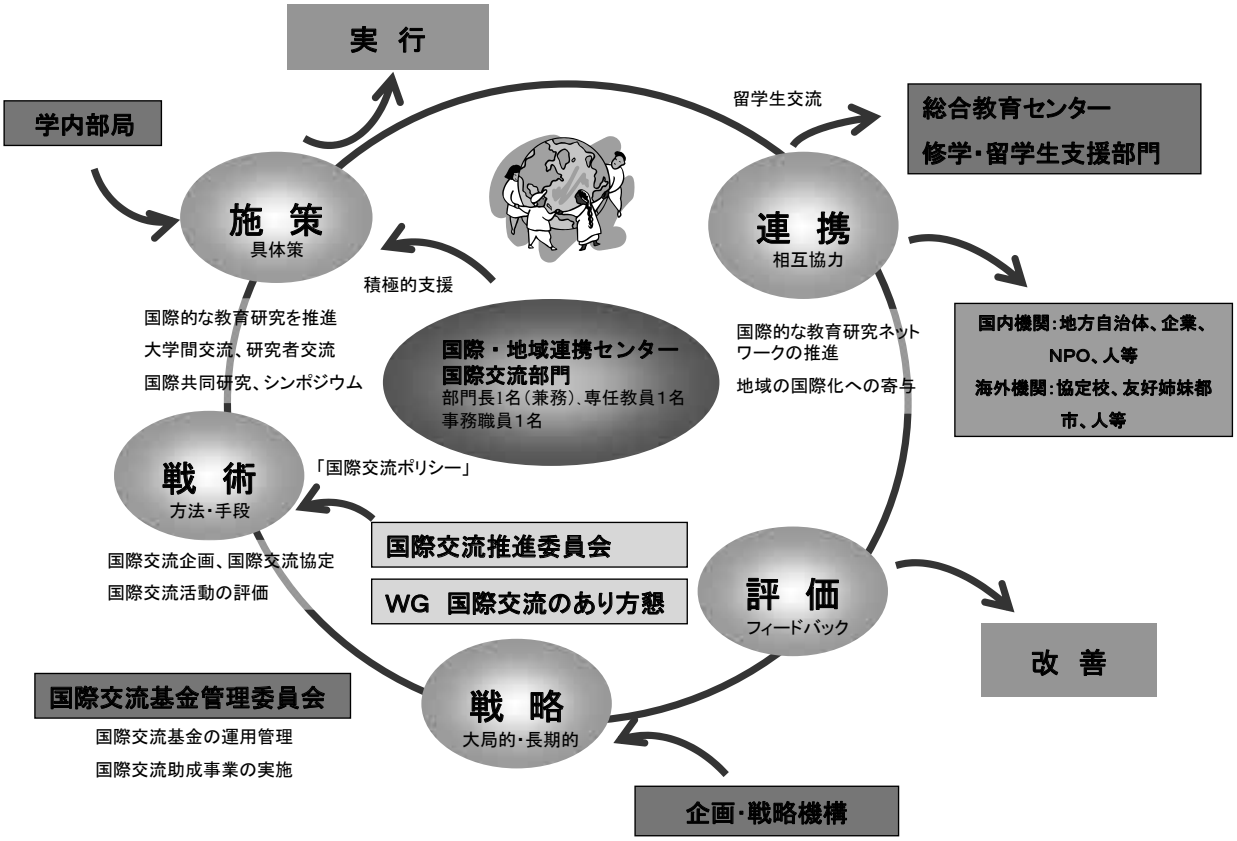
平成22年11月６日（土）～７日（日）に高知大学メディアの森６Ｆ　メディアホールにおいて「第４回黒潮圏科学国際シンポジウム」を開催し、「黒潮トライアングルから黒潮圏Ｓ状帯域へ　－近年の自然・社会経済変動が海域・陸域の生態系に及ぼす諸影響の検討－」をテーマに研究発表を行いました。

過去３回のシンポジウムは平成19年度以降、黒潮を共有する高知、台湾、フィリピンの３カ国で開催されました。今回は、マレーシアのサラワク州及びインドネシアの西カリマンタン州を黒潮圏域に加え、５カ国の研究者が一堂に会して情報を交換しました。

各国の参加機関は以下のとおり。
日本：高知大学
台湾：国立中山大学
インドネシア：タンジュンプラ大学
フィリピン：フィリピン大学、ビコール大学他
マレーシア：マレーシアサラワク大学

1 国際交流のスキーム及びポリシー

高知大学における国際交流活動のスキーム



高知大学における国際交流ポリシー

平成 18 年 4 月 12 日
役員会決定

高知大学は「地域の大学」として、国際交流を通じ教育研究活動を活性化すると共に、アジア・太平洋地域を始め、世界の国々、特に発展途上国との教育研究協力活動を推進します。これらの国々の大学と研究交流、学生交流活動を推進する中で、世界の文化の発展に貢献することを目標としています。この目標の達成のために、次の７つの原則を定めます。

１．量と共に質の充実

従来、留学生を通じての交流や研究交流などの交流実績は、数によって評価されてきました。今後は、量の確保と共に質の充実を目指し、帰国元留学生のフォローアップとネットワーク化を進め、多国間交流の促進に努めます。

２．個人ベースから組織ベースへ

従来は各部局の計画に基づいた交流を、個人単位の活動で支えていく傾向にありました。今後は、高知大学の国際戦略を明確にし、目的遂行にむけ全学的組織として取り組みます。

３．分散から一元化へ

従来、国際交流の実務は個人、部局、国際・研究協力課等で行われてきました。今後は、限られた人的資源で最大限の効果をあげるため、国際交流部門の統括のもとに国際交流の一元的な実務体制を作り、実務を遂行します。

４．横並びから重点化へ

従来は国際交流においても一般的に、資源を均等に配分する傾向にありました。しかし今後は、国際戦略に則って重要と思われる事業に資源を重点的に配分します。

５．ローカルな体制からグローバルな体制へ

国際交流に関して、それぞれの大学の制度や運営方法を可能な限り把握し、世界各国のそれぞれの大学と協調して、交流が容易となるように制度や運営方法等の体制を改めていきます。

６．受入れ中心から相互交流へ

現在、本学から海外に留学する学生は少数に留まっています。学生の国際性を養うために、学内環境を整えて、海外へ留学・研修する学生の数を増やすことに努めます。

７．国際交流促進のための企画力増強

国際交流推進のために大学としての企画力を増し、ＪＩＣＡなどの国際協力組織との積極的な連携を図ると共に、国際交流の推進に向けて資金獲得に努めていきます。

2 高知大学国際交流基金

高知大学国際交流基金とは

～ 高知大学における組織的で特色ある国際交流活動を支援 ～

目標　本学の基本目標である「先端的で国際的な教育研究拠点の形成」及び「アジア・太平洋地域を中心とした発展途上国との教育研究協力活動を通じて世界の文化の発展に貢献」の実現に寄与する。

背景　高知大学における国際交流の課題

- 国際交流の多くは研究者個人の活動に依存
- 交流実績はこれまで数によって評価
- 組織的、戦略的取組みに至らない国際交流活動
- 資源は横並びに均等配分

優先採択（重要性・緊急性）　「高知大学における国際交流ポリシー」平成18年4月役員会決定　重点配分（金額・件数）

助成対象事業（基金規則第5条）　「国際交流基金管理委員会」において戦略的に助成事業を行う（募集要項の策定・公募・採択）。

大学間交流の拡大・活性化
（中期計画　021,120）

○外国の大学との間で協定を締結する事業及び当該協定に基づく事業（規則5-1）
大学間・部局間交流協定の締結、更新に基づく協定校との国際交流に必要な渉外事業を支援

留学生交流による知的国際貢献 教育研究ネットワークの推進
（中期計画　040,070,119,122）

○外国人留学生への奨学事業（規則5-3）
人物・学業等に優れ、経済的援助が必要と認められる私費外国人留学生に奨学金を支給
○外国へ留学する学生への奨学事業（規則5-4）
協定等に基づき外国の大学へ留学する学生に奨学金を支給
○外国人留学生の帰国後の協力関係の樹立・維持のためのフォローアップ事業（規則5-6）
卒後留学生を通じた大学等の教育研究機関・企業等の連携をはかるネットワークづくりを支援

連携強化

国内機関：地方自治体、企業、NPO等
海外機関：協定校、姉妹都市、海外企業等

国際的水準の研究の推進
（中期計画　84-1,86-ハ）

○外国人研究者の招聘事業（規則5-2）
海外の優れた外国人研究者を本学主催のシンポジウム、セミナー、講演会、学生のための特別講義、研究指導に招聘
○その他国際交流に必要な事業（規則5-8）
本学が中心となって行う国際共同研究、国際会議の開催を支援
その他本学の国際化に特段の効果をもたらすことが期待される事業を支援

国際的感覚を持つ人材の育成
（中期計画　010,84-2,121）

○大学院生の研究発表を目的とする海外派遣事業（規則5-5）
外国において、優れた研究の学会発表・調査研究等を行う大学院生に対する海外派遣を支援
○職員の海外派遣事業（規則5-7）
専門分野等についての調査研究、国際会議の出席、諸外国の高等教育・学術等に関する調査・視察などの海外派遣を支援

高度化

教職員、学生、研究者による特色ある国際交流活動の推進

平成22年度高知大学国際交流基金助成事業の実施状況

平成22年度に採択した国際交流助成事業

①外国の大学との間で協定を締結する事業及び当該協定に基づく事業 1件あたり上限50万円　5,000,000円	申請数	19
	採択数	10
	採択率	52.6%
②外国人研究者の招聘事業 1件あたり上限50万円　2,000,000円	申請数	11
	採択数	2
	採択率	18.2%
③外国人留学生への奨学事業 月額3万円×12ヶ月×20名　7,200,000円	申請数	48
	採択数	24
	採択率	50.0%
④外国へ留学する学生への奨学事業 1件あたり上限30万円　1,800,000円	申請数	2
	採択数	2
	採択率	100.0%
⑤大学院生の研究発表を目的とする海外派遣事業 1件あたり上限30万円　1,800,000円	申請数	21
	採択数	7
	採択率	33.3%
⑥外国人留学生の帰国後の協力関係の樹立・維持のためのﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ事業　500,000円	申請数	1
	採択数	0
	採択率	0.0%
⑦職員の海外派遣事業 1件あたり上限30万円　1,200,000円	申請数	15
	採択数	1
	採択率	6.7%
⑧その他国際交流に必要な事業 国際共同研究、その他の事業　6,000,000円	申請数	17
	採択数	9
	採択率	52.9%
⑨国際交流基金に関する事業　500,000円	—	—
⑩予備費　718,000円	—	—
合計（予算額）　26,718,000円	申請数	134
※助成額　24,912,880円	採択数	55
	採択率	41.0%

22年度事業の成果　高知大学の教育研究の国際化に一層貢献

新規協定締結及び協定校との連携強化
例①　ﾀﾏｻｰﾄ大学科学技術学部、ｵｲﾚｼｮｰ知的障害特別学校（ｽｳｪｰﾃﾞﾝ）との部局間協定締結及びﾏﾚｰｼｱｻﾗﾜｸ大学、ﾀﾝｼﾞｭﾝﾌﾞﾗ大学(ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ)、ﾁｪﾝﾃﾞﾗﾜｼ大学（ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ）との学生交流に関する覚書の締結。

外国人研究者の招聘
例②　世界的に有名な発達障害の研究者であるｸﾘｽﾄﾌｧｰ･ｷﾞﾙﾊﾞｰｸﾞ博士を招聘し、研究協議及び講演会を実施。

戦略としての留学生支援
例③　経済的に困窮する私費留学生に奨学金を支給し、就学環境を整備。

大学院生の海外研究発表機会を提供
例④　７名の大学院生に国際学会で研究発表を行わせ、世界の研究者にアピール。

①ｵｲﾚｼｮｰ知的障害特別学校（ｽｳｪｰﾃﾞﾝ）との協定調印式

展望と課題　最近の大学の国際化に関する主な提言（政府・高知大学）

〔経済財政改革の基本方針2008〕（20.6.27）
- 若いうちから多国籍の留学生と学び、国際感覚を身に付ける教育を充実する。
  留学生30万人計画の策定、英語教育の強化、日本人大学生の海外留学の推進など

〔本学における国際交流の取り組みについて〕
- 留学生の受け入れを、学生総数の最低5%（250人）に引き上げる。海外への留学生派遣を、学生総数の最低1%（50名）に引き上げる。
- 文理統合型の学際的研究を推進し、海外諸大学との共同研究や連携を深める。
- 本学で学んだ留学生のネットワークを構築し、海外における連絡網を整備する。
  キャンパスの多言語化、9月入学、英語による授業、国際共同研究、海外拠点など

これらの提言を着実に実行するためには国際交流基金の充実とともに、別に戦略的・継続的に国際交流を推進するための経費を措置することが緊急に求められている。

平成 22 年度　国際交流基金助成事業採択一覧

1. 外国の大学との間で協定を締結する事業及び当該協定に基づく事業（様式1）

部局名	申請者	学術交流協定大学及び 事前調査先大学名
国際交流推進委員会	櫻井克年	スリウィジャヤ大学（インドネシア）
国際交流推進委員会	Eva Garcia del Saz	チェンデラワシ大学（インドネシア）
人文社会科学系 教育学部門	菊地るみ子	天津師範大学（中国）
教育学部附属 特別支援学校	山崎敏秀	オイレショー知的障害特別学校（スウェーデン）
総合科学系 複合領域科学部門	梶芳浩二	タマサート大学（タイ）
医学部 国際連携推進委員長	小林道也	ハワイ大学（アメリカ）
医療学系看護学部門	尾原喜美子	チェンデラワシ大学（インドネシア）
自然科学系 農学部門	安武大輔	Lentiz校（農業専門校）（オランダ）
総合科学系 黒潮圏科学部門	奥田一雄	タンジュンプラ大学（インドネシア） サラワク大学（マレーシア）
海洋コア総合研究センター	渡邊　　厳	韓国海洋研究院（韓国）
小計		10件

2. 外国人研究者の招聘事業（様式2）

部局名	申請者等	招聘者
総合科学系 複合領域科学部門	M.SANTOSH	T.R.Chetty（インド） I.Y.Safonova（ロシア）
医療学系 臨床医学部門	井上新平	Christopher Gillberg（スウエーデン）
小計		2件

3. 大学院生の研究発表を目的とする海外派遣事業（様式5）

申請部局名	申請者等	派遣先
理事	小槻日吉三	2010環太平洋国際化学会議（PACIFICHEM2010） アメリカ合衆国（ハワイ）
自然科学系 理学部門	市川善康	2010環太平洋国際化学会議（PACIFICHEM2010） アメリカ合衆国（ハワイ）
総合科学系 複合領域部門	上田忠治	The 39th International Conference on Coodnation Chemistry オーストラリア
総合科学系 複合領域部門	上田忠治	The 39th International Conference on Coodnation Chemistry オーストラリア
総合科学系 複合領域部門	柳澤和道	The 2nd International Solvothermal & Hydrothermal Association Conference 中国
総合科学系 複合領域部門	柳澤和道	The 2nd International Solvothermal & Hydrothermal Association Conference 中国
総合科学系 黒潮圏科学部門	上田拓史	第7回国際甲殻類会議 中国
小計		7件

4．職員の海外派遣事業（様式7）

部局名	申請者等	派遣先
自然科学系理学部門	西岡　孝	International Conference on Strongly Correlated Electron Systems（アメリカ）
小計		1件

5．（1）その他国際交流に必要な事業：国際共同研究(様式8-1)

部局名	申請者等	実施事業名
総合科学系 複合領域科学部門	岩崎　望	宝石サンゴ類の持続的利用と文化誌
人文社会科学系 教育学部門	遠藤隆俊	高知県佐川町青山文庫蔵「朝鮮仏教絵画」の国際共同研究
自然科学系 理学部門	池原　実	南大洋インド洋区における古環境変動復元
小計		3件

5．（2）その他国際交流に必要な事業：国際会議(様式9-1)

部局名	申請者等	実施事業名
国際交流推進委員会	富永　明	第4回黒潮圏科学会議
小計		1件

5．（3）その他国際交流に必要な事業：その他の事業(様式10)

部局名	申請者等	実施事業名
国際交流推進委員会	岩崎貢三	国際交流にともなう高知大学オリジナルグッズの製作
総合教育センター長	吉倉紳一	カルフォルニア州立大学フレズノ校100周年記念行事招待出席
人文社会科学系 教育学部門	谷口雅基	国際教育実習カリキュラムの構築
総合教育センター	林　翠芳	協定校安徽大学における進学説明会の開催
総合教育センター	林　翠芳	帰国留学生ネットワークホームカミングディの開催
小計		5件

合計	30件

平成 22 年度　国際交流基金助成事業採択一覧（奨学事業）

１．外国人留学生への奨学事業

①一般型

学部等	申請者氏名	留学生国籍
人文学部	田村安興	中国
	奥村訓代	中国
	小澤萬記	マレーシア
	大石達良	中国
	大石達良	中国
	中川香代	中国
	中川香代	マレーシア
総合人間自然科学研究科 人文社会学専攻	佐野健太郎	中国
総合人間自然科学研究科 教育学専攻	山中　文	中国
	藤田詠司	中国
理学部	北條正司	中国
総合人間自然科学研究科 理学専攻	村岡道明	中国
農学部	川合研兒	中国
総合人間自然科学研究科 農学専攻	關　伸吾	バングラデシュ
	島崎一彦	バングラデシュ
	島崎一彦	バングラデシュ
	笹原克夫	バングラデシュ
愛媛大学連合農学研究科	松本伸介	韓国
小計		18名

②戦略型

学部等	申請者氏名	留学生国籍
総合人間自然科学研究科 人文社会学専攻	奥村訓代	中国
総合人間自然科学研究科 教育学専攻	遠藤隆俊	中国
総合人間自然科学研究科 教育学専攻	遠藤隆俊	中国
総合人間自然科学研究科 医学専攻	菅沼成文	コンゴ（旧ザイール）
総合人間自然科学研究科 医学専攻	宮村充彦	タイ
愛媛大学連合農学研究科	八木年晴	ベトナム
小計		6名

２．外国へ留学する学生への奨学事業

申請者所属	申請者氏名	留学先
人文社会学系人文学部門	藤崎好子	ｲｪｰﾃﾎﾞﾘ大学（ｽｳｪｰﾃﾞﾝ）
人文社会学系人文学部門	中西三紀	ｲｪｰﾃﾎﾞﾘ大学（ｽｳｪｰﾃﾞﾝ）
小計		2名

合計	26名

3 国際交流協定締結校・国際交流活動と評価

(1)大学間協定一覧表（平成23年10月1日現在）

No.	大学名	国名	締結年月日	内容	中心部局
1	クイーンズランド大学	オーストラリア	昭和55年10月1日	学生交流	国際・地域連携センター
			昭和55年11月7日	学術交流	
2	佳木斯大学	中華人民共和国	昭和60年10月22日	学術交流及び学生交流	医学部
3	カリフォルニア州立大学フレズノ校	アメリカ合衆国	平成元年4月1日	学術交流及び学生交流	国際・地域連携センター
4	陝西科技大学	中華人民共和国	平成6年7月26日	学術交流及び学生交流	理学部
5	揚州大学	中華人民共和国	平成9年3月10日	学術交流及び学生交流	農学部
6	コンケン大学	タイ王国	平成9年3月27日	学術交流及び学生交流	農学部
7	中国海洋大学	中華人民共和国	平成9年5月28日	学術交流及び学生交流	農学部
8	南ボヘミア大学	チェコ共和国	平成11年6月23日	学術交流及び学生交流	教育学部
9	チェコ科学アカデミー昆虫学研究所	チェコ共和国	平成11年6月24日	学術交流及び学生交流	教育学部
10	カセサート大学	タイ王国	平成12年5月1日	学術交流及び学生交流	農学部
11	徳成女子大学	大韓民国	平成12年12月18日	学術交流及び学生交流	人文学部
12	コウチ科学技術大学	インド	平成14年2月26日	学術交流及び学生交流	理学部
13	上海交通大学	中華人民共和国	平成14年3月28日	学術交流及び学生交流	農学部
14	安徽大学	中華人民共和国	平成14年5月21日	学術交流及び学生交流	教育学部
15	ハノイ工科大学	ベトナム社会主義共和国	平成14年7月2日	学術交流及び学生交流	農学部
16	ハノイ科学大学	ベトナム社会主義共和国	平成14年7月2日	学術交流及び学生交流	農学部
17	ブラビジャヤ大学	インドネシア共和国	平成15年2月28日	学術交流及び学生交流	人文学部
18	漢陽大学校	大韓民国	平成15年6月26日	学術交流及び学生交流	医学部
19	韓瑞大学校	大韓民国	平成15年7月23日	学術交流及び学生交流	人文学部
20	国立ポリテクエ科大学 応用研究所，サルティジョ校	メキシコ合衆国	平成15年9月8日	学術交流及び学生交流	理学部
21	サルティジョエ科大学	メキシコ合衆国	平成15年9月9日	学術交流及び学生交流	理学部
22	ソウル社会福祉大学院大学校	大韓民国	平成15年9月21日	学術交流及び学生交流	教育学部
23	チェンデラワシ大学	インドネシア共和国	平成16年9月28日	学術交流及び学生交流	医学部
24	瀋陽薬科大学	中華人民共和国	平成17年5月12日	学術交流及び学生交流	農学部
25	フィリピン大学	フィリピン共和国	平成17年11月24日	学術交流及び学生交流	黒潮圏
26	ハノイ教育大学	ベトナム社会主義共和国	平成18年1月6日	学術交流及び学生交流	農学部
27	イェーテボリ大学	スウェーデン王国	平成18年2月27日	学術交流及び学生交流	教育学部
28	ビコール大学	フィリピン共和国	平成18年3月31日	学術交流及び学生交流	黒潮圏
29	河南大学	中華人民共和国	平成18年4月10日	学術交流及び学生交流	教育学部
30	常州大学	中華人民共和国	平成18年12月20日	学術交流及び学生交流	理学部
31	天津師範大学	中華人民共和国	平成18年12月28日	学術交流及び学生交流	教育学部
32	ボゴール農科大学	インドネシア共和国	平成19年3月1日	学術交流及び学生交流	農学部
33	マレーシアプトラ大学	マレーシア	平成19年5月18日	学術交流及び学生交流	農学部
34	国立中山大学	台湾	平成19年5月14日	学術交流及び学生交流	黒潮圏
35	東海大学	台湾	平成19年10月18日	学術交流及び学生交流	教育学部
36	スリウィジャヤ大学	インドネシア共和国	平成20年3月11日	学術交流及び学生交流	農学部
37	金剛大学校	大韓民国	平成20年12月9日	学術交流及び学生交流	人文学部
38	南京航空航天大学	中華人民共和国	平成21年11月12日	学術交流及び学生交流	理学部
39	マレーシアサラワク大学	マレーシア	平成21年11月24日	学術交流及び学生交流	黒潮圏
40	ハルオレオ大学	インドネシア共和国	平成21年12月16日	学術交流及び学生交流	農学部
41	中国文化大学	台湾	平成22年1月10日	学術交流及び学生交流	農学部

42	タンジュンプラ大学	インドネシア共和国	平成22年2月1日	学術交流及び学生交流	黒潮圏
43	白石大学校	大韓民国	平成22年3月25日	学術交流及び学生交流	人文学部
44	上海海洋大学	中華人民共和国	平成22年10月15日	学術交流及び学生交流	農学部
45	カンボジア工科大学	カンボジア王国	平成23年9月9日	学術交流及び学生交流	農学部

(2)部局間協定一覧表（平成23年5月1日現在）

No.	大 学 名	国 名	締 結 年 月 日	内 容	担当部局
1	ラ・パス大学理学部	ボリビア共和国	平成4年9月9日	学術交流	理学部
2	タイ　農林水産省水産庁	タイ王国	平成13年11月26日	学術交流	農学部
3	首都医科大学口腔医学院	中華人民共和国	平成16年10月28日	学術交流及び学生交流	医学部
4	インドネシア科学技術省技術評価応用庁	インドネシア共和国	平成18年11月28日	学術交流及び学生交流	農学部
5	釜山外国語大学校日本語大学	大韓民国	平成19年3月8日	学術交流及び学生交流	人文学部
6	フィリピン農業省漁業・水産資源局第2地域支所	フィリピン共和国	平成19年8月24日	学術交流	黒潮圏
7	韓国地質資源研究院石油海洋資源部	大韓民国	平成19年8月8日	学術交流及び学生交流	海洋コア
8	東国大学校文科大学	大韓民国	平成20年2月12日	学術交流及び学生交流	人文学部 教育学部
9	ハバナ大学海洋研究所	キューバ共和国	平成20年3月24日	学術交流及び学生交流	黒潮圏
10	天津科技大学経済与管理学院	中華人民共和国	平成20年4月4日	学術交流及び学生交流	人文学部
11	中央研究院地球科学研究所	台湾	平成20年6月18日	学術交流及び学生交流	海洋コア
12	ロモノソプ初等中等高等学校	ベトナム社会主義共和国	平成20年12月1日	学術交流及び学生交流	教育学部
13	国立忠北大学校農業生命環境大学	大韓民国	平成21年6月18日	学術交流及び学生交流	農学部
14	中国科学院地球環境研究所	中華人民共和国	平成21年9月29日	学術交流及び学生交流	海洋コア
15	国立慶尚大学校農業生命科学大学	大韓民国	平成22年1月9日	学術交流及び学生交流	農学部
16	パドバ大学理学部	イタリア共和国	平成22年1月20日	学術交流及び学生交流	理学部
17	ハワイ大学医学部	アメリカ合衆国	平成22年2月10日	学術交流及び学生交流	医学部
18	モナッシュ大学グリーンケミストリー研究センター	オーストラリア	平成22年8月9日	学術交流及び学生交流	理学部
19	タマサート大学科学技術学部	タイ王国	平成22年9月6日	学術交流及び学生交流	理学部
20	スウェーデン王国オィレショー特別学校	スウェーデン王国	平成23年2月15日	学術交流及び学生交流	教育学部
21	浙江大学生物系統工程及び食品科学学院	中華人民共和国	平成23年4月18日	学術交流及び学生交流	農学部

資　　料

高知大学国際・地域連携センター規則

平成 17 年７月１日
規 則 第 525 号
最終改正 平成 23 年６月 28 日規則第 11 号

（趣旨）

第１条　この規則は、国立大学法人高知大学組織規則第 27 条第２項の規定に基づき、高知大学国際・地域連携センター（以下「センター」という。）における組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第２条　センターは、高知大学における教育研究の進展に寄与し、高知大学の有する人的資源、知的資産、施設を活用して、地域との緊密な連携を推進することにより、地域における人材の育成、地域イノベーションの創出、科学の発展、技術開発及び産業の活性化に貢献するとともに、地域の振興と維持・発展に資することを目的とする。また、アジア・太平洋地域を中心とした世界の国々との学術交流を通じた教育研究活動の活性化に資するとともに、外国人留学生及び海外留学を希望する学生に対し、積極的な支援等を行うことにより、国際社会への貢献及び地域の国際化に寄与することを目的とする。

（分室）

第３条　岡豊キャンパス及び物部キャンパスに、それぞれ岡豊分室及び物部分室を置く。

（組織）

第４条　センターに、運営戦略室、地域連携・再生部門、産学官連携部門、知的財産部門及び国際連携部門を置く。

２　運営戦略室は、次の教職員で組織する。

(1) センター長

(2) 岡豊分室長及び物部分室長

(3) 地域連携・再生部門長、産学官連携部門長、知的財産部門長及び国際連携部門長

(4) 研究協力部長

(5) その他センター長が必要と認めた者

３　地域連携・再生部門は、専任担当教員・兼務教員で組織する。

４　産学官連携部門は、専任担当教員・兼務教員で組織する。

５　知的財産部門は、専任担当教員・兼務教員で組織する。

６　国際連携部門は、専任担当教員・兼務教員で組織する。

（業務）

第５条　センターは、役員会の意を受け、次の各号に掲げる業務を行う。

(1) 地域連携・再生部門

ア　地域との連携に係る企画立案及び推進に関すること。

イ　地域のニーズに応じた地域貢献に関すること。

ウ　地域の人材育成に関すること。

エ　地域に係る学術研究調査の実施に関すること。

オ　地域の諸活動に対する専門的支援に関すること。

カ　生涯学習に係る調査・研究に関すること。

キ　生涯学習講座の開設及び大学教育開放事業の実施に関すること。

ク 生涯学習に係る資料の収集、情報の提供及び相談に関すること。
ケ その他地域連携に関すること。
(2) 産学官連携部門
ア 地域イノベーションの創出に係る企画立案及び推進に関すること。
イ 企業、研究機関等との共同研究及び受託研究の受入れに関すること。
ウ 企業、研究機関等に対する学術情報の提供に関すること。
エ 学内及び他大学との共同研究及び連携に関すること。
オ 企業、研究機関等からの科学・技術相談に関すること。
カ 企業、研究機関等の技術者に対する技術教育及び研修に関すること。
キ その他産学官連携に関すること。
(3) 知的財産部門
ア 知的財産に係る施策の策定に関すること。
イ 知的財産に係る教育活動及び啓発活動の企画立案・実施に関すること。
ウ 知的財産に係る情報収集及び広報に関すること。
エ 知的財産の相談に関すること。
オ 特許等の調査に関すること。
カ 特許等の出願、権利化、維持に関すること。
キ 知的財産の各種契約に関すること。
ク 知的財産の法務・紛争（訴訟を含む。）に関すること。
ケ 知的財産の活用に関すること。
コ 研究成果の技術移転に関すること。
サ その他知的財産に関すること。
(4) 国際連携部門
ア 国際交流に係る企画・立案及び実施に関すること。
イ 国際交流に係る情報、資料の収集及び情報の提供に関すること。
ウ 外国の大学等との交流協定の締結及び交流推進に関すること。
エ 地域の国際化の推進に関すること。
オ 国際交流に係る競争的資金の獲得に関すること。
カ 国際交流の評価に関すること。
キ 留学生の受入れに関すること。
ク 留学生に対する日本語及び日本事情等の教育に関すること。
ケ 留学生に対する修学上及び生活上の指導助言に関すること。
コ 留学希望者の支援に関すること。
サ その他国際交流・連携推進に関すること。

（職員）

第６条　センターに、次の各号に掲げる職員を置く。
(1) センター長
(2) 分室長
(3) 専任担当教員
(4) 兼務教員
(5) その他必要な職員

２　センターの教員人事については、センター長は、欠員補充の可否を学長に協議した上で、高知大学センター連絡調整会議の議を経て、発議を行うものとする。

（センター長）

第７条　センター長は、センターの業務を掌理する。

２　センター長は、学長が指名する。

３　センター長の任期は､当分の間、学長が定める。

（分室長）

第８条　分室長は、センター長の下に各キャンパスの業務を掌理する。

２　分室長は、センター長の推薦により、学長が任命する。

（副センター長）

第９条　センターには、必要に応じて副センター長を置くことができる。

２　副センター長は、センター長が指名する。

（部門長）

第 10 条　センターの各部門に、部門長を置く。

２　部門長は、センター長の職務を助け、部門の業務を統括する。

３　部門長は、部門所属の教員からセンター長が指名する。

（専任担当教員・兼務教員）

第 11 条　専任担当教員・兼務教員は、部門長の職務を助け、センターの業務を処理する。

（高知大学国際連携推進委員会）

第 12 条　センターに、本学における国際交流に関する事項を審議するため、高知大学国際連携推進委員会を置く。

２　高知大学国際連携推進委員会に関し必要な事項は、別に定める。

（事務）

第 13 条　　センターの事務は、研究協力部地域連携課において処理する。

（雑則）

第 14 条　この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成 17 年７月１日から施行する。

附 則

この規則は、平成 18 年４月 12 日から施行し、平成 18 年４月１日から適用する。

附 則（平成 18 年７月 12 日規則第 18 号）

この規則は、平成 18 年７月 12 日から施行し、平成 18 年４月１日から適用する。

附 則（平成 20 年３月 26 日規則第 127 号）

この規則は、平成 20 年４月１日から施行する。

附 則（平成 22 年３月 31 日規則第 124 号）

この規則は、平成 22 年４月１日から施行する。

附 則（平成 23 年３月 24 日規則第 88 号）

この規則は、平成 23 年４月１日から施行する。

附 則（平成 23 年６月 28 日規則第 11 号）

この規則は、平成 23 年７月１日から施行する。

○　高知大学国際・地域連携センター　職員等（平成 22 年度）

国際・地域連携センター

・副学長　センター長　受田　浩之　兼務
・岡豊分室長　山本　哲也　兼務
・物部分室長　石川　勝美　兼務
・地域連携課長　山下　文一
・　同 課長補佐　小松　俊彦

≪生涯学習部門≫

・部門長　教授　坂本世津夫
・生涯学習グループ
　専門職員　立花　裕
　専門職員　横山　修
　事務職員　小島公美子

≪産学官民連携部門≫

・部門長　准教授　石塚　悟史
・　特任教授　北添　英矩
・　客員教授　兵頭　正洋
・産学官民連携グループ
　（総務担当）
　専門職員　坂本　克彦
　事務職員　小島　公美子
　事務補佐員　市川　幸
　専門職員　武内　智之
　事務職員　宮内　卓也
・土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業
　特任教授　沢村　正義
　特任教授　樋口　慶郎
　特任准教授　浜口　忠信
　特任講師　吉金　優
　事務補佐員　坂本　香織
　教務補佐員　中屋　光恵（H22.6.14 より）

≪知的財産部門≫

・部門長　副学長　受田　浩之　兼務
・　客員教授　兵頭　正洋
・知的財産グループ
　（利益相反Ｇ）
　専門職員　武内　智之
　事務職員　宮内　卓也
　専門職員　坂本　克彦
　事務職員　小島公美子

≪国際交流部門≫

・部門長　教授　岩崎　貢三　兼務
・　助教　GARCIA DEL SAZ EVA
・　特任教授　菊地　智徳（H23.2.1 より）
・　客員助教　奥村　望（H22.9.1 より）
・国際交流グループ
　専門職員　横山　修
　専門職員　立花　裕
　事務職員　小島公美子

○　高知大学国際・地域連携センター　職員等（平成 23 年度）

国際・地域連携センター

・副学長　センター長　受田　浩之　兼務
・岡豊分室長　山本　哲也　兼務
・物部分室長　石川　勝美　兼務
・地域連携課長　山下　文一
・　同 課長補佐　小松　俊彦

≪地域連携・再生部門≫

・部門長特任教授　北添　英矩
・　特任講師　吉用　武史
・地域連携・再生係
　係　長　立花　裕
　事務職員　菊川　祐輔

≪産学官連携部門≫

・部門長　准教授　石塚　悟史
・　特任講師　吉用　武史
・　客員教授　兵頭　正洋
・産学官連携係（総務担当）
　係　長　伊藤　誠彦
　事務職員　知名　桂
　事務補佐員　市川　幸
・土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業
　特任教授　沢村　正義
　特任教授　樋口　慶郎
　特任教授　浜口　忠信
　特任講師　吉金　優
　事務補佐員　坂本　香織
　教務補佐員　中屋　光恵

≪知的財産部門≫

・部門長　副学長　受田　浩之　兼務
・　客員教授　兵頭　正洋
・知的財産係
　係　長　武内　智之
　事務職員　野上　紗代

≪国際連携部門≫

・部門長　教授　岩崎　貢三　兼務
・部門長　教授　谷口　雅基　兼務
・　准教授　神埼道太郎
・　准教授　林　翠芳
・　准教授　大塚　薫
・　助教　GARCIA DEL SAZ EVA
・　特任教授　菊地　智徳
・　客員助教　奥村　望
・国際連携室
　室　長　北岡由美子
　専門職員　都築　正子
・国際連携係
　係　長　横山　修
　係　員　吉本　昌代
　係　員　溝渕　菜美
　事務補佐員　池川佳余子
　事務補佐員　岩郷　晴美

高知大学国際・地域連携センター運営戦略室規則

平成23年６月28日

（趣旨）

第１条　この規則は、高知大学国際・地域連携センター（以下「センター」という。）規則（平成 17 年規則第 525 号）第４条の規定に基づき、高知大学国際・地域連携センター運営戦略室（以下「運営戦略室」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

（組織）

第２条　運営戦略室は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

(1)　センター長

(2)　岡豊分室長及び物部分室長

(3)　地域連携・再生部門長、産学官連携部門長、知的財産部門長及び国際連携部門長

(4)　研究協力部長

(5)　その他センター長が必要と認めた者

（業務）

第３条　運営戦略室は、次の業務を行う。

(1)　企画・戦略及び運営・評価に関する事項

(2)　中期目標・中期計画及び年度計画に関する事項

(3)　各部門の事業計画及び実施に関する事項

(4)　財務に関する事項

(5)　人事に関する事項

(6)　規則の制定・改廃に関する事項

(7)　その他センターの業務に関する必要な事項

（運営戦略室会議）

第４条　運営戦略室に、前条の業務を行うため、運営戦略室会議を置く。

２　運営戦略室会議に関し必要な事項は、別に定める。

（専門委員会等）

第５条　センターの業務に係る必要な事項を審議するため、必要に応じて専門委員会等を置くことができる。

２　専門委員会等に関し必要な事項は、別に定める。

（事務）

第６条　運営戦略室の事務は、研究協力部地域連携課において処理する。

（雑則）

第７条　この規則に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附　則

この規則は、平成 23 年 7 月 1 日から施行する。

高知大学国際・地域連携センター運営戦略室名簿（22年度）

平成22年4月1日

組　　職	部局・職名	氏　　名	備　　考
センター長	副学長・本センター長	受　田　　浩　之	
岡豊分室長	教育研究部医療学系 臨床医学部門　教授	山　本　　哲　也	
物部分室長	教育研究部自然科学系 農学部門　教授	石　川　　勝　美	
生涯学習部門長	本センター教授	坂　本　　世津夫	教育研究部人文社会科学系人文社会科学部門
産学官民連携部門長	本センター准教授	石　塚　　悟　史	教育研究部総合科学系黒潮圏科学部門
知的財産部門長	副学長・本センター長	受　田　　浩　之	
国際交流部門長	教育研究部総合科学系 生命環境医学部門教授	岩　崎　　貢　三	
研究協力部長	研究協力部長	松　村　　仁	
センター長が必要と認めた者	理事 （地域（社会）連携担当）	中　島　　和　代	

高知大学国際・地域連携センター運営戦略室名簿（23年度）

平成23年7月1日

組　　職	部局・職名	氏　　名	備　　考
センター長	副学長・本センター長	受　田　　浩　之	
岡豊分室長	教育研究部医療学系 臨床医学部門	山　本　　哲　也	
物部分室長	教育研究部自然科学系 農学部門	石　川　　勝　美	
地域連携・再生部門長	本センター特任教授	北　添　　英　矩	
産学官連携部門長	本センター准教授	石　塚　　悟　史	教育研究部総合科学系黒潮圏科学部門
知的財産部門長	副学長・本センター長	受　田　　浩　之	
国際交流部門長	教育研究部総合科学系 生命環境医学部門教授	岩　崎　　貢　三	
国際交流部門長	教育研究部人文社会科学系 教育学部門教授	谷　口　　雅　基	
研究協力部長	研究協力部長	松　村　　仁	
センター長が必要と認めた者	理事 （地域（社会）連携担当）	中　島　　和　代	

高知大学国際連携推進委員会規則

（平成18年４月12日
規則　第　４　号）

最終改正　平成23年６月29日規則第15号

（趣旨）

第１条　この規則は、高知大学国際・地域連携センター規則第12条第２項に基づき、高知大学国際連携推進委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

（審議事項）

第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1)　国際交流及び国際交流企画に関する事項

(2)　国際交流活動の評価に関する事項

(3)　国際交流協定に関する事項

(4)　大学間等協定に基づく学生の派遣・受入れに関する事項

(5)　外国人留学生の受入れ・支援に関する事項

(6)　外国人留学生に対する修学、社会生活上の指導助言等に関する事項

(7)　その他国際交流・留学支援に関して必要と認める事項

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1)　副学長（国際・地域連携担当）

(2)　国際・地域連携センター長

(3)　総合教育センター長

(4)　総合研究センター長

(5)　国際・地域連携センター国際連携部門長

(6)　各学部、黒潮圏総合科学専攻及びセンター連絡調整会議から選出された教員　各１人

(7)　研究協力部長

(8)　その他委員長が必要と認めた者

（任期）

第４条　前条第１項第６号の委員の任期は、２年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第５条　委員会に委員長を置き、第３条各号の委員のうち理事（総務担当）が指名する者をもって充てる。

２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

３　委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

（議事）

第６条　委員会は、委員の２分の１以上が出席しなければ議事を開くことができない。

２　議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（委員以外の者の出席）

第７条　委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

（留学生専門委員会）

第８条　委員会に、外国人留学生及び海外留学を希望する学生に関する事項を審議するため、留学生専門委員会を置く。

２　留学生専門委員会に関し必要な事項は、別に定める。

（事務）

第９条　委員会の事務は、研究協力部地域連携課において処理する。

（雑則）

第10条　委員会は、必要に応じてワーキンググループを置くことができる。

２　この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

１　この規則は、平成18年４月12日から施行し、平成18年４月１日から適用する。

２　高知大学国際交流委員会規則（平成16年４月１日規則第354号）は、廃止する。

附　則（平成20年３月26日規則第127号）

この規則は、平成20年４月１日から施行する。

附　則（平成20年６月12日規則第18号）

この規則は、平成20年６月12日から施行する。

附　則（平成23年４月18日規則第２号）

この規則は、平成23年４月18日から施行する。

附　則（平成23年６月29日規則第15号）

この規則は、平成23年７月１日から施行する。

高知大学国際・地域連携センター自治体連携室利用内規

平成 23 年 7 月 1 日

（設置）

第１条　地域との連携を推進するため、高知大学国際・地域連携センター規則（平成 17 年 7 月 1 日施行）第 14 条の規定に基づき、高知大学国際・地域連携センター（以下「センター」という。）に自治体連携室を置く。

（利用の原則）

第２条　自治体連携室の利用は、自治体との情報共有・情報交換等の交流や協議・打合せ等を行う場合、連携協定を締結する自治体が一時的な活動の拠点とする場合及び地域との連携に資するためセンターが必要と認める場合とする。

（利用の手続）

第３条　連携協定を締結する自治体が一時的な活動の拠点として自治体連携室を利用する際には、別に定める書面をもって、使用の手続きを行うものとする。

２　前項の手続きを経て使用する場合は、使用料は徴収しないものとする。

（利用時間）

第４条　自治体連携室の利用時間は、平日 8 時 30 分～17 時 15 分とする。ただし、事前にセンター長が認めたときは、22 時まで延長することができる。

（管理）

第５条　自治体連携室の管理は、地域連携課地域連携・再生係（仮称）において行う。

（雑則）

第６条　この要領に定めるもののほか、自治体連携室に関し必要な事項はセンターが別に定める。

附　則

この規則は、平成 23 年 7 月 1 日から施行する。

高知大学 Kochi University

- **学部** Faculty
  - 人文学部 Faculty of Humanities and Economics
    - 人間文化学科 Department of Human Culture
    - 国際社会コミュニケーション学科 Department of International Studies
    - 社会経済学科 Department of Economics and Social Sciences
  - 教育学部 Faculty of Education
    - 学校教育教員養成課程 Teacher Training Course for Schools
    - 生涯教育課程 Lifelong Learning Course
    - 附属教育実践総合センター Center for Educational Research and Teacher Development
    - 附属幼稚園 Affiliated Kindergarten
    - 附属小学校 Affiliated Elementary School
    - 附属中学校 Affiliated Junior High School
    - 附属特別支援学校 Affiliated Special Education School
  - 理学部 Faculty of Science
    - 理学科 Department of Natural Science
    - 応用理学科 Department of Applied Science
    - 附属高知地震観測所 Kochi Earthquake Observatory
    - 附属水熱化学実験所 Research Laboratory of Hydrothermal Chemistry
  - 医学部 Medical School
    - 医学科 Medical Course
    - 看護学科 Nursing Course
    - 附属病院 School Hospital
    - 附属医学情報センター Center of Medical Information Science
    - 附属システム糖鎖生物学教育研究センター Kochi-System Glycobiology Center
    - 附属先端医療学推進センター Center for Innovative and Transtational Medicine
  - 農学部 Faculty of Agriculture
    - 農学科 Department of Agriculture
    - 附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター Education and Research Center for Subtropical Field Science
- **大学院** Graduate School
  - 総合人間自然科学研究科 Graduate School of Integrated Arts and Sciences
    - （修士課程）(Master's Course)
      - 人文社会科学専攻 Humanities and Social Sciences
      - 教育学専攻 Studies in Education
      - 理学専攻 Studies in Science
      - 医科学専攻 Medical Science
      - 看護学専攻 Nursing Science
      - 農学専攻 Agricultural Science
    - （博士課程）(Doctoral Course)
      - 応用自然科学専攻 Studies in Applied Science
      - 医学専攻 Medicine
      - 黒潮圏総合科学専攻 Kuroshio Science
  - 愛媛大学大学院 連合農学研究科博士課程（後期3年） The United Graduate School of Agricultural Sciences, Ehime University (Doctoral Course)
    - 生物資源生産学専攻 Bioresource Production Science
    - 生物資源利用学専攻 Applied Bioresource Science
    - 生物環境保全学専攻 Life Environmental Conservation
- **全国共同利用・共同研究拠点** Nationwide Joint-use Facility
  - 海洋コア総合研究センター Center for Advanced Marine Core Research
- **学内共同教育研究施設** University Facility
  - 総合教育センター General Education Center
    - 大学教育創造部門 Education Creativity Section
    - 入試部門 Entrance Examination Section
    - キャリア形成支援部門 Career Planning Support Section
    - 社会協働教育部門 Section for Social Collaboration in Education
    - 修学支援部門 Student Support Division
  - 総合研究センター Science Research Center
    - 海洋部門 Oceanography Section
    - 生命・機能物質部門 Life and Functional Material Section
    - 防災部門（南海地震防災支援センター） Disaster Prevention Section (Center for Disaster Prevention, Support, & Research for Nankai Earthquake)
  - 国際・地域連携センター Center for Regional & International Collaboration
    - 岡豊分室 Oko Branch Office
    - 物部分室 Monobe Branch Office
    - 地域連携・再生部門 Lifelong Learning Section
    - 産学官連携部門 Joint Research & Development Section
    - 知的財産部門 Intellectual Property Section
    - 国際連携部門 International Relations Section
  - 総合情報センター Integrated Information Center
    - 医学部分館 Medical School Branch
    - 農学部分館 Faculty of Agriculture Branch
    - 図書部門 Library Section
    - 情報部門 Information Section
- 保健管理センター Health Service Center
  - 医学部分室 Medical School Branch

平成　　年　　月　　日

科　学　・　技　術　相　談　申　込　書

（講師紹介・委員会や研修会等にも対応します！）

高知大学国際・地域連携センター　御中

（Tel：088-844-8555　Fax：088-844-8556　E-mail：kt04@kochi-u.ac.jp）

〒780－8073　高知市朝倉本町２－１７－４７

高知大学HP：http://www.kochi-u.ac.jp/JA/

＊受付番号：ＣＲＩＣ－

＊事務受付日：平成　　年　　月　　日

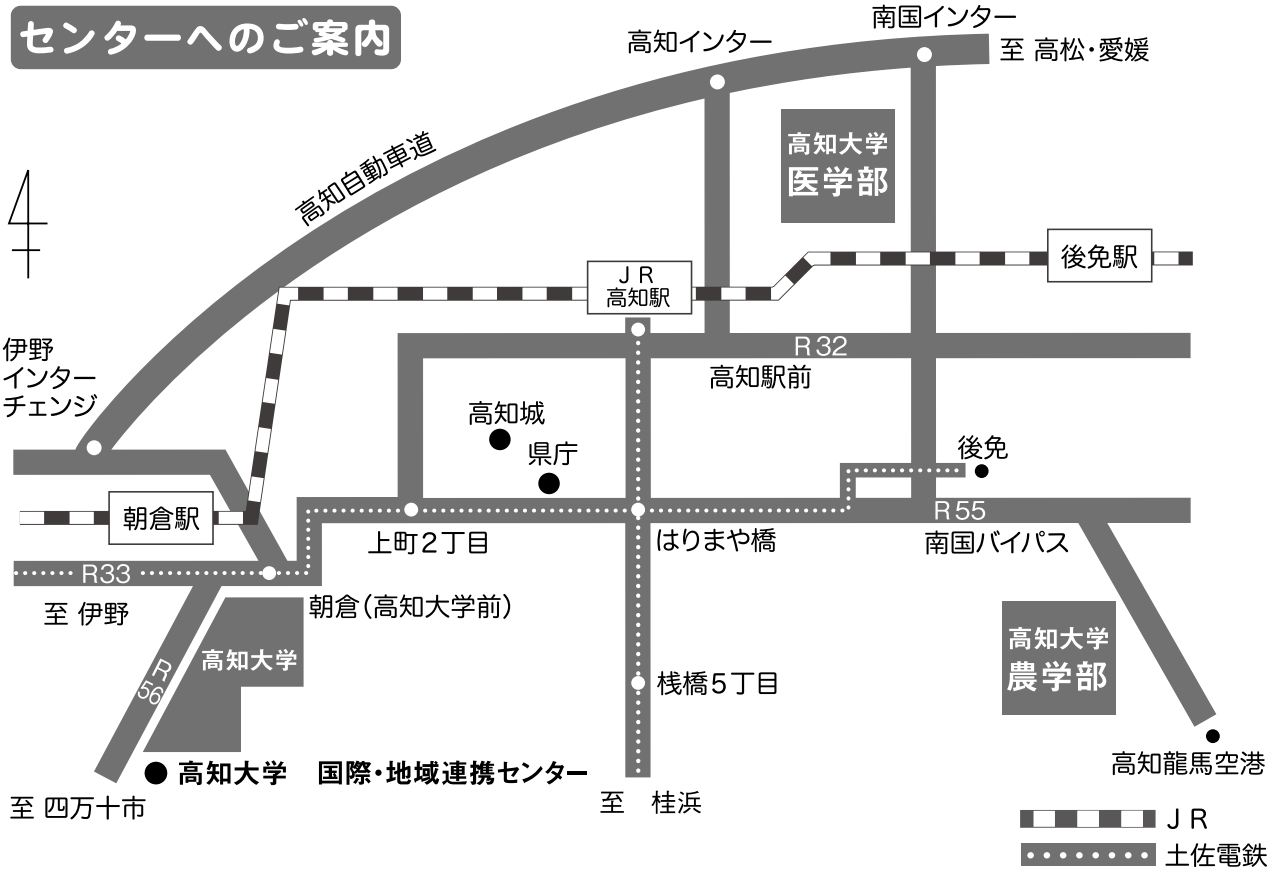
＊事務受付担当：

	紹介機関・者	Tel　（　）		
申込者	機関名			
	所属・役職		氏　名	
	連絡先	〒		
	Ｔｅｌ		Ｆａｘ	
	E-mail			
相談内容	・相談事　は、本記入用　１　につき１件でお　いします。 １．題　目 ２．相談内容（　　書きでキーワー　がわかるように記入　います。）			

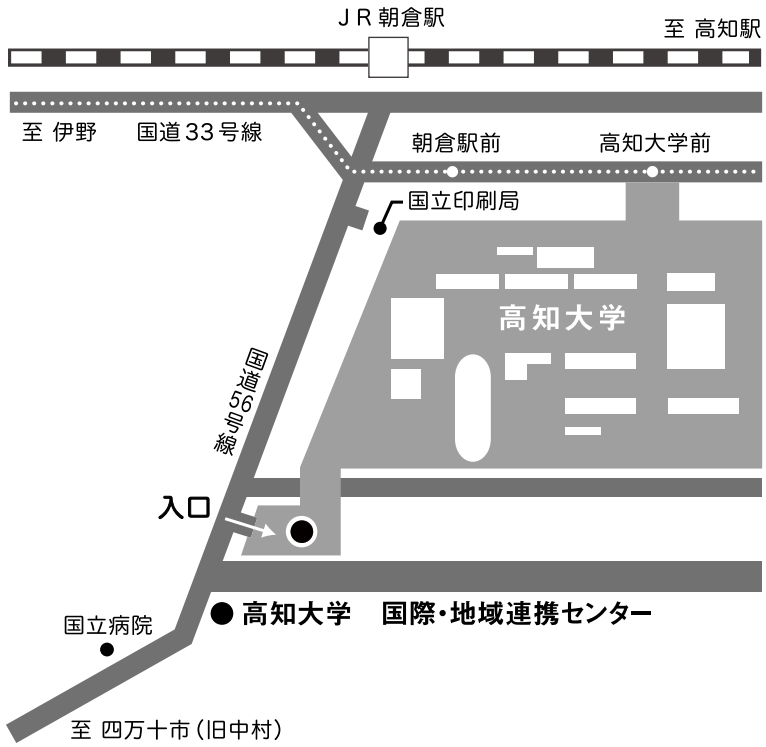
＊相談担当者（大学記入）	所属・役職		氏　名	
	Ｔｅｌ		Ｆａｘ	
	E-mail			

・本用　に相談内容をご記入の上、E-mail 、Fax　は　　でお　り　さい。（コピーしてご　用　さい）

● 交通アクセス



● 高知大学周辺地図



車での所要時間

- ●高知空港から約 45 分
- ●伊野インターチェンジから約 5 分
- ●高知駅から約 20 分

高知大学 国際・地域連携センター 年 報 2011

発行日：2011 年 10 月

発　行：国立大学法人高知大学 国際・地域連携センター

〒 780-8073　高知県高知市朝倉本町２丁目 17-47

TEL：088-844-8555　FAX：088-844-8556

http://www.kochi-u.ac.jp/JA/

印　刷：株式会社 南の風社